FUJIFILM

SUPER CCD HONEYCOM

DIGITAL CAMERA

FinePix S2 Pro



準備編

基本編

機能編 撮影

機能編 再生

設定編

接続編

使用説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき
ありがとうございます。
この説明書には、フジフイルムデジタルカメラ
ファインピックス S2 Proの使い方がまとめられています。
内容をご理解の上、正しくご使用ください。

本製品の関連情報はホームページをご覧ください。
http://www.fujifilm.co.jp/
または http://www.finepix.com/

BL00140-100(1) J

はじめに

▶ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを
大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。
＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意
あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメディア（スマートメディアおよびマイクロドライブ）の転送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

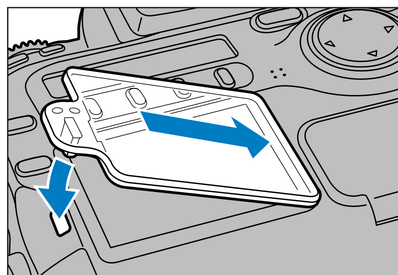
■液晶について
液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分に注意してください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。
●皮膚に付着した場合：
付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
●目に入った場合：
きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
●飲み込んだ場合：
水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意
●本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
●本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。
使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて
本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について
●iMac、Macintoshは、Apple Computer, Inc.の登録商標です。
●Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
●SmartMediaは株式会社 東芝の商標です。
●Microdriveは、米国IBM Corporationの商標です。
●その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

◆LCDカバー◆



液晶モニターの破損や汚れを防ぐため、カメラを使用しないときや持ち運ぶときは、付属のLCDカバーをカメラに取り付けてください。
LCDカバーをカメラの液晶モニター右横の溝に、差し込んでから取り付けます。

カメラの特長/付属品

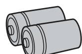
カメラの特長

- 新開発の大サイズ“ スーパーCCDハニカム ”搭載により超高解像度、高感度、高ダイナミックレンジ、高S/Nを実現
- 有効画素数617万画素
- 記録画素数4256×2848（約1212万画素）
- 非圧縮データとしてCCD-RAWデータ出力対応
- ISO100〜1600まで幅広い感度を設定可能
- プロフェッショナルの要求に応えるマルチファンクション
- 5点測距AF機能
- 30秒から1/4000秒のシャッタースピード
- シンクロターミナル装備
- 撮影間隔最短約0.5秒の軽快な操作感
- スマートメディアとマイクロドライブのダブルスロット搭載
- 用途に応じて4種類の記録画素に対応
- フィルムを選ぶ感覚でISO感度、色味、階調、シャープネスを独立して設定可能
- ヒストグラム表示機能により撮影後、即座に露光状態を確認可能
- 視野率100%の1.8型低温ポリシリコンTFTカラー液晶モニター
- IEEE1394、USB接続により簡単高速に画像ファイル転送が可能
- 簡単プリントを実現するDPOF対応
- デジタルカメラの業界統一規格DCF*準拠

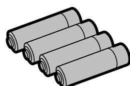
  *DCFは電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

付属品

- リチウム電池 CR123A（2本）



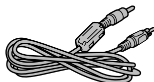
- 単3形アルカリ乾電池（4本）



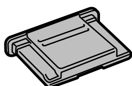
- ストラップ



- ビデオケーブル
  φ3.5mmミニプラグ×ピンプラグ：約1.5m（1本）



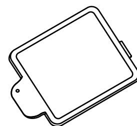
- アクセサリーシューカバー



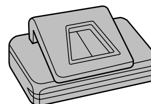
- ボディキャップ（1個）



- LCDカバー（1個）



- アイピースキャップ（1個）



- インターフェースセット（1式）
  - CD-ROM：Software for FinePix EX（1枚）
    ：Photoshop Element（1枚）
  - IEEE1394ケーブル4ピン−6ピン（1本）
  - 専用USBケーブル（1本）
  - ソフトウェア取扱ガイド（1部）
  - ソフトウェア補足ガイド（1部）
- 使用説明書（本書1部）
- 安全上のご注意（1部）
- 保証書（1部）

目次

はじめに …… 2
カメラの特長/付属品 …… 3
各部の名称 …… 7
上面表示パネルの表示例 …… 10
液晶モニターの表示例 …… 10
背面表示パネルの表示例 …… 11
ファインダーの表示例 …… 12

1 準備編
ストラップを取り付けます …… 13
カメラにレンズを取り付けます …… 14
Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを使用する場合 …… 15
このカメラに使用可能なレンズについて …… 16
メディアを入れます …… 18
スマートメディア™（別売） …… 18
マイクロドライブ（別売） …… 18
電池を入れます …… 20
使用する電池 …… 20
リチウム電池を入れます …… 20
単3形電池を入れます …… 21
電源のON/OFF・日時の設定/修正 …… 22
電池残容量の確認 …… 23
■リチウム電池の入手が困難なときは… …… 23
■各電池の用途と消耗したときの症状 …… 23

2 基本編
基本操作ガイド …… 24
コマンドダイヤル …… 27
撮影してみましょう …… 28
撮影可能枚数について …… 30
■メディア標準撮影枚数 …… 30
AFロック撮影 …… 31
画像を再生するには …… 32
視度調節機能/イルミネーターについて …… 33
被写界深度確認ボタン/距離基準マークについて …… 34

3 機能編 撮影
フォーカス設定について …… 35
■フォーカス関連のカスタムセッティング …… 35
フォーカスモードの選択 …… 36
■フォーカスモードについて …… 36
AFエリアモードの選択 …… 37
フォーカスエリアの選択 …… 38
AF補助光について …… 39
オートフォーカスが苦手な被写体について …… 40
マニュアルフォーカスについて …… 41
マニュアルフォーカス（手動）によるピント合わせ …… 41
フォーカスエイド …… 41
レリーズモード/S 1コマ・連写 …… 42
S 1コマ …… 42
連写 …… 42

3 機能編 撮影

測光モード …… 43
: 10分割マルチパターン測光 …… 43
: 中央重点測光 …… 43
: スポット測光 …… 43
ISO感度/露出モード P …… 44
プログラム線図について …… 45
露出モード S …… 46
S シャッター優先オート …… 46
露出モード A …… 47
A 絞り優先オート …… 47
露出モード M …… 48
M マニュアル …… 48
bulb バルブ撮影 …… 50
AEロック撮影 …… 51
露出補正 …… 52
BKT オートブラケティング（自動段階露出） …… 53
多重露出 …… 55
セルフタイマー …… 57
ストロボ撮影 …… 58
ストロボ撮影の設定について …… 58
内蔵ストロボについて …… 59
■内蔵ストロボで利用できる調光方式 …… 59
シンクロモードの種類と特徴 …… 60
先幕シンクロモード …… 60
SLOW スローシンクロモード …… 60
REAR 後幕シンクロモード …… 61
赤目軽減モード …… 61
SLOW 赤目軽減スローシンクロモード …… 61
■シャッタースピードについて …… 61
内蔵ストロボを使用した撮影 …… 62
■内蔵ストロボの調光範囲について …… 63
内蔵ストロボに使用可能なレンズについて …… 64
ストロボ調光補正 …… 65
補正量を確認するには …… 65
調光補正を解除するには …… 65
使用可能なニコン製ストロボについて …… 66
FUNC 撮影時のファンクションメニューの操作 …… 68
ホワイトバランス …… 69
AF エリア …… 70
クオリティー …… 71
ピクセル …… 71
カラー …… 72
トーン（階調） …… 72
シャープネス …… 73
ファンクションロック …… 73

4 機能編 再生

再生時のファンクションメニューの操作 …… 74
FUNC ヒストグラム …… 75
■ヒストグラム表示について …… 75
FUNC 1コマ消去 …… 76
FUNC 1コマプロテクト …… 77
■プロテクトを確認するには …… 77
FUNC マルチ再生 …… 78
MENU/OK 再生メニュー …… 79
消去 …… 79
全コマプロテクト設定/解除 …… 81
プリント予約 …… 82
ボイスメモ（録音） …… 84
モニター明るさ …… 86

5 設定編

SETーUP …… 87
■SETーUPメニュー一覧 …… 87
セットアップの動作 …… 87
撮影画像表示 …… 88
プレビューの操作 …… 88
カスタムWB 設定 …… 89
■適正な露出で測定されないときは …… 90
ボイスメモ …… 91
コマNo.メモリー …… 92
ツーボタンリセット …… 93
カスタムセッティング（CSM） …… 94
カスタムセッティングを解除するには …… 94
■カスタムセッティング一覧 …… 95

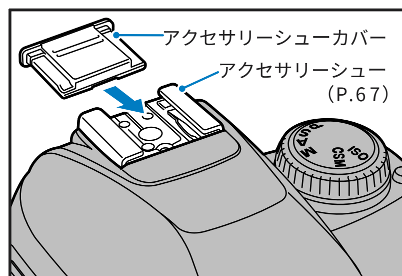
6 接続編

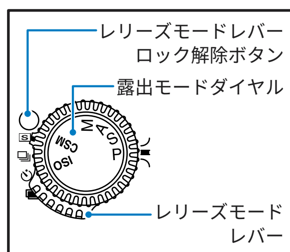
テレビに接続する/ACパワーアダプターを使う（別売） …… 97
パソコンと接続する …… 98
IEEE1394でパソコンと接続する …… 99
USBでパソコンと接続する …… 100
パソコンと接続を切るには …… 101

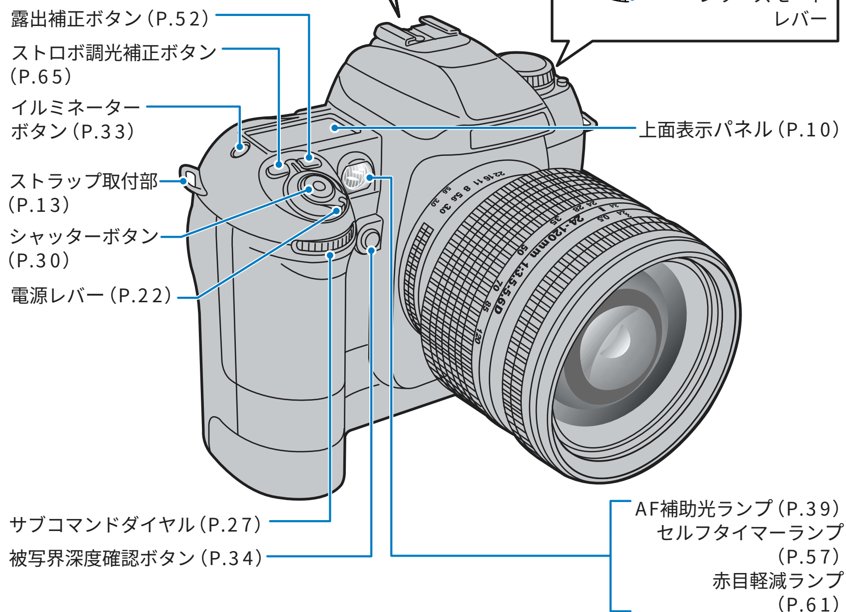
システムアップ機器（別売） …… 102
その他 別売アクセサリーの紹介 …… 103
使用上の注意 …… 105
CCDのクリーニングについて …… 106
電源についてのご注意 …… 110
使用できる電池 …… 110
電池についてのご注意 …… 110
AC パワーアダプターについてのご注意 …… 110
メディア（スマートメディア™およびマイクロドライブ）についてのご注意 …… 111
警告表示 …… 112
困ったときは …… 116
主な仕様 …… 118
用語の解説 …… 120
アフターサービスについて …… 122

各部の名称

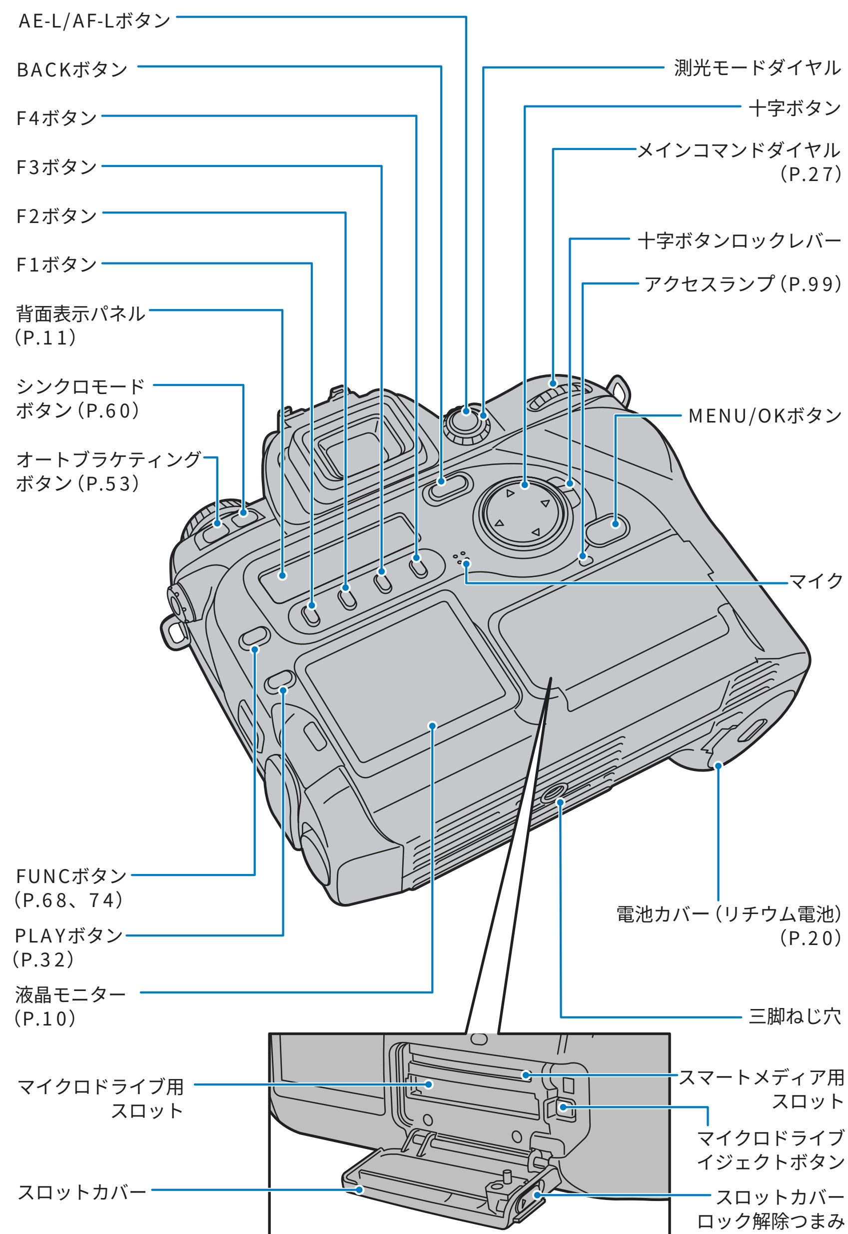
＊（　）内のページに詳しい説明があります。



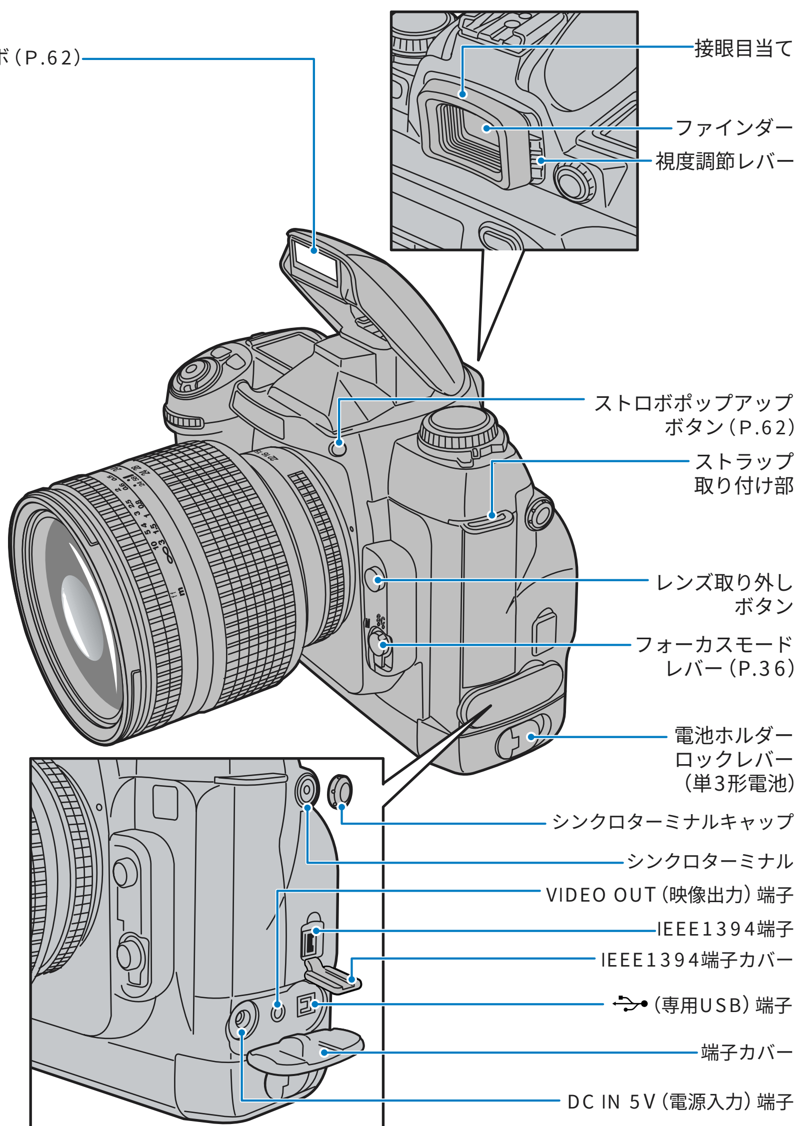




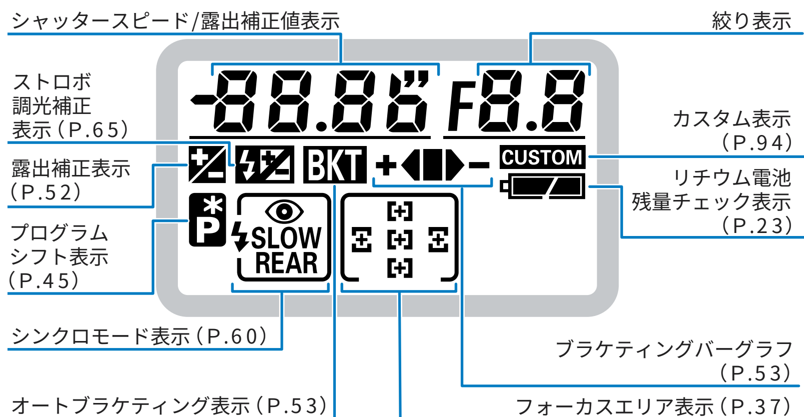
各部の名称



AE-L/AF-Lボタン
BACKボタン
F4ボタン
F3ボタン
F2ボタン
F1ボタン
背面表示パネル（P.11）
シンクロモードボタン（P.60）
オートブラケティングボタン（P.53）
FUNCボタン（P.68、74）
PLAYボタン（P.32）
液晶モニター（P.10）
マイクロドライブ用スロット
スロットカバー
測光モードダイヤル
十字ボタン
メインコマンドダイヤル（P.27）
十字ボタンロックレバー
アクセスランプ（P.99）
MENU/OKボタン
マイク
電池カバー（リチウム電池）（P.20）
三脚ねじ穴
スマートメディア用スロット
マイクロドライブイジェクトボタン
スロットカバーロック解除つまみ

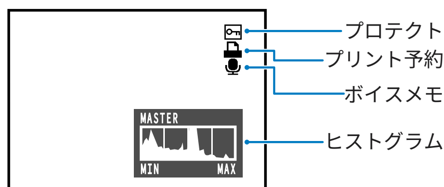

ストロボ（P.62）
接眼目当て
ファインダー
視度調節レバー
ストロボポップアップボタン（P.62）
ストラップ取り付け部
レンズ取り外しボタン
フォーカスモードレバー（P.36）
電池ホルダーロックレバー（単3形電池）
シンクロターミナルキャップ
シンクロターミナル
VIDEO OUT（映像出力）端子
IEEE1394端子
IEEE1394端子カバー
（専用USB）端子
端子カバー
DC IN 5V（電源入力）端子

上面表示パネルの表示例



上面表示パネルの液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

液晶モニターの表示例



液晶モニターの下側に明るさムラがあります。これは液晶の照明ムラであり、故障ではありません。

背面表示パネルの表示例

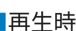
■撮影時

感度
記録中表示
単3形電池残量表示
撮影モード
メディア表示
日付/時刻
撮影可能枚数
ISO200
REC
2002.01.01
12:00 AM
1234
"FUNC"ボタンを押して機能を切り換えます。
FUNC
AUTO WB
[ ] AF
3024
STD Color
STD Tone
STD
OFF Lock
ホワイトバランス
フォーカスエリアモード
クオリティー
ピクセル
カラー
トーン（階調）
シャープネス
ファンクションロック

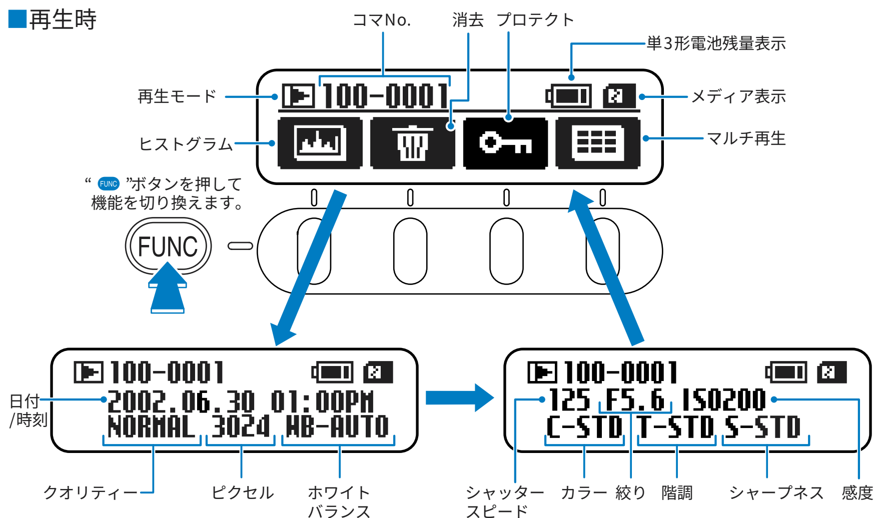


●プレビュー表示設定時

プレビュー表示
PREVIEW
記録
削除
標準チャート表示（➡P.88）
ヒストグラム（➡P.88）



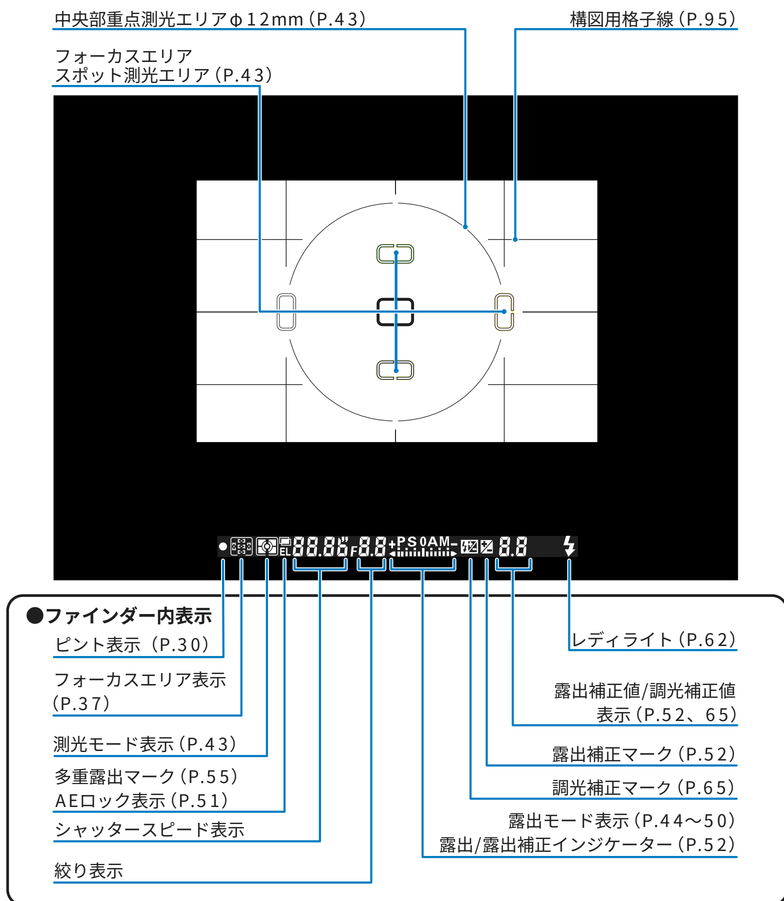
■再生時



背面表示パネルの液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

CCD-RAWの画像または非DCFファイルはコマNo.が反転表示されます。

ファインダーの表示例



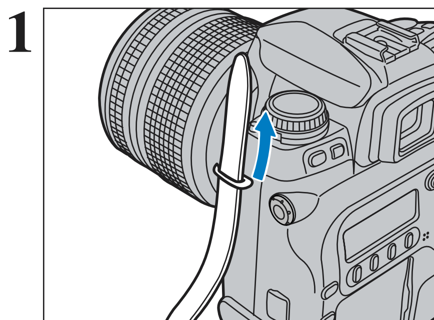
- カメラに電池が入っていない、あるいは電池容量が全くない状態では、ファインダー全体が暗くなっていますが、故障ではありません。新しい電池を入れると明るくなります。
- ファインダーの上方（フォーカスエリア、構図用格子線）の液晶表示は、高温下では薄くなり、低温下では濃くなって液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。
- ファインダー内表示（マークや数字の表示されるところ）の液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

◆バリブライト・ファーカスエリア/マルチディスプレイ・スクリーンについて◆

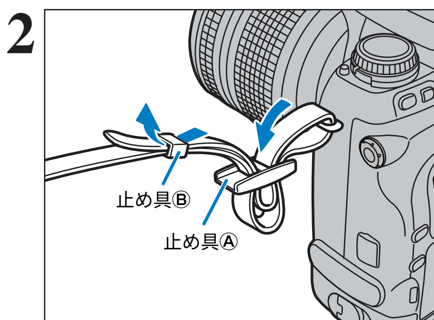
このカメラはフォーカスエリアを選択すると、選択されたフォーカスエリアがファインダースクリーン上に鮮明に表示される、バリブライト・フォーカスエリアを装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合にはフォーカスフレームを瞬間的に赤く照明しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらに、カスタムセッティング（➡94ページ）により、構図用の格子線を表示させるマルチディスプレイ・スクリーンも装備しています。この構図用の格子線は撮影時の構図決定に効果的で、風景撮影やPCニッコールを使用してあおり撮影などを行うときに便利です。

※これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側に延びる細い線が見える場合やフォーカスエリアを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

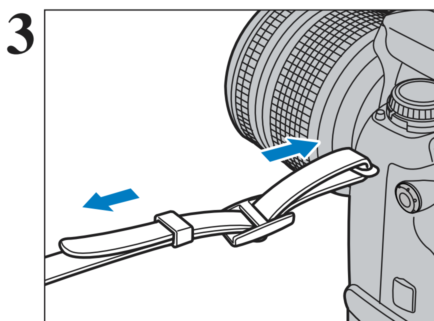
ストラップを取り付けます

1 

ストラップの先をカメラ本体のストラップ取り付け部に取り付けます。

2 

ストラップの先を止め具Ⓐ、Ⓑを図のように通します。

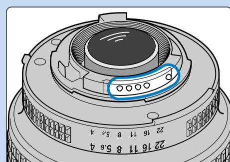
3 

長さを調節します。反対側のストラップ取り付け部にも同様の手順で取り付けます。

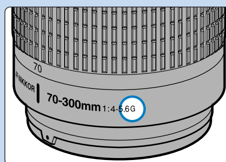
取り付け後、ゆるみがないか確認してください。

カメラにレンズを取り付けます

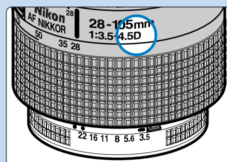
1 レンズの種類を確認します。



CPU内蔵ニッコールレンズにはCPU信号接点があります。



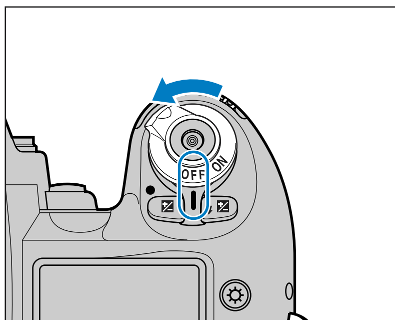
Gタイプニッコールレンズ（絞りリングなし）



Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ（絞りリングあり）

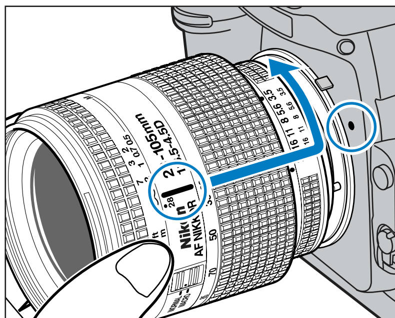
詳細は「このカメラに使用可能なレンズについて」（➡16ページ）をご参照ください。

2



電源レバーを“ OFF ”に合わせ、電源を切ります。

3

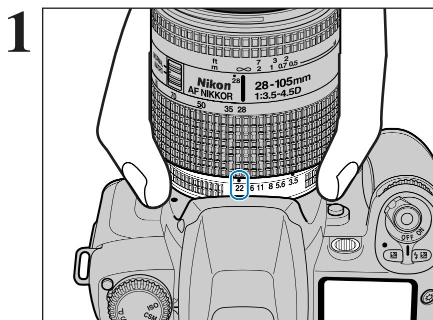


カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまで回します。

- レンズの交換は必ずゴミやほこりの少ないところで行ってください。
- レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- レンズが装着されていないとき、またはCPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、電源レバーを“ ON ”にすると上面表示パネルとファインダー内表示に“ F-- ”が点滅して警告し、シャッターがきれません。CPU内蔵ニッコール以外のレンズを使用する場合は、17ページをご覧ください。
- レンズをカメラに対して傾いた状態で取り付けようとすると、カメラのレンズ取り付け部分を傷つける可能性がありますのでご注意ください。

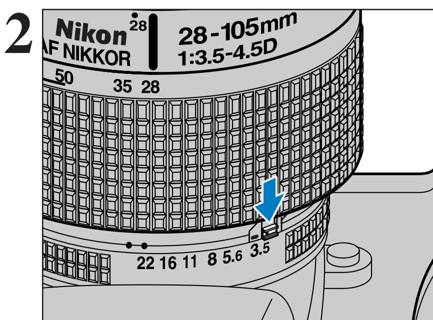
Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを使用する場合

1



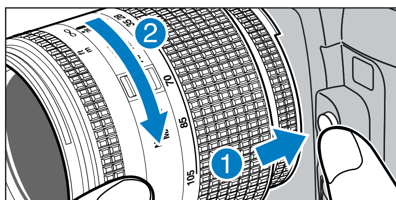
絞りリングを最小絞りにセットします。

2

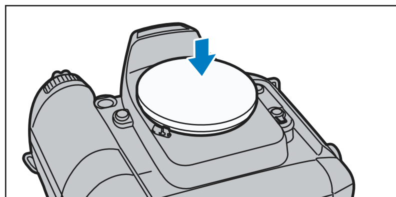


絞りリングをロックします。最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットされていないときは、電源を入れると上面表示パネルとファインダー内表示に“ FE E ”が点滅し、シャッターがきれません。

◆カメラからレンズを取り外すには◆



レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回して外します。



カメラからレンズを外しておくときは、ミラーやファインダースクリーンへのゴミやほこりの付着を防ぐために、付属のボディキャップを装着して、カメラの内部を保護してください（ニコン製ボディキャップBF-1Aもご使用になれます）。

準備編

このカメラに使用可能なレンズについて

このカメラには、CPU内蔵ニッコールレンズ（IXニッコールレンズを除く）をご使用ください。特に、DタイプまたはGタイプAFニッコールレンズを装着すれば、全ての機能が使用できます（➡14ページ）。

■CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズ等について

	モード／レンズ	フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	M以外	M	マルチパターン測光 3D-10分割	マルチパターン測光 10分割	中央部重点測光 スポット測光 ※1
CPU内蔵ニッコール※2	Dタイプ AFレンズ ※3 Gタイプ AFレンズ AF-Iレンズ AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	—	○
	PCマイクロ 85mm F2.8D ※4	—	○ ※5	○	—	○	○	—	○
	AF-I テレコンバーター ※6	○ ※7	○ ※7	○	○	○	○	—	○
	DタイプおよびGタイプ以外の AFニッコール（F3AF用を除く）	○ ※8	○ ※8	○	○	○	—	○	○
	Ai-Pニッコール	—	○ ※9	○	○	○	—	○	○
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等※10	Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、 改造Aiニッコール	—	○ ※9	○	—	△ ※11	—	—	—
	メディカル120mm f /4	—	○	○	—	△ ※12	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	○	—	△ ※11	—	—	—
	PCニッコール	—	○ ※5	○	—	△ ※11	—	—	—
	Ai-S、Ai テレコンバーター	—	○ ※7	○	—	△ ※11	—	—	—
	ベローズPB-6 ※13	—	○ ※7	○	—	△ ※11	—	—	—
	オート接写リング （PK-11A.12.13.PN-11）	—	○ ※7	○	—	△ ※11	—	—	—

※1：CPU内蔵ニッコールレンズ装着時はフォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動ができます（➡43ページ）。
※2：IXニッコールは装着できません。
※3：このカメラはVRニッコールレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※4：カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
※5：あおり操作を行っていない場合のみ可能です。
※6：AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用です（ただしAF-S ED17〜35mm f/2.8D、AF-S ED28〜70mm f/2.8Dは使用不可）。
※7：合成絞りが f/5.6以上明るい場合のみ使用できます。
※8：AF 80〜200mm f/2.8S　AF 35〜70mm f/2.8S　AF 28〜85mm f/3.5〜4.5S（New）　AF 28〜85mm f/3.5〜4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※9：開放絞りが f/5.6以上明るい場合のみ使用できます。
※10：一部装着不可能なレンズ（➡17ページ）があります。
※11：露出モードは“Mマニュアル”で使用できますが、露出計は使用できません。
※12：露出モードはマニュアル“Mマニュアル”でシャッタースピードは1/60秒以下で使用できますが、露出計は使用できません。
※13：縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことはできます）。

- メディカルニッコール200mmf/5.6はAS-15を併用しないと発光しません。
- 複写装置PF-4はカメラアダプターPA-4を併用すると装着できます。

◆GタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて◆

Gタイプニッコールレンズは、レンズ本体から絞りリングを無くしたレンズです。このため、このカメラに使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要はありません。
Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズには、絞りリングがあります。このカメラに使用する場合は、絞りリングを最小絞りにセットしてロックします。絞りリングが最小絞りにセットされていないときは、電源レバーを“ ON ”にすると表示パネルとファインダー内表示に“ FEE ”が点滅し、シャッターがきれません。

◆CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には◆

露出モードを“ **M**マニュアル ”にセットした場合のみ、CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着して撮影できます（“ **M**マニュアル ”以外の露出モードでは、シャッターはきれません）。ただし、カメラの露出計の使用や、コマンドダイヤルによる絞りのセットはできません。表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、“ F-- ”となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

◆使用できないCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等について◆

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等は使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーターTC-16AS
- Ai改造をしてないニッコールレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5　600mm f/5.6　800mm　f/8　1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6　7.5mm f/5.6　8mm f/8　OP10mm f/5.6）
- 旧21mm f/4
- K1リング、K2リング、オート接写リングPK-1、PK-11、BR-2リング、BR-4リング
- ED180～600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360～1200mm f/11（製品No.174031～174127）
- 200～600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
- F3AF用（80mm f/2.8　200mm f/3.5　テレコンバーターTC-16S）
- PC28mm f/4（No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

準備編

メディアを入れます

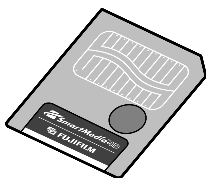
本機では記録媒体として、スマートメディアまたはマイクロドライブを使用できます。

●スマートメディアとマイクロドライブを同時にセットした場合は、SET－UPで設定されているメディアに記録されます(➡設定編87ページ)。
●本機で両メディア間のコピーは行えません。

スマートメディア™(別売)

スマートメディアは必ず3.3V仕様をお使いください。

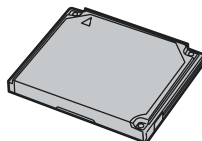
●MG-4SB(4MB)
●MG-8SB(8MB)
●MG-16SB(16MB)
●MG-16SW(16MB：ID付き)
●MG-32SB(32MB)
●MG-32SW(32MB：ID付き)
●MG-64SW(64MB：ID付き)
●MG-128SW(128MB：ID付き)



❗ライトプロテクトシールがはられていると、記録、消去ができません(➡80ページ)。
❗本カメラでの動作保証は弊社製スマートメディアのみとなります。
❗3.3V仕様品の中には「3V」または「ID」という表示のものがあります。
❗スマートメディアについてのご注意は111ページをご参照ください。

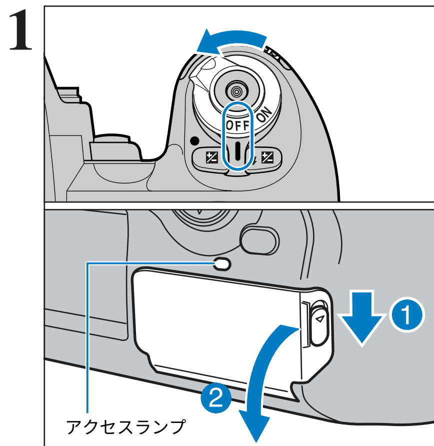
マイクロドライブ(別売)

●マイクロドライブキット MK-1(340MB)
●マイクロドライブキット MK-2(1GB)



❗マイクロドライブは小型軽量のハードディスク・ドライブです。回転系記録媒体なので、スマートメディアに比べ振動や衝撃に強くありません。
マイクロドライブを使用する場合は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分にご注意ください(特に記録中や再生中にはご注意ください)。
❗マイクロドライブ使用時はニッケル水素電池の使用をおすすめします。
❗マイクロドライブについてのご注意は111ページをご参照ください。

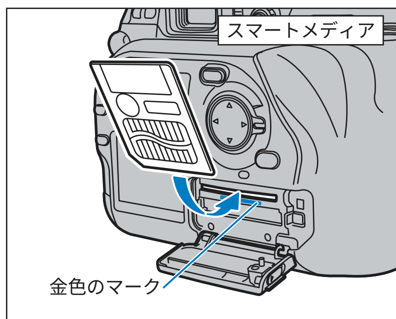
1



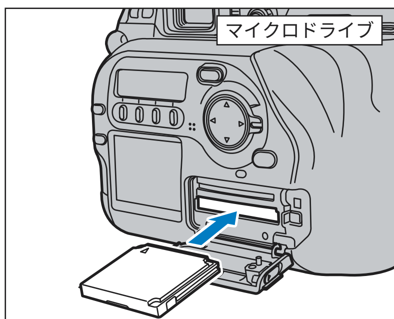
電源レバーを“ OFF ”に合わせアクセスランプが消灯していることを確認してから、スロットカバーを開けます。

> スロットカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。メディア、または画像ファイルなどが破壊されることがあります。

2



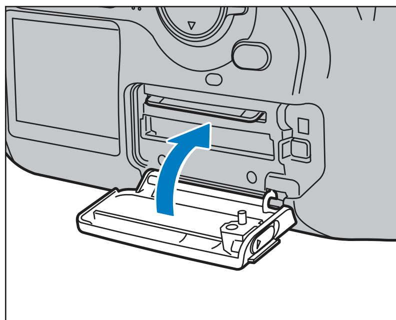
スマートメディアスロットの金色のマーク側にスマートメディアの端子部分（金色の部分）を合わせて確実に奥まで差し込みます。



マイクロドライブスロットにマイクロドライブを確実に奥まで差し込みます。

❗電源が入った状態でスロットカバーを開けると、保護のため電源が切れます。
❗向きが間違っていると奥まで入りません。また、無理な力を加えないでください。

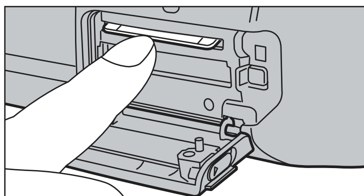
3



スロットカバーを閉めます。

◆スマートメディアの交換◆

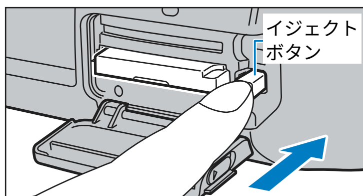
電源レバーを“OFF”に合わせアクセスランプが消灯していることを確認してからスロットカバーを開け、スマートメディアを「軽く押し込む」と、スマートメディアが少し飛び出しますので、簡単に取り出せます。



❗スマートメディアを保管するときは、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。

◆マイクロドライブの交換◆

電源レバーを“OFF”に合わせアクセスランプが消灯していることを確認してからスロットカバーを開け、イジェクトボタンを押してマイクロドライブを取り出します。



❗マイクロドライブを保管するときは、必ず専用の保護ケースに入れてください。

電池を入れます

使用する電池

●CR123Aタイプ：2本（リチウム電池）
●単3形電池：4本（アルカリ乾電池またはニッケル水素電池）

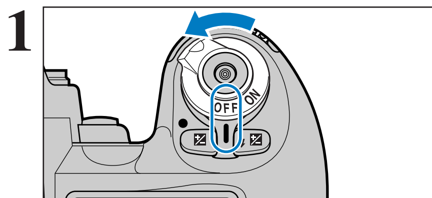
◆電池について◆



- 外装チューブが破れたりはがれている電池は絶対に使用しないでください。ショートにより電池の液もれ、発熱により重大な事故の原因となります。
- 単3形のリチウム電池、マンガン乾電池、ニカド電池は使用しないでください。
- 種類の違う電池や、新しい電池と使用した電池を混ぜて使用しないでください。
- アルカリ乾電池は銘柄により電池寿命に差があり、付属のアルカリ乾電池に比べ、電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、寒冷地（＋10℃以下）では使用時間が短くなります。
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると、電池作動可能時間が極端に短くなることがあります。
- 電池についてのご注意は110ページをご参照ください。

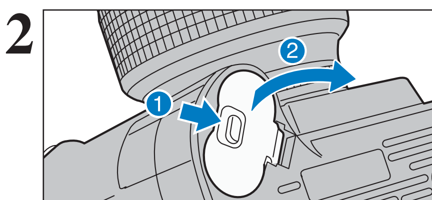
リチウム電池を入れます

1



電源レバーを“OFF”に合わせ、電源を切ります。

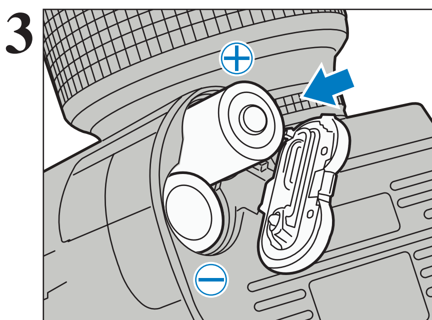
2



電池カバーを開けます。

! 電池カバーに無理な力を加えないでください。

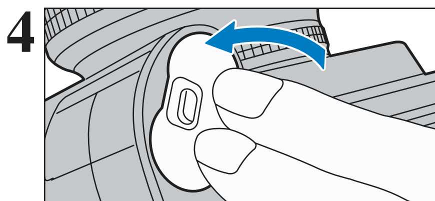
3



カメラの⊕⊖表示にしたがってリチウム電池を入れます。

! 電池カバーを開閉するときは、電池を落とさないように注意してください。

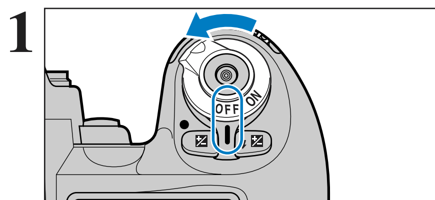
4



電池カバーを確実に閉じます。

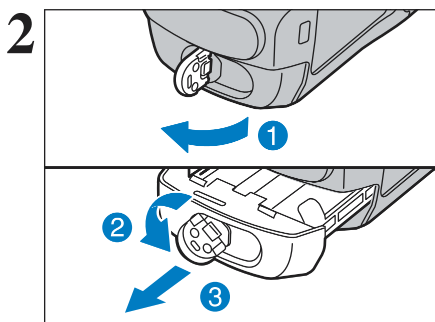
単3形電池を入れます

1



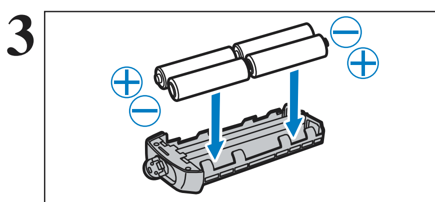
電源レバーを“ OFF ”に合わせ、電源を切ります。

2



❶電池ホルダーロックレバーを起こします。
❷電池ホルダーロックレバーを反時計方向に回してロックをはずします。
❸電池ホルダーを引き出します。

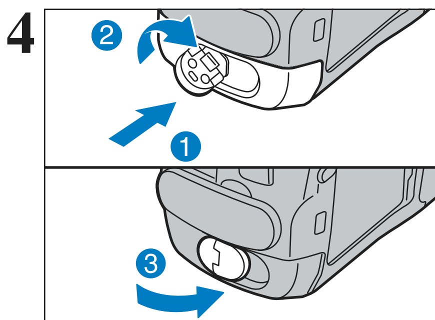
3



電池ホルダーの⊕⊖表示にしたがって、電池を入れます。

電池ホルダーロックレバーの反対側のすき間から電池を押し上げると、電池は簡単に取り出せます。

4

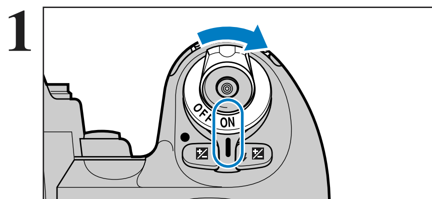


電池ホルダーを押し込みながら電池ホルダーロックレバーを時計方向に回して確実にロックします。

準備編

電源のON/OFF・日時の設定/修正

1



電源を入れるには、電源レバーを“ ON ”に合わせます。
電源を切るには“ OFF ”に合わせます。

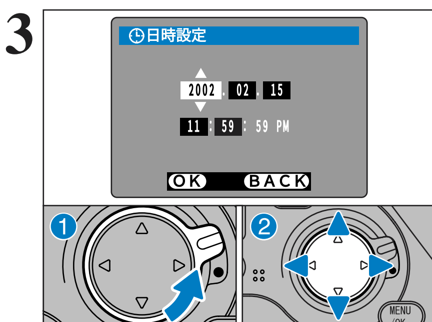
2



初めて電源を入れると、日付がクリアされています。“ MENU/OK ”ボタンを押して日時を設定します。

あとで設定するときは“ BACK ”ボタンを押します。
日時を設定しないと電源を入れるたびに確認画面が表示されます。

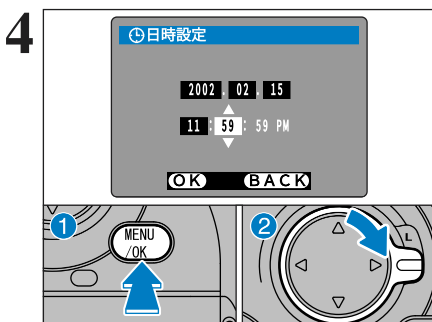
3



❶十字ボタンのロックを解除します。
❷“ ◀▶ ”で年・月・日・時・分を選び、“ ▲▼ ”で修正します。

“ ▲ ”または“ ▼ ”を押し続けると数字が連続して変わります。
時刻表示で“ 12:00:00 ”を越えると、自動的にAM/PMが切り換わります。

4



❶“ MENU/OK ”ボタンを押します。
実行すると撮影モードになります。
❷誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

秒は設定できませんが、時刻を正確に合わせたいときは時報のゼロ秒時に“ MENU/OK ”ボタンを押します。
設定した日時は、ACパワーアダプターを接続または電池を入れて約2日間以上経過していれば、カメラから両方とも取り外しても、約半年間保持されます。

日時を修正するには

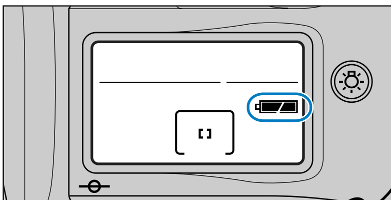
❶“ MENU/OK ”ボタンを押して、SET−UP画面を表示させます。
❷“ ▲▼ ”で日時設定を選び、“ ▶ ”を押します。

電池残容量の確認

電源を入れ電池残容量表示を確認します。
❶電池の容量は十分です。
❷電池の残容量が不足しています。まもなく電源が切れますので、電池の交換をおすすめします。
❸電池の容量がありません。必ず電池を交換してください。表示が消えて動作が終了したあと、表示は点灯にもどります。

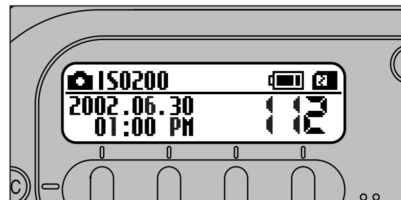
画像を保存中に電源が切れてしまうと、撮影した画像を保存することができません。画像の保存に時間がかかる撮影（連写や、クオリティーを“HIGH”にして撮影）をするときは、電池残容量にご注意ください。

リチウム電池の場合（上面表示パネル）



❶ 点灯
❷ 点灯
❸ 点滅

単3形電池の場合（背面表示パネル）



❶ 点灯
❷ 点灯
❸ 点滅

■リチウム電池の入手が困難なときは...
内蔵ストロボを使った撮影はできなくなりますが、単3形ニッケル水素電池（4本）のみで使用することができます。単3形ニッケル水素電池（4本）のみで使用するときは、使用済みのリチウム電池をカメラから取り出して下さい。
使用可能時間が短くなりますので、あくまでも緊急時の対処法となります。また、上面/背面表示パネルともに単3形ニッケル水素電池の電池残容量表示として機能します。

＊リチウム電池の入手が困難と思われる場所で撮影するときは、「予備のリチウム電池」をご用意いただくか、緊急用に「充電済みのニッケル水素電池」を携帯することをおすすめします。
＊アルカリ乾電池のみでは使用できません。

■各電池の用途と消耗したときの症状

	用　途	消耗したときの症状
単3形電池	画像処理	上面表示パネルに“Err”が表示される。
リチウム電池 CR123A	オートフォーカス、絞り、ミラー、シャッターなどの駆動およびストロボの充電	電源が入らない。

◆オートパワーオフ機能◆

電源を入れたまま放置すると、自動的に電源が切れる機能です（➡96ページ）。
オートパワーオフした場合は、シャッターボタンを半押ししたり、イルミネーターボタンを押すと、電源が入ります。オートパワーオフしていても電池を多少消費しています。

基本操作ガイド

●アクセサリーシュー
ここに外部ストロボを取り付けます。

●ストロボポップアップボタン
内蔵ストロボを使うときに、このボタンを押してストロボをポップアップします。

●電源レバー
電源をON/OFFします。

●被写界深度確認ボタン
被写界深度の確認ができます。

●シンクロターミナル
シンクロコードを必要とするストロボ接続するときに使用します。

●レンズ取り外しボタン
このボタンを押しながらレンズを取り外します。

●フォーカスモードレバー
AF-S（シングルAFサーボ）、AF-C（コンティニュアスAFサーボ）、M（マニュアル）を切り換えます。

●レリーズモードレバーロック解除ボタン
このボタンを押しながら、レリーズモードレバーを動かします。

●露出モードダイヤル
露出モード・カスタムセッティング・ISO感度を切り換えます。
P プログラムオート
S シャッター優先オート
A 絞り優先オート
M マニュアル
CSM カスタムセッティング
ISO ISO感度

●レリーズモードレバー
1コマ・連写・セルフタイマー・多重露出を切り換えます。

●露出補正ボタン
メインコマンドダイヤルと併用して、露出補正の値を選択します。

●サブコマンドダイヤル
絞り、その他の設定値を変更します。

●シャッターボタン
半押しすると、撮影モードへの復帰を行います。全押しすると撮影されます。

●ストロボ調光補正ボタン
メインコマンドダイヤルと併用して、ストロボの調光補正量を選択します。

●イルミネーターボタン
上面表示パネルを照明します。

●上面表示パネル
ファインダー内に表示されている情報や、その他の情報が表示されます。

●メインコマンドダイヤル
シャッタースピード、その他の設定値を変更します。

●オートブラケティングボタン
ダイヤルと併用して、オートブラケティングを設定します。
メインコマンドダイヤル：オートブラケティングのON/OFF
サブコマンドダイヤル：撮影枚数・補正値の組み合わせを選ぶ

●シンクロモードボタン
メインコマンドダイヤルと併用して、シンクロモードを選択します。

●接眼目当て
これを外してから、視度調節します。

●視度調節レバー
ファインダー内の像を見やすくします。フォーカスエリアが最もシャープに見える位置にあわせてください。

●AE-L/AF-Lロックボタン
押している間、露出とピントを固定します。

●測光モードダイヤル
マルチ・中央重点・スポットを切り換えます。

●FUNCボタン
背面表示パネルの表示内容を切り換えます。

●背面表示パネル
撮影と再生時の情報を表示します。

●BACKボタン
メニュー画面で、取りやめるときに、このボタンを押します。

●十字ボタンロックレバー
十字ボタンを使用するときに、解除します。

●F1～F4ボタン
背面表示パネルでの選択に使います。

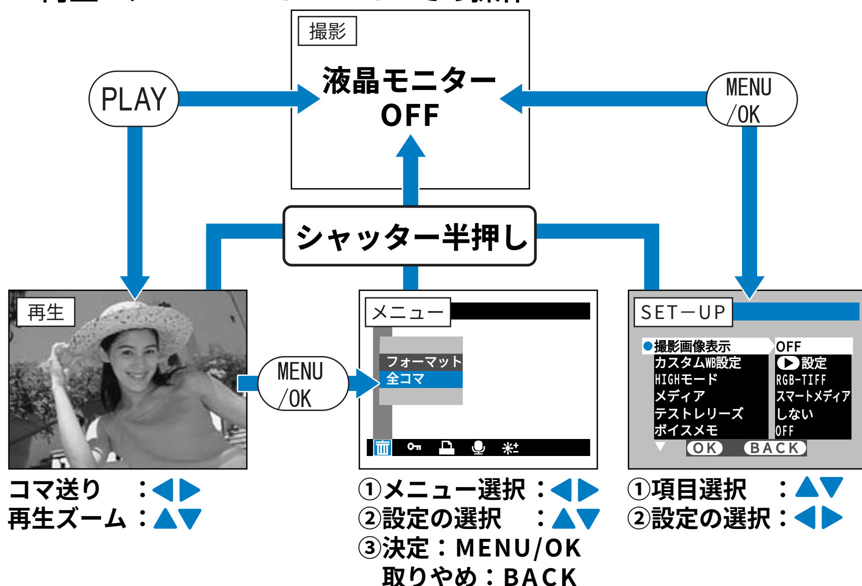
●MENU/OKボタン
メニュー画面で、決定するときに、このボタンを押します。

●十字ボタン
メニューの選択、フォーカスエリアの選択を行います。

●PLAYボタン
再生画面の表示・非表示を切り換えます。

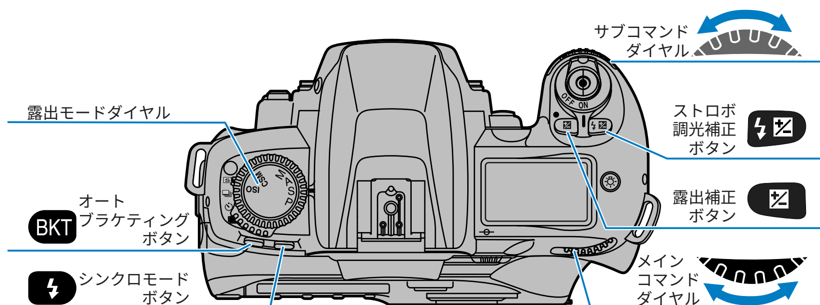
FUNC
PLAY
BACK
MENU /OK

●再生・メニュー・SET−UPでの操作



コマンドダイヤル

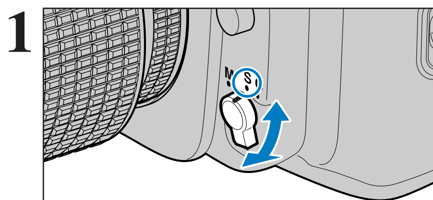
このカメラには2種類のコマンドダイヤルがついています。各操作ボタンと併用、または単独操作で次のような設定ができます。



設　定	露出モード設定	操　作
プログラムシフト	“ P ”	メイン
シャッタースピードの設定	“ S・M ”	遅 メイン 速
絞り値の設定	“ A・M ”	開 サブ 絞
露出補正量の設定	“ P・S・A・M ”	露出補正ボタン ＋ メイン
オートブラケティングのON/OFF	“ P・S・A・M ”	BKT ＋ メイン
オートブラケティングの撮影枚数と補正ステップの設定		BKT ＋ サブ
シンクロモードの設定	“ P・S・A・M ”	シンクロモードボタン ＋ メイン
ストロボ調光補正量の設定		ストロボ調光補正ボタン ＋ メイン
感度の設定	“ ISO ”	メイン
カスタムセッティングの項目の選択	“ CSM ”	メイン
カスタムセッティングの設定の変更		サブ

撮影してみましょう

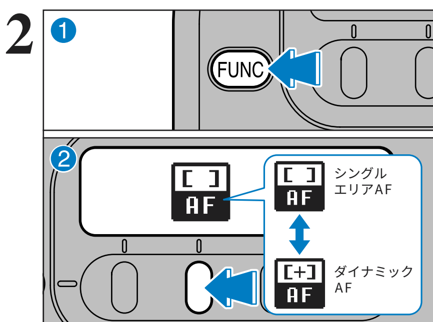
1



フォーカスモードレバーを**S**（シングルAFサーボ）に合わせます。

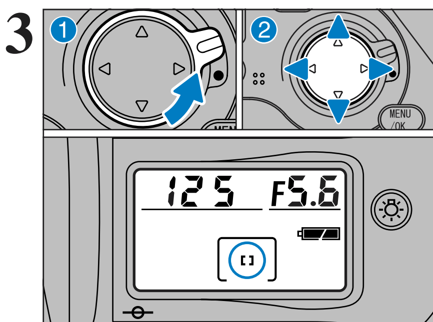
フォーカスモードレバーの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。

2



❶“ FUNC ”ボタンを押して、背面表示パネルにAF設定を表示させます。
❷“ F2 ”ボタンを押して、“ シングルエリア ”に設定します。

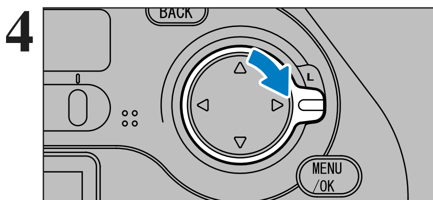
3



❶十字ボタンのロックを解除します。
❷“ ▲▼◀▶ ”でフォーカスエリアを中央に合わせます。

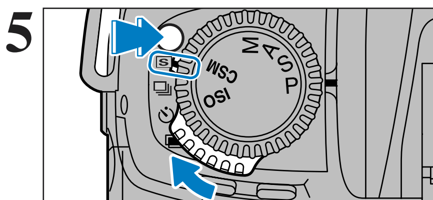
選択されているフォーカスエリア表示が上面表示パネルとファインダー内表示およびファインダースクリーン上に点灯します（➡37ページ）。

4



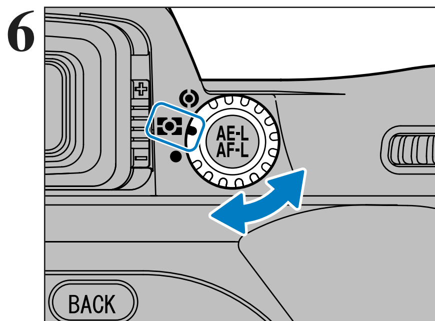
誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

5



レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーを“ S 1コマ ”に合わせます。

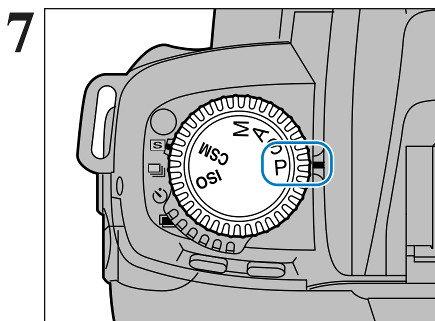
6



測光モードダイヤルを“ マルチパターン測光 ”に合わせます。

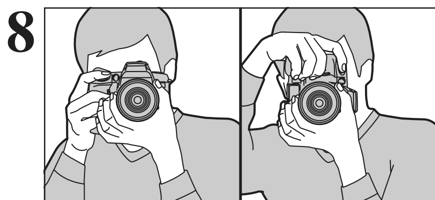
ファインダー内表示に“ ”が点灯します。

7



露出モードダイヤルを“ **P**マルチプログラムオート ”に合わせます。

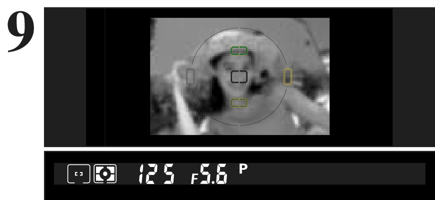
8



両脇を締め、両手でカメラを構えます。

レンズに指や、ストラップが掛からないようにしてください。

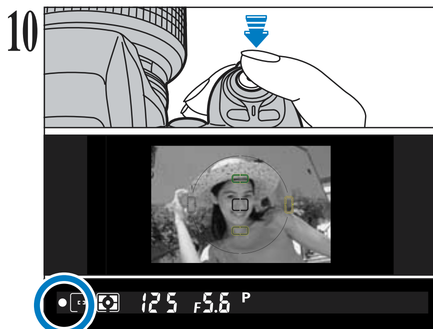
9



被写体を中央のフォーカスエリアに重ねます。

被写体がAFフレームから外れてしまう場合は、フォーカスエリアを移動するか、AFロック撮影を行ってください（➡31ページ）。

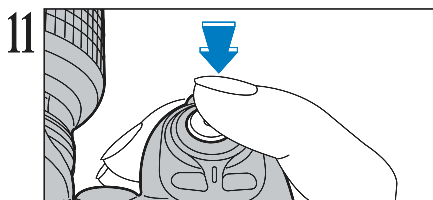
10



シャッターボタンを半押しすると、ピントが合い、ファインダー内表示に“ ●ピント表示 ”が点灯します。

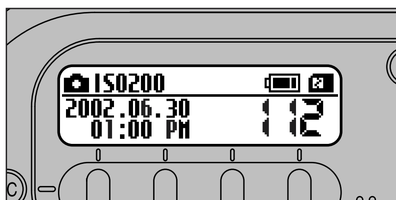
ピント表示が点滅の場合は、ピント合わせができず、シャッターは切れません。

11



半押しのままさらにシャッターを押し込むと(全押し)、撮影されます。

撮影可能枚数について



背面表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

ピクセル(画像サイズ)/クオリティー(圧縮率)の変更は、71ページをご参照ください。

工場出荷時設定は、3024(ピクセル)、N(クオリティー:NORMAL)です。

■メディア標準撮影枚数

被写体によって記録されるデータ量が一定ではないため、記録後の撮影可能枚数が減らないか、または2コマ減る場合があります。また、撮影枚数はメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル(記録画素数)	4256 4256×2848(約1212万)				3024 3024×2016(約609万)			2304 2304×1536(約353万)			1440 1440×960(約138万)		
クオリティー	HIGH TIFF-RGB	HIGH CCD-RAW	FINE	NORMAL	HIGH TIFF-RGB	FINE	NORMAL	HIGH TIFF-RGB	FINE	NORMAL	HIGH TIFF-RGB	FINE	NORMAL
画像1枚のファイルサイズ	約35.5MB	約12.4MB	約4.7MB	約2.2MB	約17.9MB	約2.3MB	約1.1MB	約10.4MB	約1.3MB	約660KB	約4.1MB	約690KB	約350KB
MG-16S(16MB)	0	1	3	6	0	6	13	1	10	23	3	22	44
MG-32S(32MB)	0	2	6	13	1	12	27	3	22	47	7	45	89
MG-64S(64MB)	1	4	13	28	3	26	55	6	45	94	15	92	180
MG-128S(128MB)	3	9	26	56	7	52	112	12	90	189	30	185	362
MK-1(340MB)	9	26	73	156	19	145	307	33	249	525	84	507	992
MK-2(1GB)	29	80	220	468	58	437	912	100	746	1564	254	1492	2986

＊メディアをフォーマットした状態の撮影可能枚数です。

AFロック撮影

1 シングルエリアAFでフォーカスエリアが中央のときにこのような構図で撮影すると、被写体（この場合は人物）からフォーカスエリアが外れているためピントが合いません。

2 被写体が中央のフォーカスエリアに重なるようにカメラを少し動かします。

3 そのままシャッターボタンを半押し（AFロック）し、ファインダー内表示に“ ●ピント表示 ”が点灯されるのを確認します。

フォーカスモード“ AF-C ”のときは、シャッターボタンを半押ししたまま“ AE-L/AF-L ”ボタンを押します（➡51ページ）。

4 シャッターボタンを半押し（AFロック）のまま最初の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込みます。

AFロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

AFロック撮影は、どのような撮影方法でも有効です。AFロックをうまく活用しましょう。

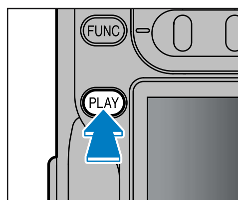
◆AF（オートフォーカス）でピントが合わないときは◆

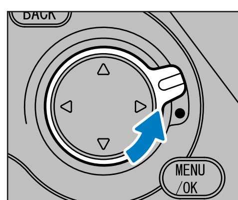
- フォーカスエリアをほぼ同じ距離の他の被写体に合わせシャッターボタンを半押しし、構図を決め直して撮影します。
- フォーカスモードを“ **M**マニュアル ”に設定して、ピントを合わせて撮影することもできます。

基本編

画像を再生するには

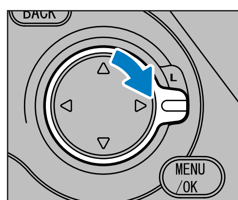
画像を再生するには“ PLAY ”ボタンを押します





十字ボタンを使用するにはロックを解除します。

画像を見終わったら



誤操作を防ぐためロックします。

コマ送り、早送り



“ ◀▶ ”で画像を送ることができます。
約1秒間押し続けると早送りできます。

早送り中は少し粗い画像になります。

ズーム



“ ▲▼ ”で画像をズーム（拡大）します。

PLAY ズームと移動を切り換えます。

移動



“ ▲▼◀▶ ”で見える範囲を移動します。

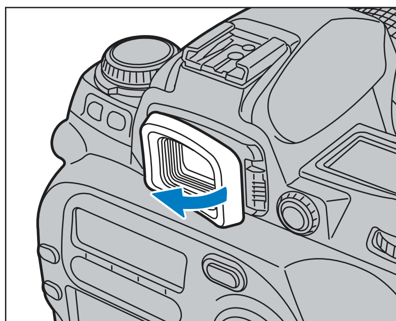
“ BACK ”でコマ送りに戻れます。

撮影に戻るにはコマ送りのときに“ PLAY ”ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。

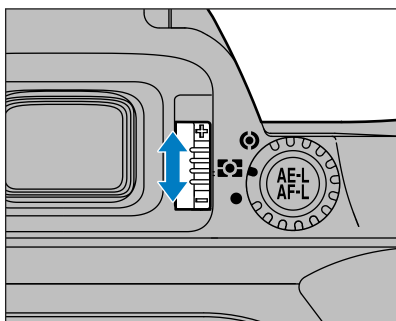
視度調節機能/イルミネーターについて

視度調節機能

視度調節機能により、ファインダー内の像を見やすくできます。



接眼目当てを取り外します。



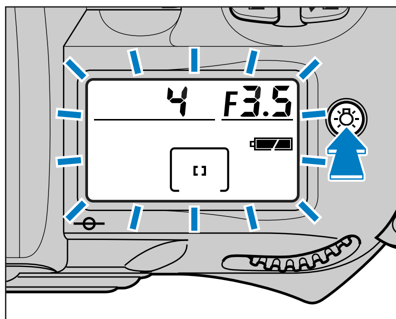
ファインダーをのぞきながら、ファインダー内のフォーカスフレーム、またはファインダー内表示が最もシャープに見える位置まで視度調節レバーをスライドさせ、再度接眼目当てを取りつけます。

●視度調節は－1.8～＋0.8 m^{-1}（近視～遠視）の間で可能です。また、ニコン製の接眼補助レンズは－5～＋3 m^{-1}の間で9種類が用意されています。

ファインダーをのぞきながら視度調節レバーをスライドさせる際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

イルミネーターについて

イルミネーターを点灯させると、暗い所で表示パネルの表示が確認しやすくなります。



“ イルミネーター ”ボタンを押すと、上面および背面表示パネルが照明されます。

●イルミネーターは次のときに消灯します。
- “ イルミネーター ”ボタンをもう一度押したとき
- シャッターを切ったとき
- オートパワーオフで電源が切れたとき

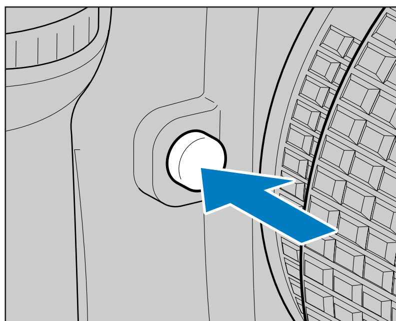
シャッターボタンを半押しすると一時的に消灯します。

CMS 14：イルミネーターが、各ボタンの操作と同時に点灯するように変更できます (➡96ページ)。

被写界深度確認ボタン/距離基準マークについて

被写界深度確認ボタン

被写界深度確認ボタンを押すと、カメラのファインダーをのぞいて被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

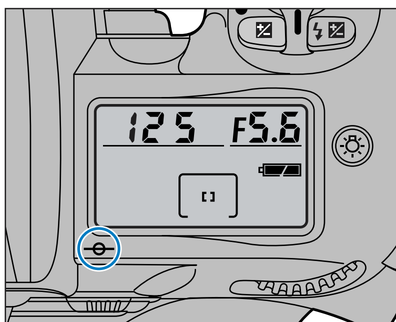


被写界深度確認ボタンを押し続けると、露出モードが“ **P**マルチプログラムオート ”、“ **S**シャッター優先オート ”のときは制御される絞りまで、露出モードが“ **A**絞り優先オート ”、“ **M**マニュアル ”のときはセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

被写界深度確認ボタンを押すとシャッタースピードの表示とイルミネーターが消えます。

距離基準マークについて

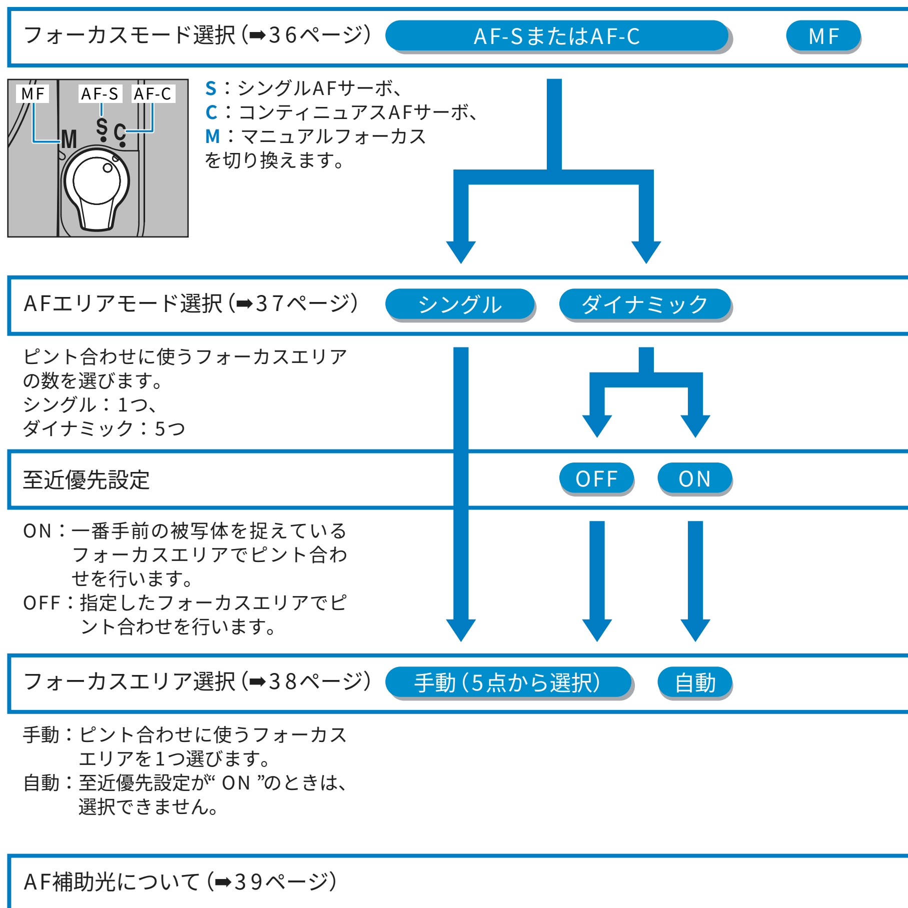
距離基準マークは、カメラ内のCCD面の位置を示しています。



距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内のCCD面の位置を示しています。接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。
レンズ取り付け面（レンズマウント）からCCD面までの寸法は46.5mmです。

フォーカス設定について

36〜41ページでは、フォーカス機能の使用方法・設定方法、関連項目について説明しています。以下にページマップを示しますので、詳細は各ページをご覧ください。

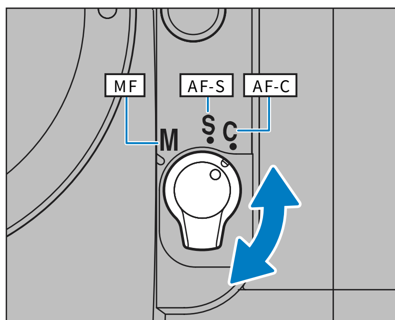


AF補助光について（➡39ページ）

■フォーカス関連のカスタムセッティング

CSM 3：フォーカスエリア照明	ファインダー内のフォーカスエリア自動照明の設定	➡95ページ
CSM 4：フォーカスエリア選択の循環	フォーカスエリア選択の方法を設定	➡95ページ
CSM 7：AF-Sでの至近優先ダイナミックAF	至近優先ダイナミックAFに関する設定	➡95ページ
CSM 8：AF-Cでの至近優先ダイナミックAF	至近優先ダイナミックAFに関する設定	➡95ページ
CSM 9：AE/AFロックボタンの機能選択	AE/AF同時ロック、単独ロック、維持の切り換え	➡95ページ
CSM 15：AF補助光	AF補助光のON/OFF切り換え	➡96ページ

フォーカスモードの選択



フォーカスモードレバーで、フォーカスモードを選びます。

■フォーカスモードについて

	AF-S （S：シングルAFサーボ）	AF-C （C：コンティニュアスAFサーボ）	MF （M：マニュアルフォーカス）
特徴	フォーカス優先モードです。“●ピント表示”がないときは、シャッターは切れません（予測駆動フォーカス作動時を除く）。	レリーズ優先モードです。“●ピント表示”がないときでも、シャッターを切れます。	いつでもシャッターを切ることができます。
AF動作の開始	シャッターボタンを半押しします（工場出荷設定）。	シャッターボタンを半押しします（工場出荷設定）。	AF動作しません。
フォーカスロック	シャッター半押しを続けると、“●ピント表示”が点灯した状態で、フォーカスロックします。	シャッター半押しを続けても、いったん“●ピント表示”が点灯しても、フォーカスロックせず、ピントを合わせ続けます。 AE-L/AF-Lロックボタンを押してフォーカスロックします。	フォーカスロックしません。
予測駆動フォーカス（動く被写体のピントを追い続ける機能）	AF動作の開始時から動いている被写体にのみ作動します。作動中、ピントが合っているとカメラが判断したときは、シャッターが切れます。	途中から動き始めた被写体にも作動します。	作動しません。

CSM 9：AF動作の開始をシャッターボタンの半押しではなく、AE-L/AF-Lロックボタンの操作でオートフォーカスが作動するように変更できます（➡95ページ）。

オートフォーカス（フォーカスモードレバーが、**S**または**C**）での、ピント合わせする方法を変更できます。

AFエリアモードの選択

[ ] AF シングルエリアAF		●指定したフォーカスエリアを使って、ピント合わせを行ないます。 ●動きの少ない被写体に対して正確なピント合わせを行いたい場合などに便利です。
[+] AF ダイナミックAF		●指定したフォーカスエリアから被写体が外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアを利用してピント合わせします。 ●動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。
	至近優先AF	●一番手前の被写体を捉えているフォーカスエリアを使って、ピント合わせを行います。

＊至近優先AFモードで、スポット測光する場合、測光は、常に画面中央のフォーカスエリアで行われます。
＊望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低いときには、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。

CSM 7、8：至近優先AFのON/OFFは、フォーカスモードで決定されます。工場出荷設定では、**S**（シングルAFサーボ）では“ON”、**C**（コンティニュアスAFサーボ）では“OFF”となっています。この設定は、カスタムセッティングで変更できます（➡95ページ）。

1

“FUNC”ボタンを押してこの画面を表示します。

2

シングルエリアAFかダイナミックAFを選びます。

■この時点でファインダー内の表示、表示パネルの上面表示は次のようになっています。

	シングルエリアAF	ダイナミックAF 至近優先AF OFF	ダイナミックAF 至近優先AF ON
フォーカスエリア			
上面表示パネル/ファインダー内表示	[ ]	[+]	

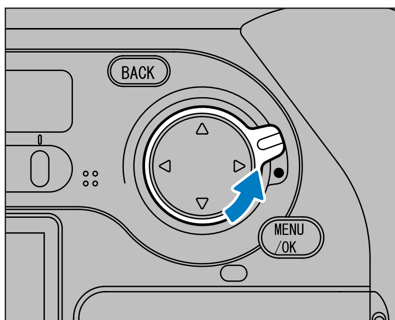
続けてフォーカスエリアの選択を行います。

設定終了

機能編 撮影

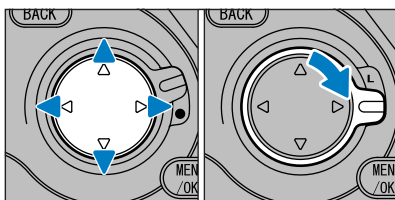
フォーカスエリアの選択

1



十字ボタンのロックを解除します。

2



“▲▼◀▶”でフォーカスエリアを選びます。選択が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

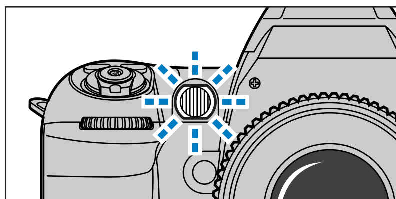
●選択されたフォーカスエリア表示は、被写体の明るさに応じて赤色で自動的に照明します。

CSM 3：選択されたフォーカスエリア表示は、自動的に照明しますが、この照明を禁止したり、被写体の明るさに関係なく照明したりするように変更できます（➡95ページ）。

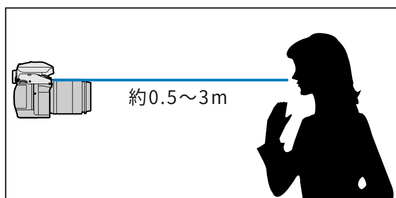
CSM 4：通常、十字ボタンを押した方向のフォーカスエリアしか選択することはできませんが、右側のフォーカスエリアが選択されているときに、十字ボタンの“▶”を押すと左側のフォーカスエリアが選択されるような操作が可能となります。これにより、十字ボタンの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります（➡95ページ）。

AF補助光について

このカメラは、AF補助光ランプを搭載しています。被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。



以下の条件を満たしているときに自動的に照射を行います。
フォーカスモードがAF-Sで、AFニッコールレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態かまたは至近優先ダイナミックAFのとき。



使用可能なAFニッコールレンズの焦点距離は24〜200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5〜3mです。

CMS 15：AF補助光の照射を禁止することができます（➡96ページ）。

AF補助光を連続的に使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。また、短時間に何回も使用すると、AF補助光の窓が熱くなることがありますので、ご注意ください。

◆ニコン製ストロボとアクティブ補助光について◆

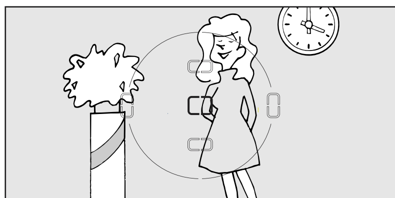
ニコン製ストロボSB-28／28DX、27、26、25、24を使用して、撮影した場合、アクティブ補助光の発光条件が満たされると、ニコン製ストロボ側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。その他のニコン製ストロボでは、カメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。

◆ケラレが発生するレンズ◆

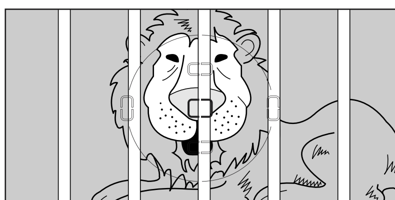
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1m以内では内蔵AF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - AF マイクロ ED 200mm f/4
  - AF-S ED 17〜35mm f/2.8
  - AF ED 18〜35mm f/3.5〜4.5
  - AF 20〜35mm f/2.8
  - AF 24〜85mm f/2.8〜4
  - AF 24〜120mm f/3.5〜5.6
  - AF-S ED 28〜70mm f/2.8
  - AF マイクロ ED 70〜180mm f/4.5〜5.6
- AF-S ED 80〜200mm f/2.8、AF ED 80〜200mm f/2.8、AF VR ED 80〜400mm f/4.5〜5.6は内蔵AF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。

オートフォーカスが苦手な被写体について

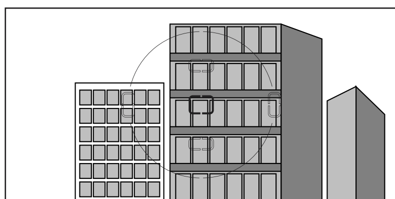
次のような被写体では、オートフォーカスでピント合わせができない場合があります。このような場合は、フォーカスモードレバーを“ **M**マニュアルフォーカス ”に切り換えてマニュアルでピントを合わせて撮影するか、AFロック（➡31ページ）を利用しておおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせ、そのまま構図を元に戻して撮影してください。



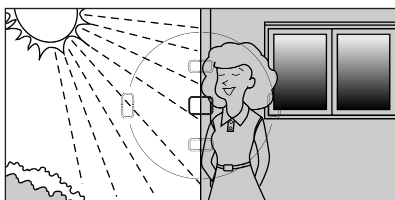
明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服をきている人物等）



フォーカスエリア内に遠いものと近いものが混在する被写体
（オリの中の動物や木の前の人物等）



連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓等）

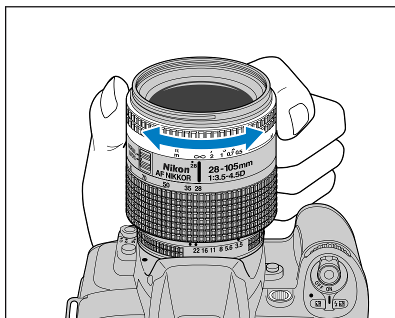


フォーカスエリア内の被写体の輝度差が著しく異なる場合
（太陽が背景に入った日陰の人物等）

マニュアルフォーカスについて

マニュアルフォーカスは、オートフォーカスが苦手な被写体（➡40ページ）を撮影するときや、AFニッコール以外のレンズ（➡17ページ）を装着しているときにご使用ください。

マニュアルフォーカス（手動）によるピント合わせ



レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるようにピントを合わせます。

- A-M切り換え方式のレンズを装着して、マニュアルフォーカスでピントを合わせる場合は、レンズ側もMにセットしてご使用ください。また、**M/A**（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能を搭載しているレンズを装着する場合は、レンズ側は**M/A**または**M**のどちらにセットしてもマニュアルフォーカスは可能です。詳細はご使用になる各レンズの使用説明書をご覧ください。

フォーカスエイド

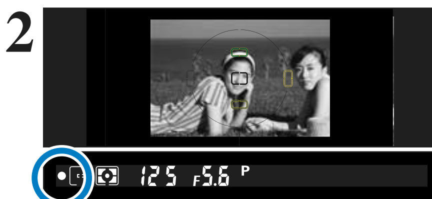
1



ファインダー内表示の“●ピント表示”によって合焦状態を確認できます。
フォーカスエイドは、開放絞りがf/5.6以上明るいレンズを装着しているときに利用できます。

❶ピントを合わせたいものに選択しているフォーカスエリアを重ねます。
❷レンズの距離リングを回します。

2



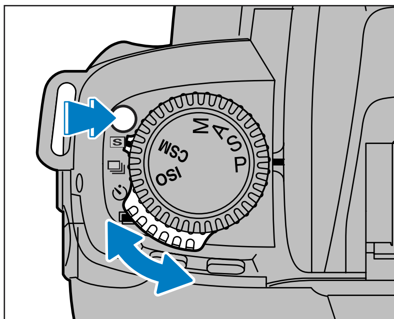
シャッターボタンを半押しします。ピントが合っていると、“●ピント表示”が点灯します。

◆ピント表示について◆

本機では、合焦のしやすさを考慮して、“●ピント表示”が点灯する範囲に一定の幅を設けてあります。これにより、フォーカスリングのわずかな動きに敏感に反応して“●ピント表示”がチラつくことがないようにしています。
しかし、このため近距離側からピントを合わせた場合と遠距離側からピントを合わせた場合で、ピント位置が微妙に異なり、“●ピント表示”が点灯した場合でも、最適の合焦状態になっていない場合があります。このような場合は“●ピント表示”が点灯する範囲の中間の位置にフォーカスリングを合わせることで、より良好な合焦状態にすることができます。

レリーズモード/S 1コマ・連写

通常は1コマに設定します。動きのある被写体を連続して撮影したいときや、オートブラケティングなどで連続して撮影したいときに連写に設定します。



レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーを“S 1コマ”または“連写”に合わせます。

S 1コマ

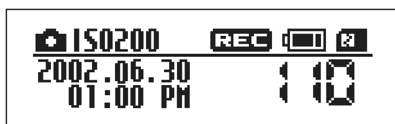
シャッターボタンを押すごとに1コマずつ撮影できます。1コマずつ確実に撮影するときに使用します。

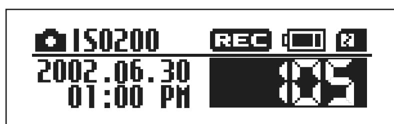
! 1コマずつ速く撮影すると連写のように撮影可能枚数が反転表示されることがあります。このときは撮影できませんので、反転表示が解除されるまでお待ちください。

連写

シャッターボタンを押し続けると、最短約0.5秒間隔で最大7コマ連写できます。

● 最大連写枚数（7コマ）まで撮影すると、背面表示パネルの撮影可能枚数が反転表示されます。そのときは連続して撮影することはできません。反転表示が解除されるまでお待ち下さい。

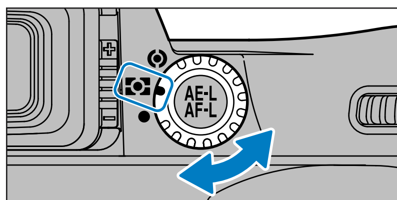


! ピクセル/クオリティー設定にかかわらず、連写速度は一定です。
! 内蔵ストロボを使用すると連写になりません。
! 撮影画像表示（➡88ページ）がプレビュー設定のとき連写すると、最後のコマの撮影結果のみ表示され、自動的に記録されます。
! 撮影可能枚数が少ないときに連写すると、一時的に撮影可能枚数が0になることがあります。

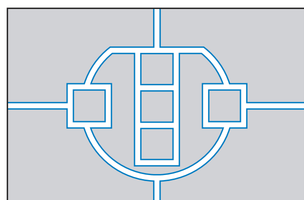
測光モード

通常はマルチパターン測光で最適な露出を得ることができます。意図的に露出値をかえて撮影（AEロックや露出補正）するときや、撮影シーン（逆光やコントラストの激しいときなど）に応じて3つの測光モードから選ぶことができます。



測光モードダイヤルを、使用する測光モードに合わせます。
ファインダー内に、選んだ測光モードの表示が点灯します。

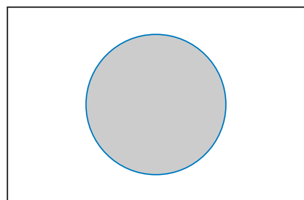
：10分割マルチパターン測光





撮影画面を10分割し、それぞれを独立して測光した情報（最大輝度、輝度差情報）に基づいて、最適な露出値を決定します。
Dタイプまたは Gタイププニッコールレンズを装着したときは、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、カメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた、「3D-10分割マルチパターン測光」になります。

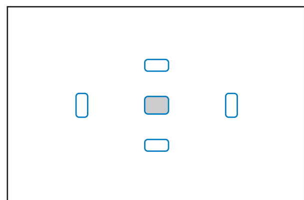
：中央重点測光





撮影画面の中央部（ファインダーで直径12mmの円内）を重点的に測光して露出値を決定します。

：スポット測光

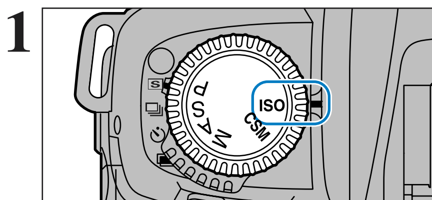




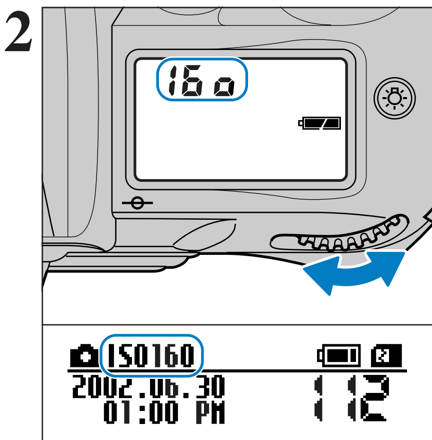
フォーカスエリアの重なる部分（ファインダーで直径4mm相当、撮影画面の約2%）を測光して露出値を決定します。
測光範囲はフォーカスエリアに連動して移動します。ただし、至近優先ダイナミックAFモードでは、常に画面中央のフォーカスエリアで測光が行われます。

ISO感度/露出モード P

ISO感度

1 

露出モードダイヤルを“ **ISO** ”に合わせます。

2 

メインコマンドダイヤルを回して、ISO感度を設定します。

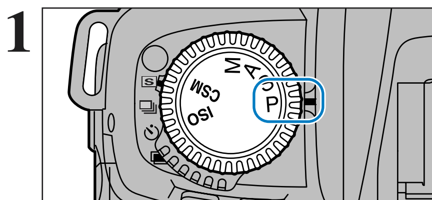
●設定できるISO感度
100、160、200（工場出荷設定）、400、800、1600

薄暗いシーンを低感度設定でストロボを使用せずに撮影すると、画像全体の色味がずれる場合があります。

高感度撮影時（ISO400以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

P マルチプログラムオート

撮影シーンに応じて最適露出になるように、シャッタースピード、絞り値をカメラが自動的に制御します。スナップ写真などシャッターチャンスを優先して気軽に撮影したいときに便利です。

1 

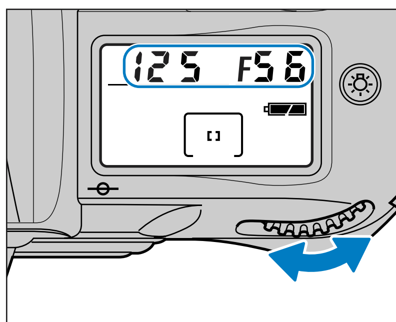
露出モードダイヤルを“ **P** ”に合わせます。

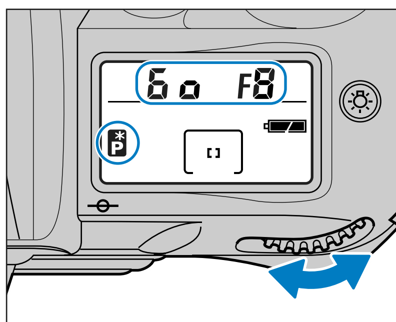
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

●次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。以下のように対応してください。

- ●**H I**：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
- ●**L o**：ストロボを使用してください。

◆プログラムシフトについて◆

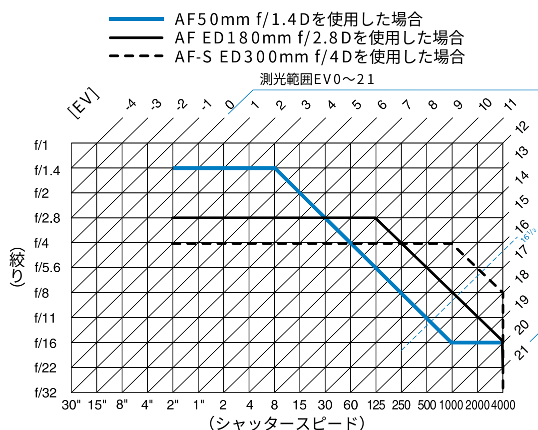




マルチプログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、マルチプログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク*Pが点灯します。
解除するには、プログラムシフトマーク*Pが消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチを“ OFF ”にする、内蔵ストロボを使用する（➡62ページ）、ツーボタンリセット（➡93ページ）をするなどの操作を行ってください。

プログラム線図について

プログラム線図はプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです（ISO100の場合）。



●ISO感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
●マルチパターン測光では、ISO100のとき16 1/3を越えるEV値では、すべて16 1/3として制御されます。したがって高輝度の被写体を撮影すると露出オーバーとなることがあります。

CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、**露出モード“ P・S・A ”では**上面表示パネルとファインダー内に“ F- - ”が点滅して、**撮影できません。**
そのときは**露出モードを“ M ”**にして、絞りを**レンズの“ 絞りリング ”で設定する**ことにより、**撮影できます。**ただし、カメラの露出計は使用できません。

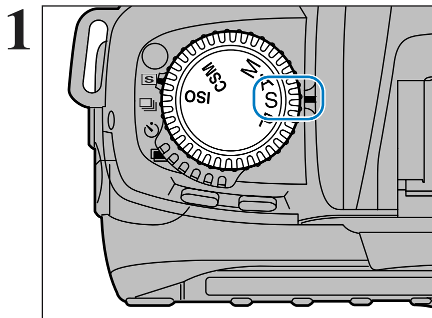
機能編 撮影

露出モード S

S シャッター優先オート

シャッタースピード（30秒〜1/4000秒）を設定すると、カメラが自動的に絞りを制御するオートモードです。動きの一瞬をとらえる（高速側シャッター）、動きを表現する（低速側シャッター）など、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

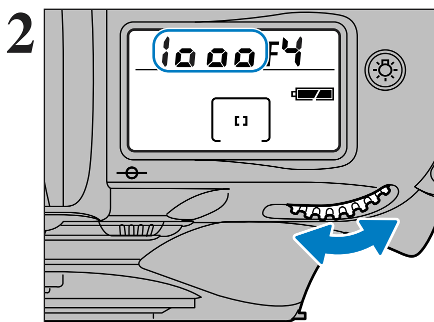
1



露出モードダイヤルを“ S ”に合わせます。

●露出モードの“ Mマニュアル ”で“ bulb ”に設定した後、“ bulb ”を解除しないで“ Sシャッタースピード優先オート ”に合わせると、“ bulb ”表示が点滅してシャッターを切れません。そのときは“ bulb ”以外のシャッタースピードに設定して下さい。

2



メインコマンドダイヤルでシャッタースピード（30秒〜1/4000秒）を設定します。

長時間露光時（約1秒以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

●次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。以下のように対応してください。

- ●HI：シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
- ●Lo：シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、ストロボを使用してください。

! 長時間露光時は、撮影画像表示ON設定で表示される画像が消えたあと、アクセスランプが点灯するまで数秒かかります。

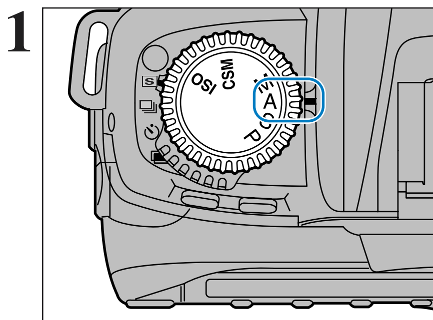
CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、**露出モード“ P・S・A ”では**上面表示パネルとファインダー内に“ F-- ”が点滅して、**撮影できません。**
そのときは**露出モードを“ M ”**にして、絞りを**レンズの“ 絞りリング ”で設定する**ことにより、**撮影できます。**ただし、カメラの露出計は使用できません。

露出モード A

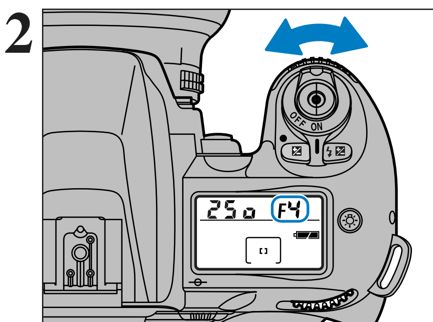
A 絞り優先オート

絞り（最小絞り〜開放絞り）を設定すると、カメラが自動的にシャッタースピードを制御するオートモードです。遠くまでピントを合わせる（最小絞り側）、背景をぼかす（開放絞り側）など、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を重視した撮影に最適です。

1 露出モードダイヤルを“ **A** ”に合わせます。



2 サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り〜開放絞り）を設定します。



3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。以下のように対応してください。
  - **HI**：より大きい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - **Lo**：より小さい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えないときは、ストロボを使用してください。

CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、**露出モード“ P・S・A ”では**上面表示パネルとファインダー内に“ F-- ”が点滅して、**撮影できません。**
そのときは**露出モードを“ M ”**にして、絞りを**レンズの“ 絞りリング ”で設定する**ことにより、**撮影できます。**ただし、カメラの露出計は使用できません。

機能編 撮影

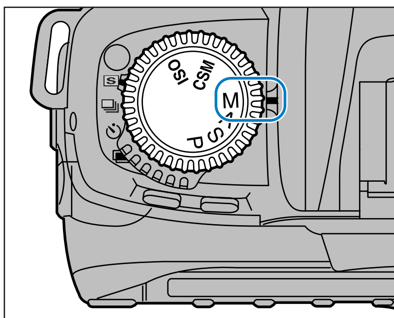
露出モード M

M マニュアル

シャッタースピード（“ bulb ”および30秒〜1/4000秒）と絞り（最小絞り〜開放絞り）を自由に設定できるモードです。ファインダー内の露出インジケーター表示を参考に、撮影シーンや目的に合わせた露出決定を行えます。

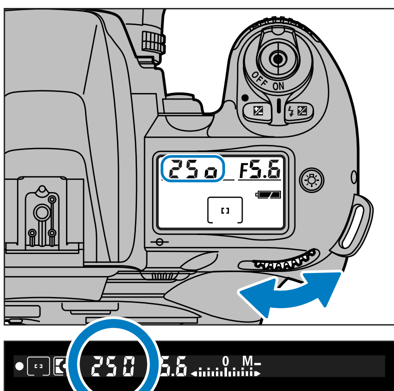
CSM 6：“ bulb ”（バルブ：長時間露出）を使用するには、カスタム設定を変更する必要があります（➡95ページ）。

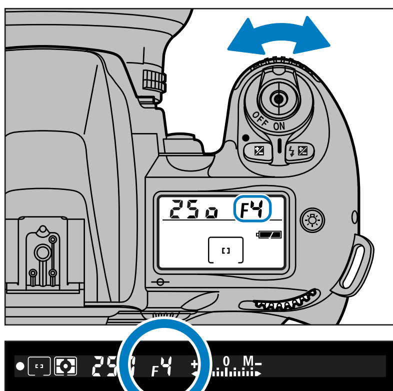
1



露出モードダイヤルを“ M ”に合わせます。

2





露出インジケーターを確認しながら、メインコマンドダイヤルでシャッタースピード（“ bulb ”および30秒〜1/4000秒）を、サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り〜開放絞り）を設定します。

● 露出補正（➡52ページ）を設定したときは、露出インジケーター表示が変わるのみで、撮影者が設定したシャッタースピード、絞り値は変わりません。

長時間露光時（約1秒以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

◆露出インジケーターについて◆

長時間露出（バルブ）撮影時を除いて、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。
カメラの測光限界を超えると、露出インジケーターが点滅警告します。
露出インジケーターの見方は以下のとおりです。

適正露出の状態	1/2段アンダーの状態	3段以上オーバーの状態
+. . . 0 . . . –	+. . . 0 . . . –	+. . . 0 . . . –

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

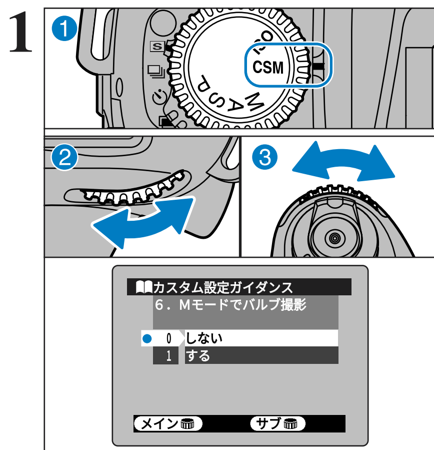
CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、絞りを**レンズの“ 絞りリング ”で設定する**ことにより、**撮影できます。**ただし、カメラの露出計は使用できません。また、上面表示パネルとファインダー内に“ F- - ”が点灯します。

bulb バルブ撮影

バルブ撮影は任意のシャッタースピードで撮影したいときに便利です。シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになりますので三脚などを使用し、カメラを安定させてから撮影して下さい。

長時間露光時（約1秒以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

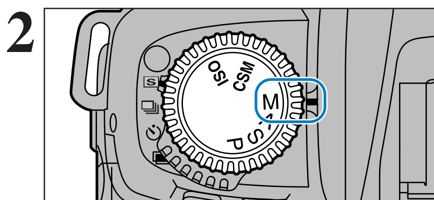
1



CSM 6 :“ bulb ”（バルブ：長時間露出）を使用するには、カスタム設定を変更する必要があります（➡95ページ）。

❶露出モードダイヤルを“ CSM ”に合わせます。
❷メインコマンドダイヤルで項目「6.Mモードでバルブ撮影」を選びます。
❸サブコマンドダイヤルで設定値「1：する」に設定します。

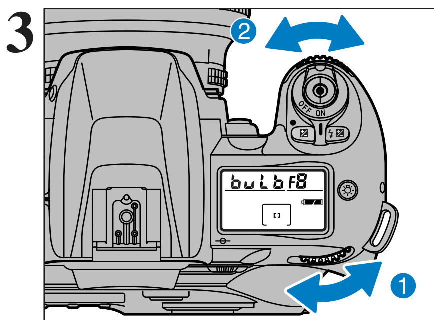
2



露出モードダイヤルを“ M ”に合わせます。

- バルブ撮影（bulb）は露出モードがマニュアル以外では使用できません。
- バルブ撮影では三脚の使用をおすすめします。

3



❶メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを“ bulb ”に設定し、❷サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り～開放絞り）を設定します。

4 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

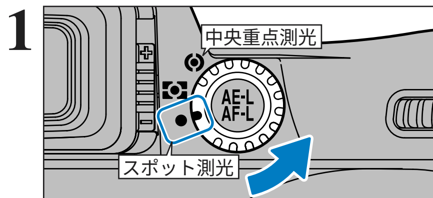
- シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります。
- シャッターボタンを指で押し続ける代わりに、ケーブルレリーズ（別売）を使用すると手ブレを軽減することができます。



AEロック撮影

特定の被写体に露出を固定して撮影できます。露出を合わせたい部分とその周囲とで、著しく明るさが異なるときなどに便利です。

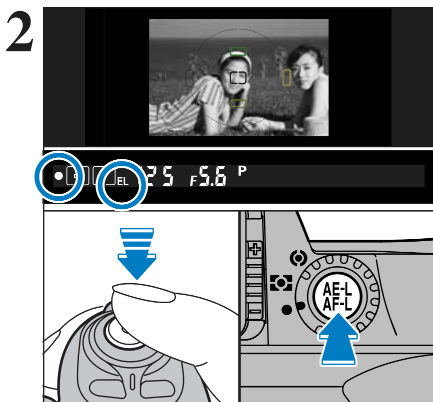
1



測光モードダイヤルを“ スポット測光 ”または“ 中央重点測光 ”に合わせます。

- マルチパターン測光は十分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

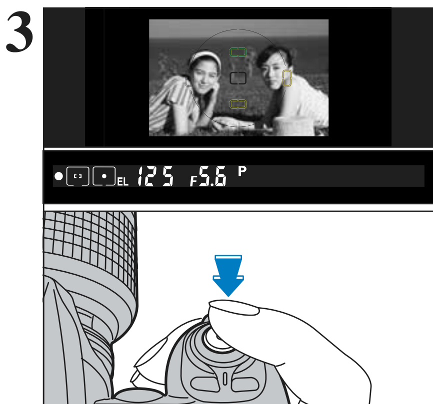
2



露出を合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押ししたまま、“ AE-L/AF-L ”ボタンを押します。ファインダー内に“ EL（AEロック表示）”が点灯します。

- “ AE-L/AF-L ”ボタンを押している間は、露出とピントが固定されます（工場出荷設定）。
- フォーカスモードがAF-S/AF-Cのときに、ピントが合っていないまま“ AE-L/AF-L ”ボタンを押すと、ピントがずれたまま固定されます。必ず“ ●ピント表示 ”の点灯を確認して下さい。

3



“ AE-L/AF-L ”ボタンを押したまま、構図を決めて撮影します。

- 撮影後も“ AE-L/AF-L ”ボタンから指をはなさなければ維持されますので、同じ設定のまま構図をかえて撮影できます。
- “ AE-L/AF-L ”ボタンを押している間、次の操作ができます。
  1. 露出モードが“ **P** ”のとき、プログラムシフト。
  2. 露出モードが“ **S** ”のとき、シャッタースピードの変更。
  3. 露出モードが“ **A** ”のとき、絞りの変更。
- AEロック中は測光モードを切り換えても変わりません。AEロックを解除してください。

CSM 5：シャッターボタンの半押しでAEロックが行えるように変更できます（➡95ページ）。

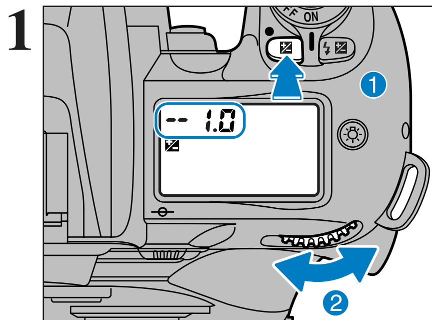
CSM 9：“ AE-L/AF-L ”ボタンを押したときの動作を変更できます（➡95ページ）。

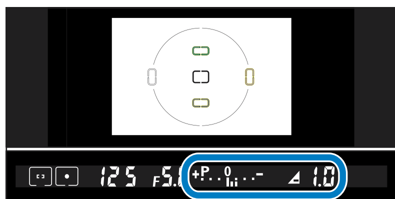
動作：AF・AEロックを行う（工場出荷設定）/AEロックだけ行う/AFロックだけ行う/AEロックの維持/AFの作動

⊠ 露出補正

カメラが制御する適正露出値を意図的にかえることができます。たとえば、ハイキー（全体に明るいトーン）、ローキー（全体に暗いトーン）など、作画意図に応じた露出表現をしたい場合などに使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセットできます（ただし露出モードが“ M ”のときは、インジケータ表示が変わるのみで、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値は変わりません）。

1





露出補正インジケーターの表示例



－0.5段補正



＋2段補正

❶“ ⊠露出補正 ”ボタンを押しながら、❷メインコマンドダイヤルで補正量（1/2段ステップで±3段）を設定します。

- ●補正量をセットすると、上面表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク“ ⊠ ”が点灯します。補正量は露出補正ボタンを押すと確認できます。さらに、ファインダー内表示の露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示されます。その際、露出インジケーターの“ 0 ”は点滅します。
- ●補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。
- ●ストロボの光量のみを補正するストロボ調光補正については65ページをご覧ください。

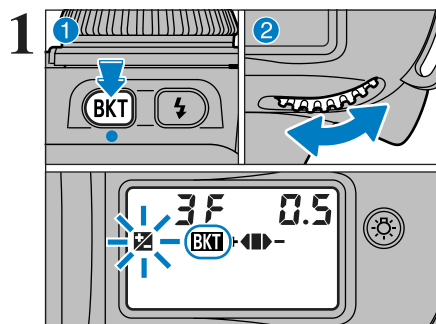
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

●露出補正を解除する場合は、補正量を“ 0.0 ”にセットするか、ツーボタンリセット（➡93ページ）を行ってください（電源レバーを“ OFF ”にしても解除されません）。

BKT オートブラケティング（自動段階露出）

同じ画像を露出をかえて撮影したいときに使用します。カメラが表示する適正露出値（露出モード“ M ”のときは設定した値）を基準に、自動的に露出を設定値（露出補正なしで最大±2段）きざみでずらした撮影が行なえます。

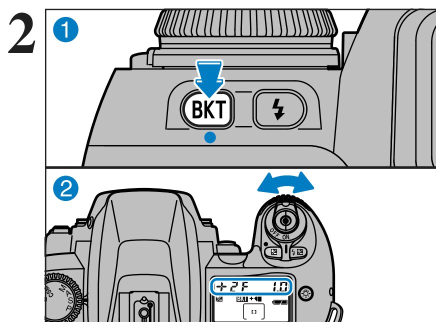
1



❶“ BKT オートブラケティング ”ボタンを押しながら、❷メインコマンドダイヤルで上面表示パネルに“ BKT ”を点灯させます。

● オートブラケティング使用中は“ ☒ ”が点滅を続け、オートブラケティング撮影中であることを示します。

2



❶“ BKT オートブラケティング ”ボタンを押しながら、❷サブコマンドダイヤルで撮影枚数（最大3枚）と補正量（1/2段ステップで±2段）を設定します。

❗ 撮影可能枚数を確認のうえ撮影枚数を設定してください。

■撮影枚数と補正量の組み合わせ一覧表

撮影枚数と補正ステップ	ブラケティングバーグラフ	撮影順序
3F 0.5	+◀■▶−	0／−0.5／+0.5
3F 1.0	+◀■▶−	0／−1.0／+1.0
3F 1.5	+◀■▶−	0／−1.5／+1.5
3F 2.0	+◀■▶−	0／−2.0／+2.0
+2F 0.5	+◀■	0／+0.5
+2F 1.0	+◀■	0／+1.0
+2F 1.5	+◀■	0／+1.5
+2F 2.0	+◀■	0／+2.0
−2F 0.5	■▶−	0／−0.5
−2F 1.0	■▶−	0／−1.0
−2F 1.5	■▶−	0／−1.5
−2F 2.0	■▶−	0／−2.0

次ページにつづく

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。撮影するごとに上面表示パネルに撮影状況がブラケティングバーグラフに示されます。

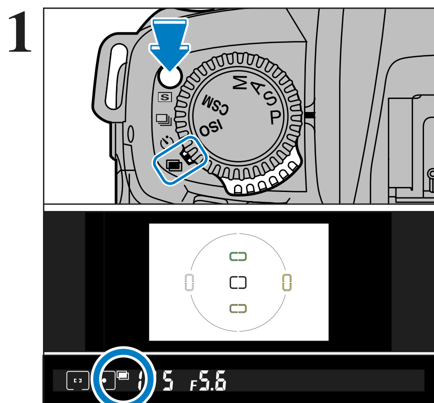
- 3枚撮影するときの撮影状況は、開始前“ +◀■▶− ”、1枚撮影後“ +◀ ▶− ”、2枚撮影後“ +◀ ”、と撮影の終わった露出が消えます。
- レリーズモードが“ 連写 ”のときにシャッターボタンを押し続けると、設定した枚数の撮影が終わると自動的に停止します。ただし内蔵ストロボを使用すると1コマずつの撮影になります。
- オートブラケティングと露出補正（➡52ページ）や調光補正（➡65ページ）が同時にセットされている場合、両方の補正値が加算されたオートブラケティング撮影が行えます。±2段を超えるオートブラケティング撮影を行う場合に便利です。
- 解除するには、オートブラケティングボタン“ BKT ”を押しながらメインコマンドダイヤルで上面表示パネルのブラケティング表示“ BKT ”を消灯させるか、またはツーボタンリセット（➡93ページ）を行います。メインコマンドダイヤルで解除し、再度オートブラケティングをセットする場合は、前回セットした撮影枚数と補正ステップは保持されます。ツーボタンリセットで解除し、再度オートブラケティングをセットする場合は、撮影枚数と補正ステップは「3F 0.5」に自動的にリセットされます。

CSM 1：マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます（➡95ページ）。

多重露出

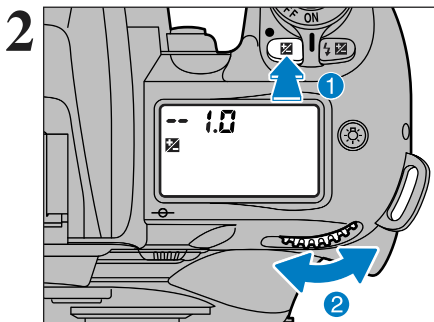
撮影した画像が重なって表現される撮影方法です。通常得られない画像を撮影できます。

1



レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーを"多重露出"に合わせます。多重露出を設定するとファインダー内表示に""が点灯します。

2



撮影状況に応じて、❶"露出補正"ボタンを押しながら、❷メインコマンドダイヤルで補正量を設定します。

◆多重露出撮影時の露出補正について◆

多重露出は同一コマ上に何度も撮影をします。そのため背景や被写体が重なり合うときは、撮影前に露出補正を設定する必要があります。

■一般的な補正量の目安

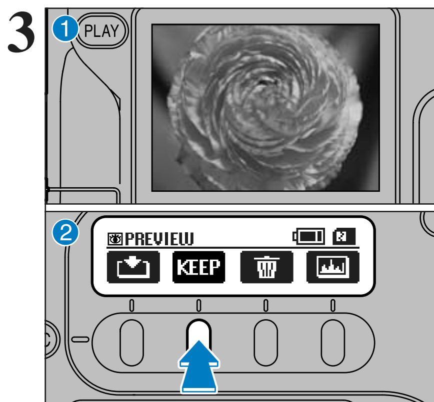
多重露出の回数	補正量のセット
2回	-- 1.0
3回	-- 1.5
4回	-- 2.0

- 実際の補正量は条件によって変わりますので、テスト撮影をおすすめします。
- 背景が完全に黒く、被写体が画面内で重ならないような場合は、露出補正を行わず、各露出ごとに適正露出で撮影するのが基本です。

機能編 撮影

次ページにつづく

3

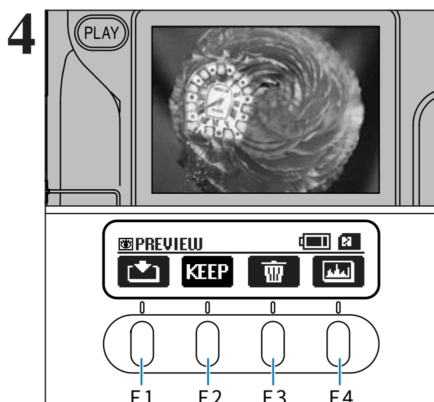


❶構図を決めピントを合わせて撮影すると、プレビュー画面が液晶モニターに表示されます。
❷“ F2 ”ボタンを押して、次の撮影に移行します。

- 撮影画像表示（SET－UP）の設定にかかわらず、必ずプレビューされます。
- 多重露出の途中でレリーズモードを切り換えると、画像は記録されません。

多重露出の途中でファンクションメニューや、SET－UPによる設定の変更はできません。

4



次の撮影（多重露出）を行うと、画像が重なってプレビュー表示されます。

- 画像を記録するには：
  “ F1 ”ボタンまたは、“ MENU/OK ”ボタン
- さらに多重露出するには：“ F2 ”ボタン
- 多重露出しないで撮り直すには：
  もう一度シャッターをきります
- 記録しないでやめるには：
  “ F3 ”ボタンまたは“ BACK ”ボタン
- 輝度分布を確認する：“ F4 ”ボタン

❗プレビュー表示された画像はオートパワーオフ機能（工場出荷設定15秒）が働くとキャンセルされます。オートパワーオフ機能が働く前にプレビュー画像を記録してください。

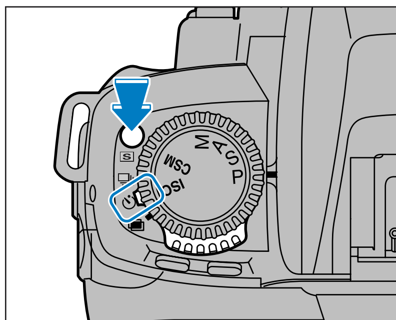
CSM 11：多重露出撮影はシャッターボタンを押すごとに1回撮影される1コマ撮影ですが、連続撮影に変更できます（➡96ページ）。

❗1コマだけ撮影したときは“ KEEP ”が表示されないため多重露出できません。必ず連写してください。
❗内蔵ストロボを使用すると、連続撮影できません。

セルフタイマー

セルフタイマーは記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。三脚等を使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1

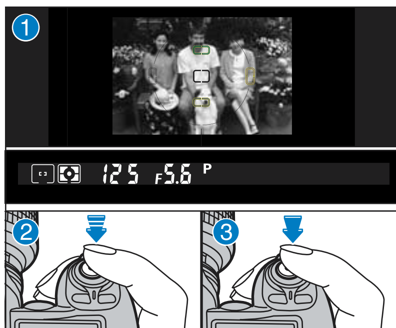


レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーをセルフタイマーに合わせます。

◆撮影する前に◆

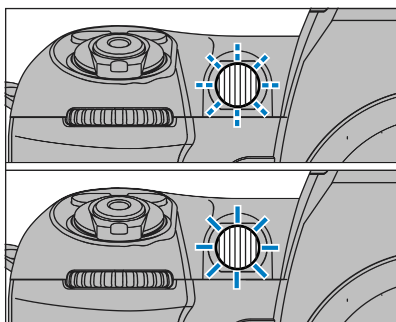
- AF-S（シングルAFサーボ）でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターが切れない状態では、セルフタイマーは作動しません。
- “ M マニュアル ”以外の露出モードでは、適正露出を得るために接眼部からの逆入光を防ぐ必要があります。シャッターボタンを押す前に、手または付属のアイピースキャップで接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。
- AF（オートフォーカス）でピント合わせる場合は、セルフタイマーを作動させるときにレンズを体で覆わないように注意してください。

2



❶フォーカスエリアを被写体に合わせます。
❷シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
❸そのまま、シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーが開始されます。

3



セルフタイマーが8秒間点滅したのち、2秒間点灯し撮影されます。

- セルフタイマー撮影を中止するには、電源レバーを“ OFF ”に合わせるか、レリーズモードレバーをセルフタイマー以外に合わせてください。
- セルフタイマーの作動時間を１０秒から、2/5/20秒のいずれかに変更できます（➡96ページ）。

機能編 撮影

ストロボ撮影

ストロボ撮影の設定について

ストロボ撮影の設定で、直接指定できる項目には、

シンクロモード（発光のタイミングとシャッタースピード）
ストロボ調光補正（発光量の調整）

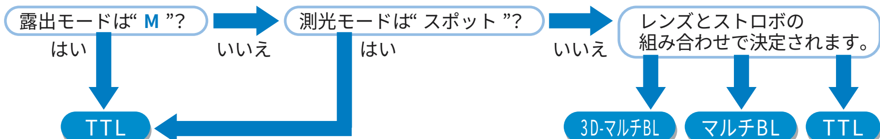
があります。
その他の項目として、

ストロボ調光方式（測光して発光量を決めるまでの方式）
撮影可能距離（ストロボ光の届く範囲）

があります。
ストロボ撮影の基本的な設定については、59ページ～65ページで説明します。必要に応じて「使用可能なニコン製ストロボについて」もご参照ください（➡66ページ）。

◆調光方式について◆

調光方式には、3D-マルチBL・マルチBL・TTLの3種類があり、「露出モード」「測光モード」「レンズとストロボの組み合わせ」によって、3種類のうちの1つに決定されます。



◆ストロボ撮影可能距離を長くするには◆

項　目	対　処
レンズの明るさ	明るいものを使う
ガイドナンバー	大きいものを使う
絞り	開く
ISO感度	高くする

内蔵ストロボについて

このカメラは28mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー12（ISO100・m）のストロボを内蔵しており、3D-マルチBL調光やマルチBL調光による自然な感じのストロボ写真が撮影できます。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光の場合や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。また、通常のストロボ撮影の先幕シンクロに加え、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロと5つのシンクロモードを備えています。

■内蔵ストロボで利用できる調光方式

装着するレンズ	調光方式
DタイプまたはGタイプニッコールレンズ	3D-マルチBL調光※1（距離情報・モニター発光※2あり）
DタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ（F3AF用を除く）	マルチBL調光※1（モニター発光※2あり）
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ	TTL調光※3

※1 露出モードを“ **M** ”にセットするか、測光モードをスポット測光にセットするとTTL調光となります。
※2 モニター発光を解除する場合は、露出モードを“ **M** ”にするか、測光モードをスポット測光にしてください。
※3 TTL調光時はモニター発光が行われません。

3D-マルチBL調光

DタイプまたはGタイプニッコールレンズ装着時に可能です。測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。
シャッターボタンを押すと、ストロボが本発光直前にモニター発光を行い、被写体から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーが瞬時に測光します。さらに、レンズから得られた被写体までの距離情報も加味して、調光領域と調光レベルを総合的に決定します。画面内に極端に反射率の高いものがある、背景が大きく抜けているような撮影状況でも、主要被写体と背景の明るさをバランスよくコントロールしたストロボ撮影が行えます。

マルチBL調光

DタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着すると、3D-マルチBL調光のレンズからの距離情報が省略された、マルチBL調光になります。

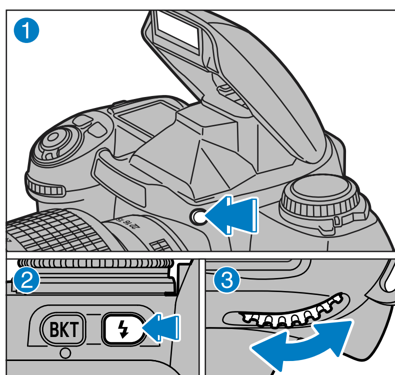
3D-マルチBL調光とマルチBL調光を総称してマルチエリアBL調光と呼びます。

TTL調光

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には自動的にTTL調光となります（露出モードが“ **M** ”のときのみ使用できます➡48ページ）。また、CPU内蔵ニッコールレンズ装着時にも、内蔵ストロボ使用時にカメラの露出モードを“ **M** ”にセットするか、測光モードをスポット測光にセットすると、自動的にTTL調光となります。背景の明るさは考慮されず、主要被写体が適正露出となるように調光されます。主要被写体を強調する場合や、調光補正を行うときに適しています。なお、TTL調光ではモニター発光は行いません。

シンクロモードの種類と特徴

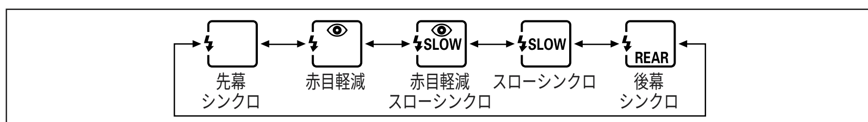
5つのシンクロモードから、撮影目的や意図にあわせて希望するシンクロモードを選びます。



1 ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをポップアップします。
2 “ シンクロモード ”ボタンを押しながら、
3 メインコマンドダイヤルでシンクロモードを選びます。

上面表示パネルのアイコン表示は、次のように変わります。

ストロボを使用しないときは、電池の消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください。



露出モードとシンクロモードの組み合わせによっては、選択した後に、シンクロモードが自動的に切り換わる場合があります。

露出モード	シンクロモード	選択中の表示	選択後の表示	動　作
P・A	後幕シンクロ	REAR	SLOW REAR	自動的にスローシンクロがセットされます。
S・M	赤目軽減スローシンクロ	SLOW		スローシンクロは解除されます（シャッタースピードは変更されません）。
	スローシンクロ	SLOW		



先幕シンクロモード

すべての露出モードで使用できます。
通常のストロボ撮影ではこのモードにセットします。



SLOW スローシンクロモード

露出モード“ P・A ”で使用できます。
スローシャッターとなるので、背景を描写しながらストロボを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影ができます。



⚡REAR 後幕シンクロモード

すべての露出モードで使用できます。露出モード“ **P・A** ”では、スローシャッターとなります。シャッターが閉じる直前にストロボを発光させます。被写体の動きを想像させる光の流れなどを自然な形で表現できます。

❗スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。



⚡👁 赤目軽減モード

すべての露出モードで使用できます。
ストロボが発光する前に約1秒間ランププリ照射を行い、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減します。

⚡👁SLOW 赤目軽減スローシンクロモード

露出モード“ **P・A** ”で使用できます。
スローシャッターの赤目軽減モードになります。

❗ニコン製ストロボSB-28/28DX、27、26使用時は外部ストロボ側の赤目軽減ランプが発光します。
❗シャッターが切れるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください。
❗装着するレンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光が人物に届かないため、赤目軽減効果が損なわれることがあります。

機能編 撮影

■シャッタースピードについて

同調シャッタースピードは1/125秒です。
設定できるシャッタースピードは、シンクロモードと露出モードの組み合わせで次のように変わります。

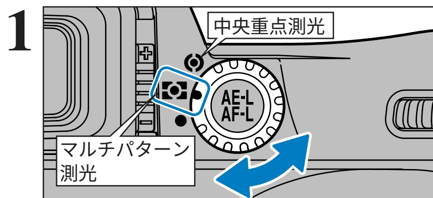
露出モード / シンクロモード	P/A	S	M
⚡ 先幕シンクロ	1/125秒～1/60秒 (カメラが自動的にセット＊1)	1/125秒～30秒	1/125秒～30秒 bulb
⚡SLOW スローシンクロ	1/125秒～30秒 (カメラが自動的にセット＊2)	—	—
⚡REAR 後幕シンクロ	自動的にスローシンクロになります。 1/125秒～30秒 (カメラが自動的にセット＊1＊2)	1/125秒～30秒	1/125秒～30秒 bulb
⚡👁 赤目軽減	1/125秒～1/60秒 (カメラが自動的にセット)	1/125秒～30秒	1/125秒～30秒 bulb
⚡👁SLOW 赤目軽減スローシンクロ	1/125秒～30秒 (カメラが自動的にセット＊2)	—	—

＊1 ニコン製ストロボSB-26、25、24使用時は外部ストロボのシンクロセレクターで、シャッタースピードをセットします。
＊2 スローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

内蔵ストロボを使用した撮影

ここでは、内蔵ストロボを使用し、カメラにDタイプまたはGタイプAFニッコールレンズを装着して行う撮影の方法をご説明します。

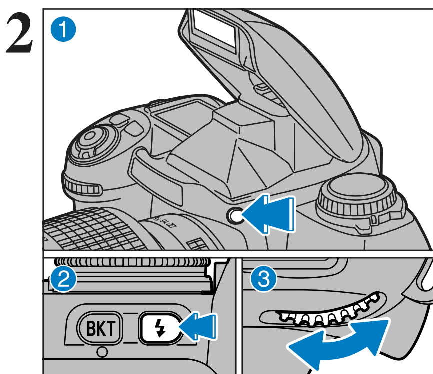
1



測光モードダイヤルを“ マルチパターン測光 ”または “ 中央重点測光 ”にセットします。

“ スポット測光 ”に合わせると、調光方式は“ TTL調光 ”になります。

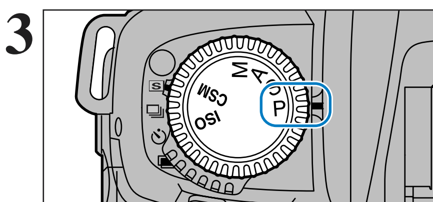
2



1 ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをポップアップします。
2 “ シンクロモード ”ボタンを押しながら、
3 メインコマンドダイヤルでシンクロモードを選びます。

ストロボを使用しないときは、電池の消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください。

3



露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。

4



ファインダー内表示に“ レディライト ”が点灯していることを確認します。

ストロボ撮影を連続して行うと“ レディライト ”が点灯するまで時間がかかることがあります。

“ レディライト ”が点灯しないとシャッターは切れません。

5 構図・ピント・ストロボ撮影可能距離を考慮して撮影します。

シャッターをきった後“ レディライト ”が約3秒間点滅した場合は、ストロボがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。画像を再生して確認し、撮影し直す場合は撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

被写体が暗い場合は、自動的にAF補助光を照射してピントを合わせを行います。詳細については39ページをご覧ください。

ストロボ撮影時は、レリーズモードが連写にセットされていても、連続撮影にはなりません。

内蔵ストロボ充電中は、VRレンズのシャッターボタン半押し中の手ブレ補正を行いません。

露出モード	シャッタースピード	絞り	調光方式
P	同調シャッタースピード：1/125秒 詳細は61ページご参照ください	カメラが自動的にセット	3D-マルチBL調光
S			
A		任意の絞り	
M			TTL調光

＊同調スピード（1/125秒）より速いシャッタースピードは設定できません。ファインダー内表示に“ 125 ”が点灯し、表示パネルにセットしたシャッタースピードが点滅しているとき、実際のシャッタースピードは1/125秒になります。
＊撮影距離はISO感度と絞りによって決まります。露出モードが“ **A**・**M** ”のときは下表を参考にしてください。
＊露出モードが“ **P** ”のときは、カメラが自動設定する開放側の限界絞り値は使用するISO感度により異なります。67ページをご覧ください。

ISO感度	100	160	200	400
開放側の限界絞り（内蔵ストロボ）	2.8	3.3	3.3	4

■内蔵ストロボの調光範囲について

ストロボは使用するISO感度と絞りによって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。
下表を参考にしてください。

（単位：m）

ISO <ガイドナンバー> / 絞り	100 <12>	160 <15>	200 <17>	400 <24>
1.4	2.5～5.0	—	—	—
2	1.5～4.5	2.5～5.0	2.5～5.3	—
2.8	1.0～3.3	1.5～4.7	2.2～5.0	3.0～6.0
4	0.7～2.5	1.0～3.3	1.0～3.5	2.3～5.0
5.6	0.6～1.7	0.8～2.2	0.8～2.5	2.0～3.5
8	0.6～1.0	0.6～1.5	0.6～1.6	0.8～2.3
11	—	—	0.6～1.0	0.6～1.6
16	—	—	—	0.6～1.0

＊ストロボ光の届く距離は、ガイドナンバー（このカメラの内蔵ストロボの場合は12）÷セットした絞りによっても、割り出すことができます。

感度をISO800、ISO1600に設定したときは、内蔵ストロボは発光しますが適正な調光ができない場合があります。次の方法で確認してください。
- SET－UP画面で撮影画像表示をプレビューにします。
- “ PLAY ”ボタンを押して、再生してください。

内蔵ストロボに使用可能なレンズについて

■内蔵ストロボに使用可能なレンズについて

- 内蔵ストロボには、28mmから300mmまでのCPU内蔵ニッコールレンズが使用できます。
- レンズフードは取り外して使用してください。
- 撮影距離0.6m未満では使用できません。
- 下記のズームレンズではケラレが発生し、写真の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

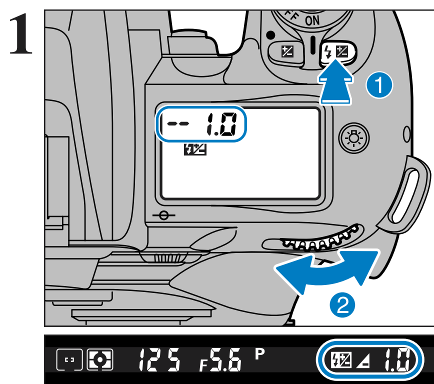
制限のあるAFズームレンズ	注意していただきたいこと
AF-S ED 17～35mm f/2.8	焦点距離35mmの撮影距離1.5m以上で使用可能
AF 20～35mm f/2.8	焦点距離28mm以上（28mm時は撮影距離2m以上、35mm時は撮影距離0.7m以上）で使用可能
AF ED 18～35mm f/3.5～4.5 AF 24～85mm f/2.8～4	焦点距離28mmの撮影距離1m以上で使用可能
AF 24～120mm f/3.5～5.6	焦点距離28mm以上（28mm時は撮影距離0.8m以上）で使用可能
AF-S ED 28～70mm f/2.8	焦点距離50mm以上（50mm時は撮影距離0.8m以上）で使用可能
AF 28～85mm f/3.5～4.5	焦点距離28mmの撮影距離2m以内では使用不可
AF 35～70mm f/2.8	焦点距離35mmの撮影距離0.8m以内では使用不可
AF マイクロ ED 70～180mm f/4.5～5.6	焦点距離70mmの撮影距離0.7m以内では使用不可

※内蔵ストロボ撮影時に使えるCPU内蔵ニッコール以外のレンズは、200mmf/2レンズを除く、焦点距離が28mmから200mmまでのニッコール（Ai-S,Ai,改造Ai）、ニコンレンズシリーズEが使用できます。ただし以下のレンズは使用に制限があります。Ai-s・Ai 25-50mm f/4（40mm以上で使用可能、ただし撮影距離0.8m以内では使用不可）、Ai-S 28-85mm f/3.5-4.5（35mm以上で使用可能）Ai 35-70mm f/3.5（35mmの撮影距離1m以内では使用不可）、Ai 28-45mm f/4.5（28mmの撮影距離1m以内では使用不可）、Ai改 50-300mm f/4.5（200mm以上で使用可能）、Ai-S・Ai 50-300mm f/4.5（135mm以上で使用可能）、Ai-S 80-200mm f/2.8（105mm以上で使用可能）、Ai改 80-250mm f/4（135mm以上で使用可能）

ストロボ調光補正

ストロボ調光補正とは、ストロボとカメラが行う適正な調光を意図的に変えることをいいます。たとえば、発光量をより多くして主要被写体を一段と明るく照らしたいとき、あるいは発光量をより少なくして、主要被写体に光が強く当たり過ぎないようにしたいときに使用します。

1



❶“ ストロボ調光補正 ”ボタンを押しながら、❷メインコマンドダイヤルで補正量をセットします。
上面表示パネルとファインダー内表示に“ ”が点灯します。

補正範囲：－3段～＋1段、1/2段ステップ
補正の目安：被写体に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正します。

2 以降の手順は、通常のストロボ撮影と同じです（➡62ページ）。

補正量を確認するには

“ ストロボ調光補正 ”ボタンを押します。

■ストロボ調光補正量の表示例

補正量	上面表示パネル	ファインダー内表示
“ 0.0 ”	0.0	0.0
“ ＋0.5 ”	+ 0.5	0.5
“ －0.5 ”	-- 0.5	0.5

調光補正を解除するには

● 補正量を“ 0.0 ”に戻します。

電源を切っても、ストロボ調光補正は解除されません。

使用可能なニコン製ストロボについて

このカメラには、次のニコン製ストロボが使用できます。装着レンズ欄の①はDタイプまたはGタイプニッコールレンズ（IXニッコールを除く）、②はDタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ（F3AF用を除く）、③はCPU内蔵ニッコール以外のレンズを示します。

ストロボ（接続方法）	レンズ	TTL			A	M		REAR		
		3D-マルチBL調光※1	マルチBL調光	TTL調光※3	外部自動調光	マニュアル	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	赤目軽減発光	モニター発光※4
SB-28/28DX（コードレス）	①	○		○	○	○	○	○	○	○
	②		○ ※1	○	○	○	○	○	○	○
	③			○	○	○	○	○	○	
SB-27（コードレス）	①	○		○	○	○		○	○	○
	②		○ ※1	○	○	○		○	○	○
	③			○	○	○		○	○	
SB-26 ※5（コードレス）	①	○		○	○	○	○	○	○	○
	②		○ ※1	○	○	○	○	○	○	○
	③			○	○	○	○	○	○	
SB-25（コードレス）	①	○		○	○	○	○	○	○	○
	②		○ ※1	○	○	○	○	○	○	○
	③			○	○	○	○	○	○	
SB-24（コードレス）	① ②		○ ※1	○	○	○	○	○	○	
	③			○	○	○	○	○	○	
SB-23、SB-29 ※6 SB-21B ※6（コードレス）	① ②		○ ※2	○		○		○	○	
	③			○		○		○	○	
SB-22S、SB-22、SB-20、SB-16B、SB-15（コードレス）	① ②		○ ※2	○	○	○		○	○	
	③			○	○	○		○	○	
SB-11 ※7 SB-14	① ②		○ ※2	○	○	○		○	○	
	③			○	○	○		○	○	

※1：測光モードをスポット測光以外にセットしてください。
※2：カメラの露出モードが“ **M**マニュアル ”以外に、測光モードはスポット測光以外にセットしてください。
※3：スポット測光ではTTL調光となります。また、SB-28/28DX・27・26・25・24以外のTTL調光が可能なストロボで露出モードを“ **M**マニュアル ” またはスポット測光にセットすると、TTL調光となります。
※4：測光モードをスポット測光にセットするとモニター発光が行われません。
※5：SB-26はスレーブ発光が行えます。ワイヤレススレーブセレクターをDにした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/90秒より低速側に切り換わります。
※6：SB-29、SB-21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70〜180mm）レンズ装着時のみ可能です。
※7：SB-11・14を使用して、TTLモードを使用する場合は、接続にTTL調光コードSC-23が必要です。“ **A** ”モード、または“ **M** ”モードを使用する場合は、SB-11・14にはSC-13にSU-2を併用して接続します。SB-11・14とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合はカメラのファインダー内表示のレディライトは使用できません。また、シャッタースピードの自動切り換えも行われません。

■ニコン製ストロボ使用時の注意

- 詳細はご使用になる各ストロボの使用説明書をご覧ください。
  TTLモードが可能なニコン製ストロボの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、Aグループカメラに該当する箇所をお読みください。
- ストロボ使用時の同調シャッタースピードは1/125秒以下の低速シャッタースピードです。
- TTLモード時のISO感度連動範囲はISO100〜400です。
- SB-26・25・24使用時、シンクロモードの設定はストロボ側の設定が優先されます（カメラ側の設定は無効となります）。

- カメラのシンクロモードを「赤目軽減発光」または「赤目軽減スローシンクロ」にセットし、赤目軽減発光機能を持つニコン製外部ストロボを使用すると、外部ストロボ側の赤目軽減ランプが発光します。
- フォーカスモードがAF-SでAFニッコールレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態か、または至近優先ダイナミックAF時以外は、アクティブ補助光を備えた別売りストロボを使用した場合でもアクティブ補助光は点灯しません。
- パワーブラケットSK-6とSB-24の組み合わせでは、ストロボ側のアクティブ補助光も、カメラ側のAF補助光も発光しません。
- 露出モードが“ **P**マルチプログラムオート ”のとき、カメラが自動設定する開放側の限界絞りは、使用するISO感度によって下表のように制御されます。

ISO感度	100	160	200	400
開放側の限界絞り（内蔵ストロボ）	2.8	3.3	3.3	4
開放側の限界絞り（別売りストロボ）	4	4.8	4.8	5.6

※制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- ストロボの調光補正時はファインダー内表示に露出補正マーク“ ⊠ ”が点灯しますが、補正値は表示されません。
- 露出モードを“ **P**マルチプログラムオート ”にセットし、ニコン製ストロボをTTLモード以外にセットしてストロボ撮影を行うと、上面表示パネルに“ FEE ”が、ファインダー内表示に“ FEE ”と“ **P** ”が点滅して、シャッターがきれません。露出モードを“ **P** ”以外にセットするか、ニコン製ストロボをTTLモードにセットしてください。
- SB-28/28DX・27・26・25を使用時にモニター発光を解除する場合は、測光モードをスポット測光にセットしてください。

◆ニコン製以外のストロボについて◆

ニコン製以外のストロボ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびストロボのシンクロ回路を破損することがあります。

■アクセサリーシュー（カバー付き）への取り付け方

ニコン製ストロボSB-28/28DX・27・26・25・24・23・22Sなどを使用する場合は、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。

このカメラのアクセサリーシューはセーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのニコン製ストロボ（SB-28/28DX・27・26・25・22Sなど）を取り付けると、ストロボが不用意に外れるのを防止できます。

外部ストロボを使用しないときは、必ずアクセサリーシューカバーを取り付けてください。

■シンクロターミナル（キャップ付き）

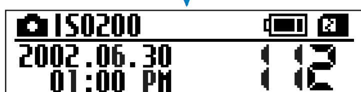
シンクロコードを必要とする外部ストロボ撮影時に、シンクロコードをシンクロコードターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、ニコン製ストロボSB-28DX・50DX・28・27・26・25・24・23・22S・29などをアクセサリーシューに装着した状態で後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他の外部ストロボを接続して増灯撮影などを行わないでください。

FUNC 撮影時のファンクションメニューの操作

保存する画像の画質（ホワイトバランス、クオリティー、ピクセル、カラー、トーン、シャープネス）と、AFエリアの設定を変更できます。

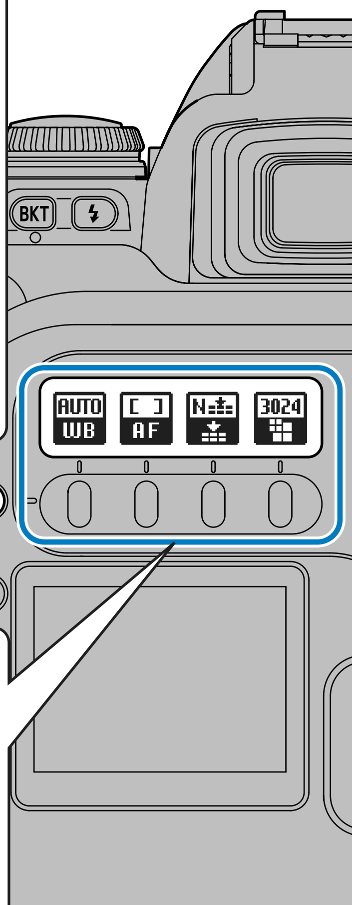
1 電源を入れ撮影モードにします。オートパワーオフした場合は、シャッターボタンを半押しして電源を入れます。

2 “FUNC”ボタンを押すたびに機能が切り換わります。





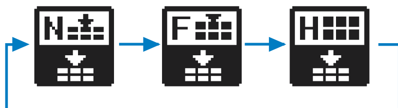




3

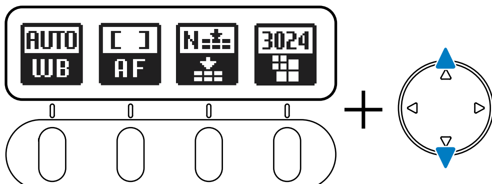
操作方法1

ボタンを押すたびに設定を変更できます。

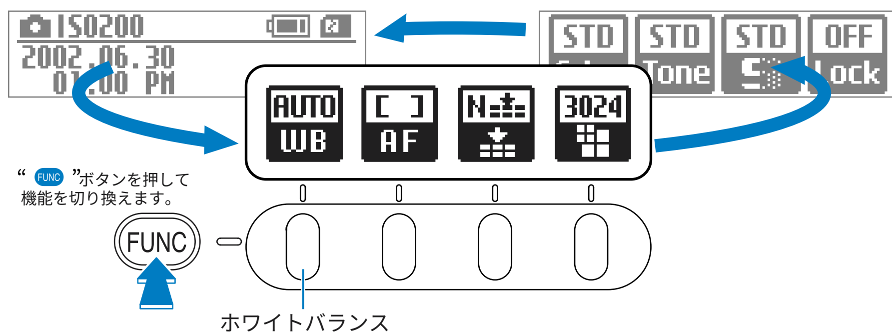


操作方法2

ボタンを押しながら“▲▼”で設定を変更できます。



ホワイトバランス



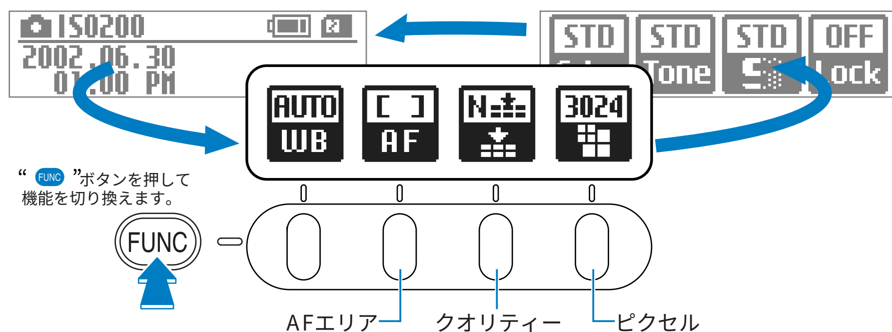
撮影時の環境・照明光に合わせ、ホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。
AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しいホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。

●工場出荷設定：AUTO WB オート

表　示	モード	説　明
AUTO WB	オート	その場の光量や色情報を自動的に判断し、自然なホワイトバランスで撮影できます。
CUS.1 WB	カスタム1	撮影者がセットアップメニューで設定(➡89ページ)したホワイトバランスになります。
CUS.2 WB	カスタム2	撮影者がセットアップメニューで設定(➡89ページ)したホワイトバランスになります。
WB	晴れ	晴れた日の屋外など、太陽を光源とする撮影のときに設定します。
WB	日陰	日陰や曇った日の撮影のときに設定します。
1 WB	蛍光灯1	光源が昼光色蛍光灯のときに設定します。
2 WB	蛍光灯2	光源が昼白色蛍光灯のときに設定します。
3 WB	蛍光灯3	光源が白色蛍光灯のときに設定します。
WB	電球	光源が電球や白熱灯のときに設定します。

●ストロボ発光時は、オートおよびカスタム以外のホワイトバランス設定は無効になりますので、意図した撮影の場合、ストロボは発光させないでください。

FUNC AFエリア/クオリティー/ピクセル



AFエリア

オートフォーカスで、選択したフォーカスエリアでピント合わせを行うシングルエリアAFモード、複数のフォーカスエリアを活用してピント合わせを行うダイナミックAFモードの切り換えができます。AFエリアモードの詳しい内容は、37ページをご参照ください。

●工場出荷設定：[ ] AF シングルエリア

表　示	名　称	フォーカスエリア	ファインダー内表示・上面パネルの表示	説　明
[ ] AF	シングルエリアAF		[ ]	動きの少ない被写体に対して、正確なピント合わせを行いたい場合などに便利です。
[+] AF	ダイナミックAF	または	または	動いている被写体を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。

クオリティー

撮影する画質を設定します。撮影目的に合わせた設定をしてください。
画質を優先する場合は“ FINE ”を、非圧縮の最高画質で撮影する場合は“ HIGH ”を選んでください。
通常は“ NORMAL ”で十分な画質が得られます。

●工場出荷設定： NORMAL（ノーマル）

表　示	名　称	説　明
	NORMAL ノーマル	記録できる画像の枚数は最も多くなります。
	FINE ファイン	HIGHについで高い画質で記録します。記録できる画像の枚数はHIGHよりも多くなります。
	HIGH ハイ	TIFF-RGB：非圧縮で、最高画質の画像を記録するときに設定します。 CCD-RAW（➡120ページ）：カメラで画像処理を行わず、パソコンで画像処理を施すときに設定します。

ピクセル

撮影する画像サイズを設定します。

●工場出荷設定： 3024×2016

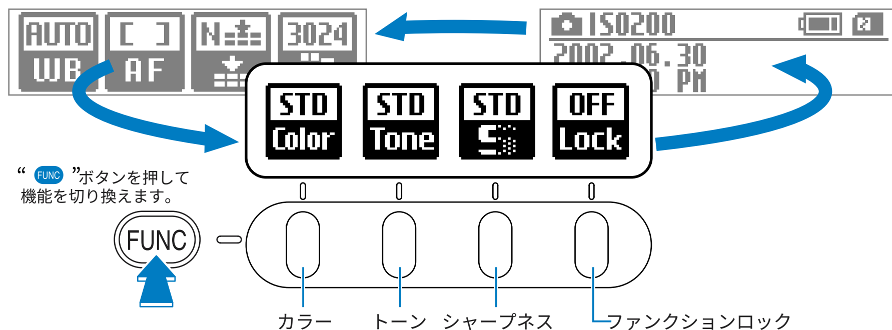
表　示	名　称	説　明
1440	1440	画像サイズを1440×960ピクセル（約138万画素）に設定します。 記録できる画像の枚数は最も多くなります。
2304	2304	画像サイズを2304×1536ピクセル（約353万画素）に設定します。
3024	3024	画像サイズを3024×2016ピクセル（約612万画素）に設定します。
4256	4256	画像サイズを4256×2848ピクセル（約1212万画素）に設定します。 記録できる画像枚数は最も少なくなります。

◆CCD-RAWで撮影するには…◆

CCD-RAW画像は、カメラで画像処理を行わないため画像サイズは“ 4256×2848 ”のみになります。また、必ずパソコンで付属のソフトウェアを使って画像処理を行う必要があります。

●CCD-RAW撮影を行なうには次の手順で設定してください。
1．SET－UP（➡87ページ）の“ HIGHモード ”の項目を“ CCD-RAW ”に設定します。
2．クオリティーを“ HIGH ”に設定します。

❗CCD-RAW画像は再生時のコマNo.が反転します。
❗ピクセルが“ ”と表示されます。



カラー

画像を撮影するときの、色の濃さを設定します。

●工場出荷設定：STD Color STANDARD（スタンダード）

表　示	名　称	説　明
STD Color	STANDARD スタンダード	色の濃さを標準に設定します。
HIGH Color	HIGH ハイ	色の濃さを標準よりも濃くするときに設定します。
ORG Color	ORIGINAL オリジナル	色の濃さを標準よりも薄くするときに設定します。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。
B/W Color	BLACK & WHITE ブラックアンドホワイト	撮影した画像の色を黒白にするときに設定します。

●画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は［オリジナル］は選択しないでください。

トーン（階調）

画像を撮影するときの、コントラストについて設定します。

●工場出荷設定：STD Tone STANDARD（スタンダード）

表　示	名　称	説明
STD Tone	STANDARD スタンダード	撮影された画像のコントラストを標準に設定します。
HARD Tone	HARD ハード	画像のコントラストを標準より強くし、メリハリのある画像にするときに設定します。
ORG Tone	ORIGINAL オリジナル	標準よりもコントラストを低く設定します。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。

●画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は［オリジナル］は選択しないでください。

シャープネス

輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調整するときに使用します。

●工場出荷設定： STANDARD（スタンダード）

表　示	名　称	説　明
STD	STANDARD スタンダード	通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。
HARD	HARD ハード	輪郭を強調します。建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。
OFF	OFF オフ	シャープネス処理をかけていません。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。

●画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は［OFF］は選択しないでください。

ファンクションロック

ファンクションメニューの設定を変更できないようにロックできます（誤操作防止）。

●工場出荷設定： OFF

表　示	名　称	説　明	
OFF Lock	OFF オフ	ファンクションロックは解除されています。	STD Color / STD Tone / STD / OFF Lock
ON Lock	ON オン	ファンクションロックは設定されています。 この状態では設定を変更できません。設定を変更するには、“ F4 ”ボタンを押してファンクションロックを解除します。	STD Color / STD Tone / STD / ON Lock

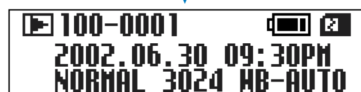
再生時のファンクションメニューの操作

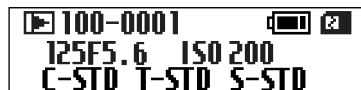
表示されている画像の操作（ヒストグラム表示、消去、プロテクト）やマルチ再生と1コマ再生の切り換えが行えます。

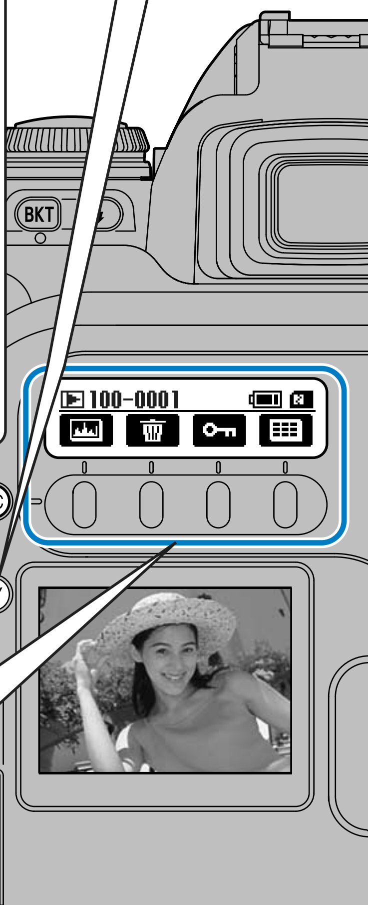
1 電源を入れ"PLAY"ボタンを押して再生モードにします。オートパワーオフしているときは、シャッターボタンを半押しすると、電源が入ります。

2 "FUNC"ボタンを押すたびに機能が切り換わります。









3



ヒストグラム

ボタンを押すたびにヒストグラム表示を切り換えます。



1コマ消去

画像を消します。



1コマプロテクト

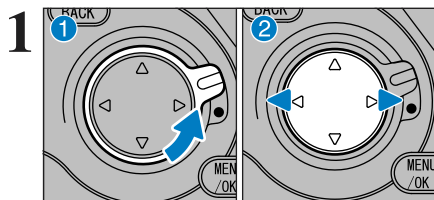
画像をプロテクト、プロテクト解除します。

マルチ再生

ボタンを押すたびに、1コマ再生とマルチ再生を切り換えます。

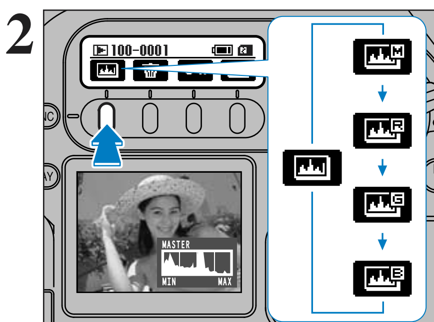
FUNC ヒストグラム

1



❶十字ボタンのロックを解除し、❷“ ◀▶ ”でヒストグラムを表示するコマを選びます。

2

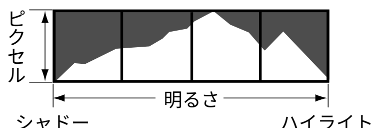


“ F1 ”ボタンを押すたびに、ヒストグラム表示が切り換わります。
ヒストグラムは、プレビュー画像と再生画像に対して、下記の4パターンを表示できます。

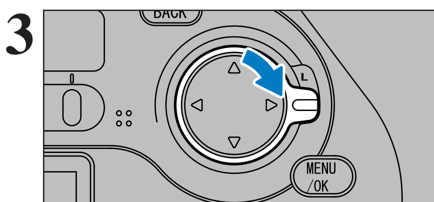
- [M]：画像の輝度のヒストグラムを表示します。
- [R]：画像の赤色のヒストグラムを表示します。
- [G]：画像の緑色のヒストグラムを表示します。
- [B]：画像の青色のヒストグラムを表示します。

! 背面表示パネルに“ [ヒストグラム] ”が表示されない場合は、“ FUNC ”ボタンを押して、画面を切り換えてください。

! ヒストグラムとは画像の明るさの分布をグラフに表したものです。



3



操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

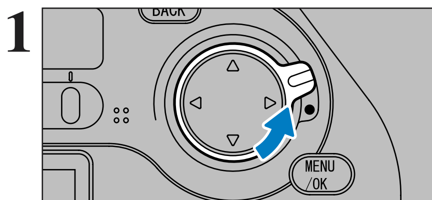
■ヒストグラム表示について

表　示	モード	平均的な分布	右に偏り	左に偏り
		[グラフ]	[グラフ]	[グラフ]
[M]	MASTER 輝度	適正露出	露出オーバー	露出アンダー

FUNC 1コマ消去

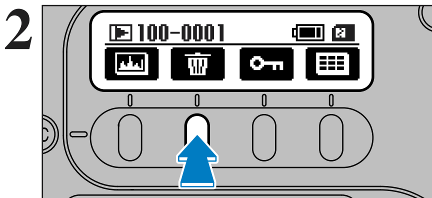
撮影した画像を消去します。

1



十字ボタンのロックを解除します

2

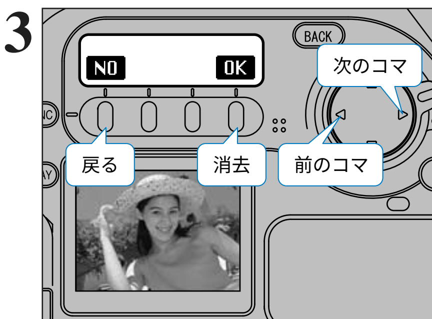


“F2”ボタンを押して消去確認画面を表示します。

背面表示パネルに“ 🗑 ”が表示されない場合は、“ FUNC ”ボタンを押して、画面を切り換えてください。

表示中のコマがプロテクトされていると、“ 🗑 ”ではなく、“ ”が表示され液晶モニター右上に“ ”が表示されます。

3



消去確認画面では次の操作ができます。

コマを選ぶ：“ ◀▶ ”

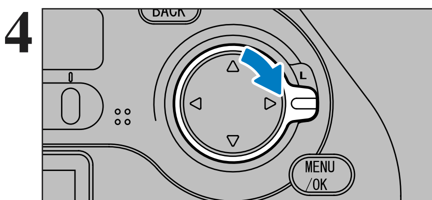
表示中のコマを消去する：“ OK ”（“F4”ボタン）

1コマ再生に戻る：“ NO ”（“F1”ボタン）または“BACK”ボタン

“ ! PROTECTED FRAME ”が表示されたコマは、プロテクトされています。そのコマのプロテクトを解除してから、消去してください。

“ プリント予約されています　このコマを消去しますか？ ”が表示された場合、ファイルを消去するには“ OK ”（“F4”ボタン）をもう一度押します。

4

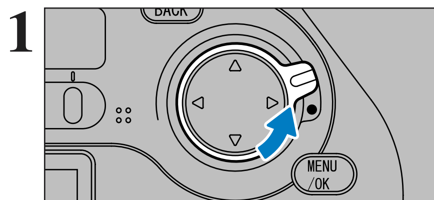


操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

FUNC 1コマプロテクト

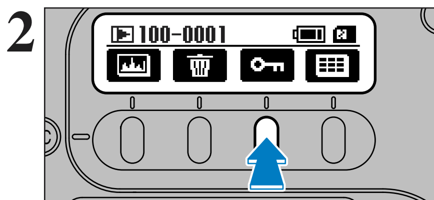
プロテクトとは、画像を誤って消去しないように設定することです。
プロテクトされたコマは「1コマ消去」「全コマ消去」で消去できません。
ただし、「フォーマット」ではすべてのファイルが消去されます。

1



十字ボタンのロックを解除します。

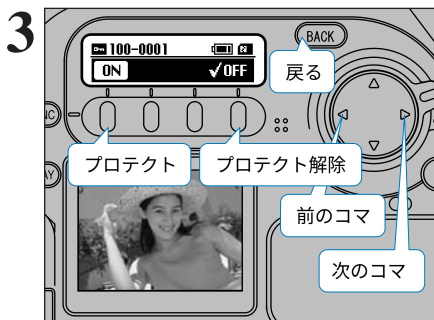
2



“ F3 ”ボタンを押して、プロテクト画面を表示します。

❗背面表示パネルに“ ”が表示されない場合は、“ FUNC ”ボタンを押して、画面を切り換えてください。
❗表示中のコマがプロテクトされていると、“ ”ではなく、“ ”が表示されています。

3

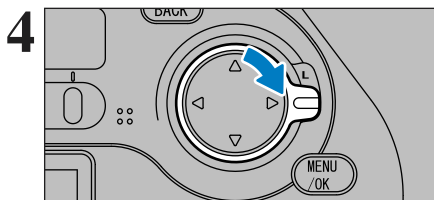


プロテクト画面では次の操作ができます。
コマを選ぶ：“ ◀▶ ”
プロテクトする：“ ON ”（“ F1 ”ボタン）
プロテクトを解除する：“ OFF ”（“ F4 ”ボタン）
1コマ再生に戻る：“ BACK ”ボタン

■プロテクトの確認するには

	液晶モニター	背面表示パネル（プロテクト画面）	背面表示パネル（1コマ再生中）
プロテクトされている	(キーアイコン)	100-0001 ✓ON OFF	100-0001
プロテクトされていない	表示なし	100-0001 ON ✓OFF	100-0001

4



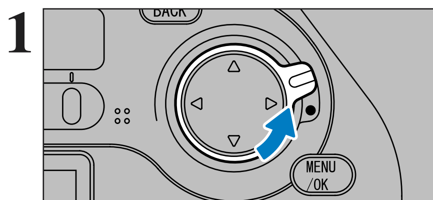
操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

機能編 再生

FUNC マルチ再生

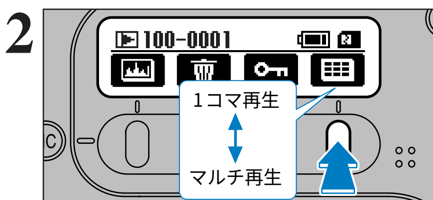
マルチ再生では、1度に9コマ表示します。たくさんの画像から1つの画像を探すときなどに便利です。

1



十字ボタンのロックを解除します。

2



“ F4 ”ボタンを押します。

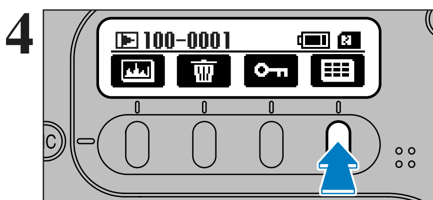
背面表示パネルに“ ”が表示されない場合は、“ FUNC ”ボタンを押して、画面を切り換えてください。

3



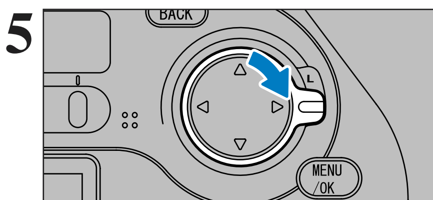
“ ▲▼◀▶ ”でカーソル（橙色の枠）を動かして、コマを選べます。数回“ ▲ ”が“ ▼ ”を押すと次のページに切り換わります。

4



もう一度“ F4 ”ボタンを押すと、選んだ画像を大きく表示することができます。

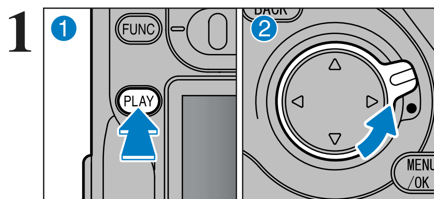
5



操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

消去

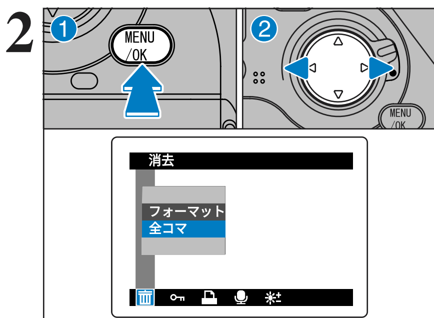
1



❶"PLAY"ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。

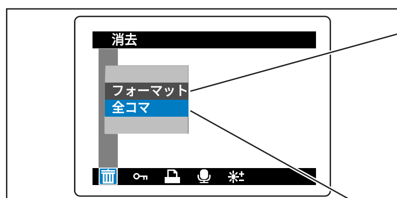
メニュー操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

2



❶" MENU/OK "ボタンを押してメニューを表示します。
❷" ◀▶ "で" 消去アイコン "を選びます。

❗メニューを終了するには" BACK "ボタンを押してください。



フォーマット

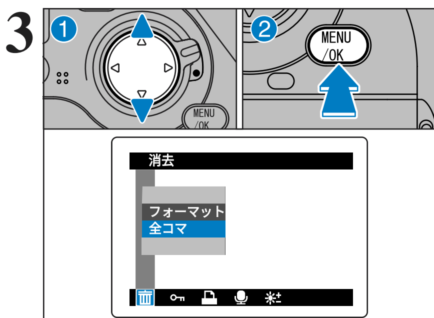
すべてのファイルを消去し、メディアをカメラ用に初期化します。
消去したくないファイルは、パソコンなどにコピーしてください。

❗プロテクトしたファイルも消えます。

全コマ

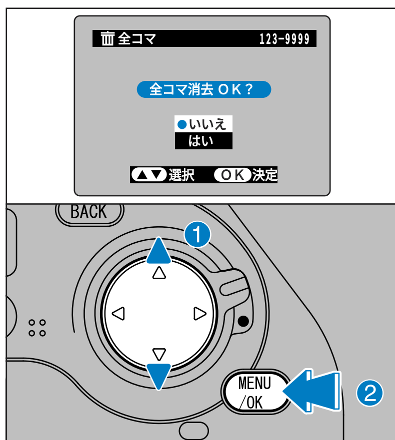
プロテクトしていないファイルをすべて消去します。

3



❶" ▲▼ "で" 全コマ "か" フォーマット "を選びます。
❷" MENU/OK "ボタンを押します。

次ページにつづく

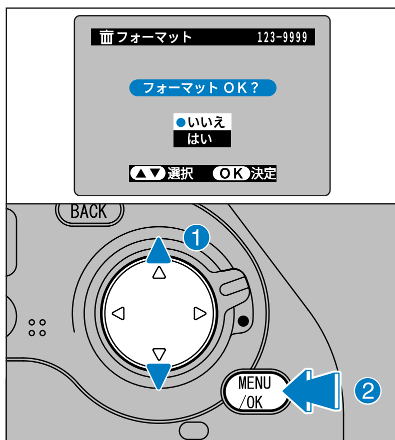


全コマ

❶"▲▼"で"はい"を選びます。
❷"MENU/OK"ボタンを押すとプロテクトしていないファイルをすべて消去します。

コマ数が多いときは時間がかかります。途中でやめたいときは"BACK"ボタンを押してください。

"プリント予約されています 全コマ消去しますか？"が表示された場合、ファイルを消去するには"▲▼"で"はい"を選んで"MENU/OK"ボタンを押します。



フォーマット

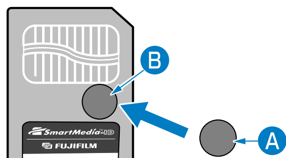
❶"▲▼"で"はい"を選びます。
❷"MENU/OK"ボタンを押すとすべてのファイルが消去され、メディアが初期化されます。

"! CARD ERROR""! WRITE ERROR""! READ ERROR""! CARD NOT INITIALIZED"が表示された場合は、フォーマットする前に114ページを参照し、対処してください。

プロテクトされていても"フォーマット"するとすべて消去されます。

◆スマートメディア™の誤記録防止について◆

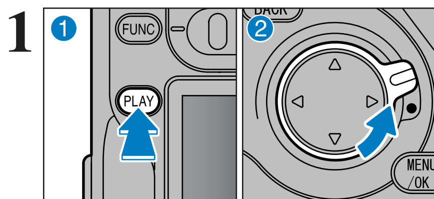
ライトプロテクトシールをはると、画像の記録/消去・フォーマットができません。シールをはがすと通常どおり使用できます。ライトプロテクトシールは、別売のスマートメディアに同梱されています。



＊必ず専用のライトプロテクトシールⒶを、ライトプロテクトエリア内Ⓑに、はみ出さないようにしっかりとはってください。はがしたシールの再利用はできません。
＊シールの端で手を切らないようにご注意ください。
＊シールが汚れていると誤記録防止されないことがあります。
＊スマートメディアについて、詳しくは111ページをご参照ください。

全コマプロテクト設定/解除

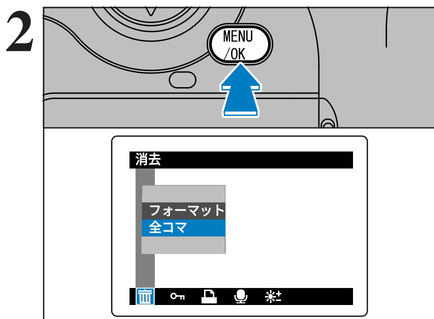
1



❶" PLAY "ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。

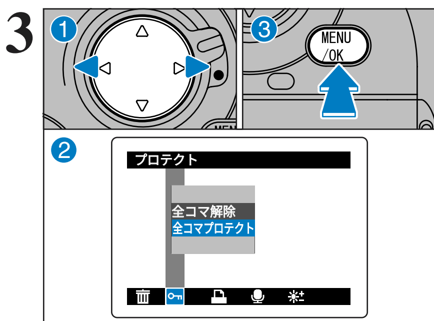
メニュー操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

2



" MENU/OK "ボタンを押すとメニューが表示されます。

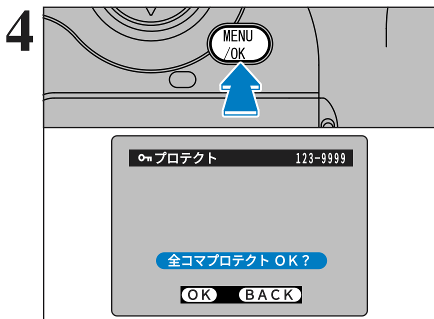
3



❶" ◀▶ "で" O━ "を選びます。
❷" ▲▼ "を押して" 全コマプロテクト "か" 全コマ解除 "を選びます。
❸" MENU/OK "ボタンを押します。

プロテクトされていても" フォーマット "するとすべて消去されます (➡80ページ)。

4



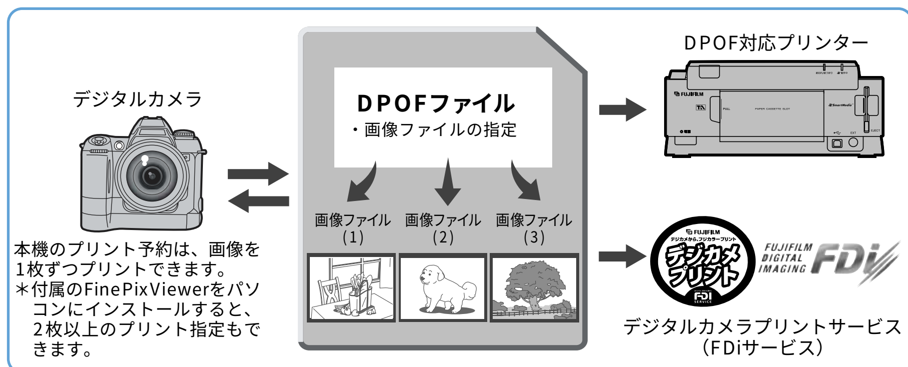
実行を確認する画面が表示されます。OKなら" MENU/OK "ボタンを押します。

❗コマ数が多いときは時間がかかります。途中でやめたいときは" BACK "ボタンを押してください。
❗プロテクト操作を終了するには" BACK "ボタンを押し、メニューに戻ります。

プリント予約



DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数などの指定情報をスマートメディア™などに記録するときの形式です。



- DPOF対応デジタルカメラ（本機）では上記の情報をカメラの操作でメディアに記録することができます。
- DPOF情報を記録したメディアを、フジフイルム デジタルカメラプリントサービス（FDiサービス）取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。対応メディアについては、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお問い合わせください。
- CCD-RAWファイルは、FDiサービスではプリントできません。
- DPOF対応プリンターでは、DPOF情報があれば、指定コマ（画像ファイル）を指定枚数だけ自動的にプリントできます。

1

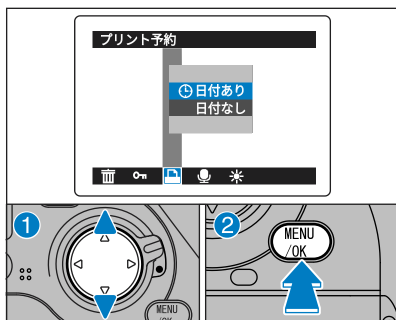
❶“PLAY”ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。
❸“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

メニュー操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

2

“◀▶”で“🖶”プリント予約を選びます。

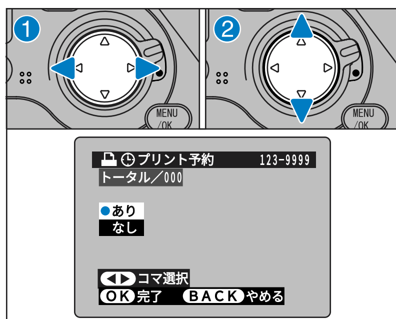
3



❶“ ▲▼ ”で“ 日付あり ”か“ 日付なし ”を選びます。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押します。

プリント予約するすべてのコマに有効です。

4

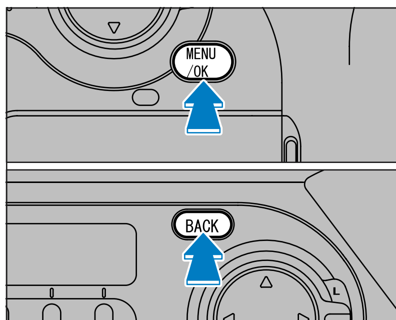


❶“ ◀▶ ”で設定するコマを表示します。
❷プリントするコマに“ ▲▼ ”で“ あり ”を選びます。

続けて設定するには、❶❷を繰り返します。
プリント予約したいコマの設定が終わるまでは“ MENU/OK ”ボタンを押さないでください。

❗CCD-RAWファイルは、そのままではプリントできないため、プリント予約できません。
❗“ トータル ”はプリント指定したコマ数の合計です。

5

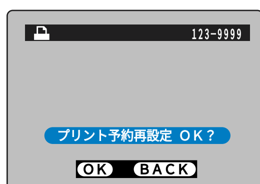


設定が終了したら、必ず“ MENU/OK ”ボタンを押して決定してください。
“ BACK ”ボタンを押すとプリント予約されません。

❗指定できるプリント枚数は1コマにつき1枚です。また、同一メディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。

“ MENU/OK ”ボタンを押すとすべてが決定されます。

◆プリント予約の変更はできません◆



すでにプリント予約されたコマがある場合は“ プリント予約再設定OK？ ”と表示されます。
“ MENU/OK ”ボタンを押すと、すでにプリント予約された設定はすべて消去されます。
新たにプリント予約をやり直す必要があります。

❗“ BACK ”ボタンを押すと設定を変更しません。
❗前回の設定は再生時に“ 🖨 ”が表示され確認できます。

機能編 再生

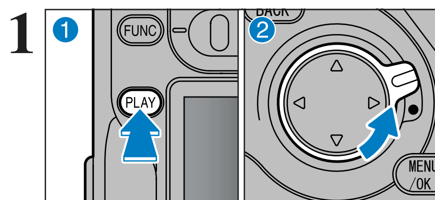
ボイスメモ（録音）

画像に対して最長30秒間の音声メモ（コメント）が付けられます。

●記録時間：最長30秒
　録音形式：WAVE（➡120ページ）
　　　　　　PCM記録形式
　音声ファイルサイズ：約240KB（30秒録音時）

撮影直後にボイスメモを付けることもできます。詳しくは91ページをご覧ください。
録音したボイスメモはカメラでは再生できません。再生するときは、付属のFinePixViewerをインストールしたパソコンで行ってください。

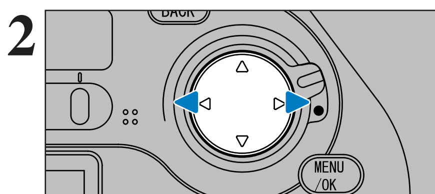
1



❶“ PLAY ”ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。

メニュー操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

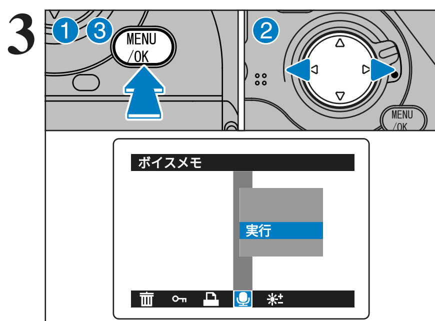
2



“ ◀▶ ”でボイスメモを付けたい画像を選びます。

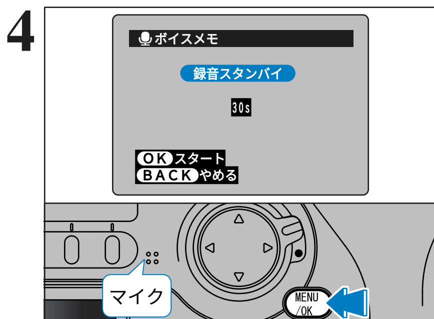
プロテクトしたコマにはボイスメモは付けられません。いったんプロテクトを解除してからボイスメモを付けてください。

3



❶“ MENU/OK ”ボタンを押してメニューを表示します。
❷“ ◀▶ ”で“ 🎤 ”を選びます。
❸“ MENU/OK ”ボタンを押します。

4

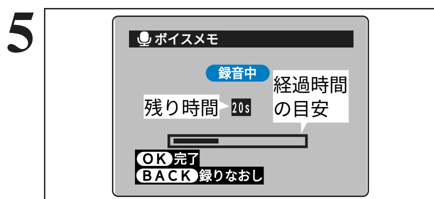


液晶モニターに“ 録音スタンバイ ”と表示されます。“ MENU/OK ”ボタンを押すと録音が開始されます。

メディアの空き容量によっては、録音時間が短くなることがあります。

カメラ背面のマイクに向かって録音してください。約20cm離れるとうまく録音できます。

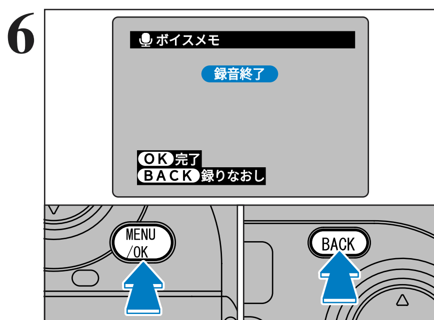
5



録音中は液晶モニターに残り時間と経過時間の目安が表示されます。

途中で完了する場合は“ MENU/OK ”ボタンを押してください。

6



30秒間録音すると、液晶モニターに“ 録音終了 ”と表示されます。

完了する場合：“ MENU/OK ”ボタンを押します。
録りなおしする場合：“ BACK ”ボタンを押します。

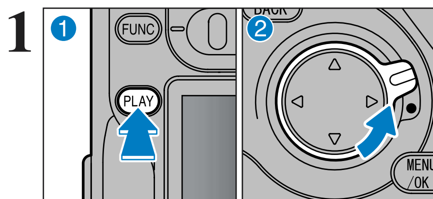
◆すでにボイスメモがあるときは◆



ボイスメモ付きの画像を選んだときは、再録音するかどうか選択画面が表示されます。“ ▲▼ ”で戻るか、再録音を選び“ MENU/OK ”ボタンを押してください。
すでに録音されたボイスメモを確認するには、パソコンでFinePixViewerを使い再生してください。

モニター明るさ

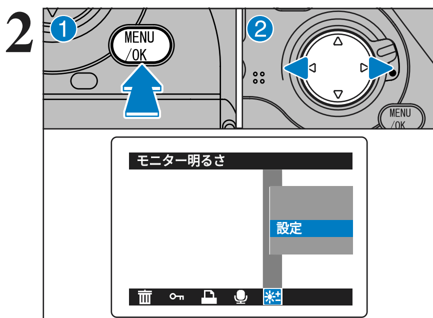
1



❶" PLAY "ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。

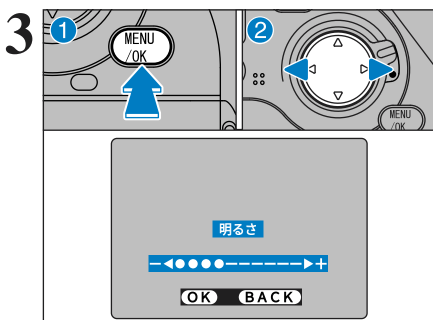
メニュー操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

2



❶" MENU/OK "ボタンを押してメニューを表示します。
❷" ◀▶ "で" モニター明るさ "を選びます。

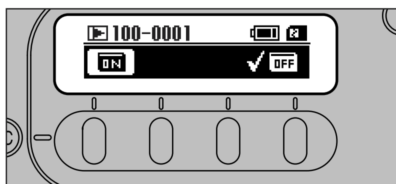
3

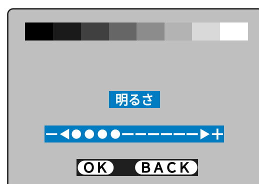


❶" MENU/OK "ボタンを押すと、モニター明るさ設定画面になります。
❷" ◀▶ "でモニターの明るさを調整します。

◆明るさ調節確認バー◆

明るさ設定画面で明るさ調節確認バーの表示をON/OFFすることができます。





SET－UP

■SET－UPメニュー一覧

項　目	表　示	工場出荷設定	内　容
撮影画像表示	OFF/ON/プレビュー/ プレビュー	OFF	撮影後にプレビュー画面（撮影結果）を表示するかどうか設定できます。詳しくは88ページ参照。
カスタムWB設定	▶設定	－	光源に対して正確にホワイトバランスを合わせたいときに使用します。詳しくは89ページ参照。
HIGHモード	TIFF-RGB/ CCD-RAW	TIFF-RGB	クオリティをHIGHにしたときに、どのファイル形式を使うか指定します。
メディア	スマートメディア/ CF TypeII	スマート メディア	スマートメディアとマイクロドライブが入っているときに、使用するメディアを設定します。
テストレリーズ	する/しない	する	メディアがセットされていなくても、シャッターを切りたいときは、“ON”に設定してください。
ボイスメモ	OFF/ON	OFF	詳しくは91ページ参照。
コマNo.メモリー	OFF/ON	OFF	詳しくは92ページ参照。
PCモード	1394転送/ USB転送/ 1394撮影	1394転送	詳しくは98～101ページ参照。
ビープ♪	LOW/HIGH/OFF	LOW	操作したときの音量を設定できます。
言語/ LANGUAGE	日本語/ ENGLISH/ FRANCAIS/ DEUTSCH	日本語	液晶モニターに表示する言語を切り換えます。
日時設定	▶設定	－	詳しくは22ページ参照。
SET－UPリセット	▶実行	－	日時設定、カスタムWB設定を除く、SET－UPの設定をリセットします。

セットアップの動作

1

❶電源を入れ、撮影モードにします。
❷“MENU/OK”ボタンを押すと、SET－UP画面が表示されます。

電池を交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずに電池カバーを開けたりACパワーアダプターを抜くと、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

2

❶十字ボタンのロックを解除します。
❷“▲▼”で項目を選択します。“◀▶”で設定を変更します。
❸すべての設定が終わったら“MENU/OK”ボタンを押します。

“カスタムWB設定”、“日時設定”、“SET－UPリセット”は“▶”を押します。

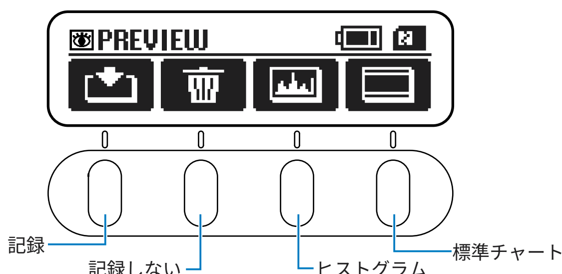
メニュー操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

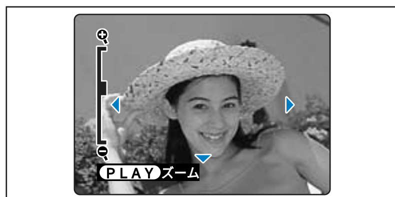
撮影画像表示

撮影後に撮影結果を表示するかしないか設定できます。
OFF　　　　：撮影結果は表示されず、自動的に記録されます。
ON　　　　 ：撮影結果が約2秒間表示され、自動的に記録されます。
プレビュー　：撮影結果が表示され画像の状態を確認後、画像を記録する、記録しないを選べます。
プレビュー：ヒストグラムが表示されるプレビューです。

プレビュー表示された画像はオートパワーオフ機能（工場出荷設定15秒）が働くとキャンセルされます。オートパワーオフ機能が働く前にプレビュー画像を記録してください。

プレビューの操作





プレビューズーム

十字ボタンのロックを解除し、“ ▲▼ ”でズームします。
見える範囲を移動するには、“ PLAY ”ボタンを押してから、“ ▲▼◀▶ ”を押します。ズームに戻るにはもう一度“ PLAY ”ボタンを押します。



ヒストグラム

ボタンを押すとヒストグラムが表示されます。ボタンを押すたびにマスター→R→G→Bの順に表示が切り換わります。

ヒストグラムについて（➡75ページ）。

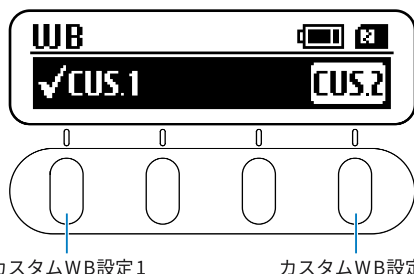


標準チャート

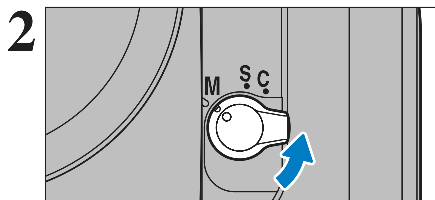
液晶モニター上部に“ グレースケール ”、下部に“ カラーバー ”が表示されます。画像とバーの色を比較して輝度や色合いを確認するときに使用します。

カスタムWB設定

1 光源に対して正確にホワイトバランスを合わせたいときに使用します。特殊な効果を出したいときにも使用できます。
“ F1 ”ボタン（カスタムWB設定1）または“ F4 ”ボタン（カスタムWB設定2）を押し、設定したいカスタムホワイトバランスを選びます。



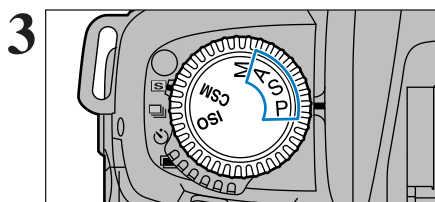
2



フォーカスレバーを“ **M**マニュアルフォーカス ”に合わせ手動でピントを合わせます。

白い紙などはオートフォーカスでピントを合わせることができず、シャッターが切れないことがあります。

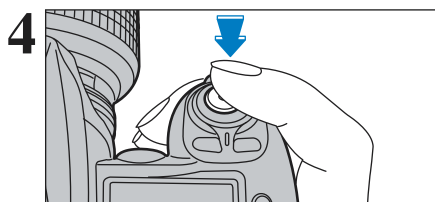
3



露出モードを“ **P**・**S**・**A** ”のいずれかに合わせます。

露出モード“ **M**マニュアル ”でもカスタムWBの測定はできますが、極端にアンダーまたはオーバーでは最適な測定がされないことがあります。

4



設定したい光源下で白い紙などをファインダーいっぱいにとらえ、シャッターボタンを押すと設定されます。

●カスタムWB設定可能範囲
色温度 約2800K〜約9500K

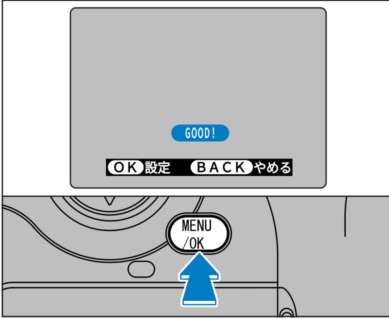
画面にホワイトバランスは反映されません。

◆使用例◆

白い紙の代わりに色紙を使用すると、撮影画像のホワイトバランスを意図的に変えることができます。

設定編

5



適正な露出で測定されると、“ GOOD！ ”と液晶モニターに表示されます。
“ MENU/OK ”ボタンを押して決定します。

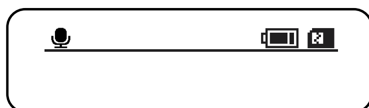
撮影後、画像の色味（ホワイトバランス）を確認することをおすすめします。
- SET－UP画面で撮影画像表示（➡88ページ）をプレビューにします。
- “ PLAY ”ボタンを押します（➡32ページ）。

ホワイトバランス設定が終わったら、使用するフォーカスモードに合わせてください。

■適正な露出で測定されないときは

	処　置
！OVER	被写体が明るすぎます。－側に露出補正してもう一度設定しなおしてください。
！UNDER	被写体が暗すぎます。＋側に露出補正してもう一度設定しなおしてください。
！OUT　OF　RANGE	カスタムWB設定可能範囲を超えているため、最大値（または最小値）が設定されます。 ●カスタムWB設定可能範囲：色温度 約2800K〜約9500K

ボイスメモ



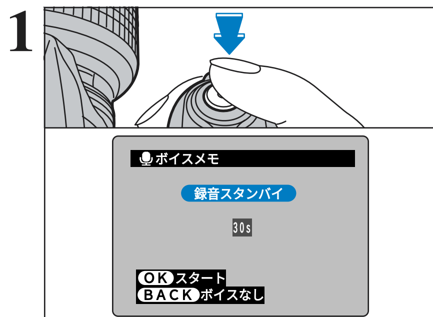
ボイスメモを“ ON ”にして撮影すると、背面表示パネルに“ 🎙 ”が表示されます。
撮影直後にその画像に対して最長30秒間の音声メモ(コメント)が付けられます。

●録音形式：WAVE(➡120ページ)
　　　　　PCM記録形式
●音声ファイルサイズ：約240KB(30秒録音時)

❗メディアの空き容量によっては、録音時間が短くなることがあります。

録音したボイスメモはカメラでは再生できません。再生するときは、付属のFinePixViewerをインストールしたパソコンで行ってください。

1



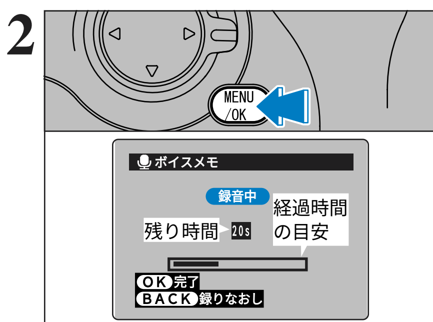
録音の手順

レリーズモードを“ S 1コマ ”にして撮影します。
撮影後に“ 録音スタンバイ ”と画面に表示されます。

❗レリーズモード“ 連写 ”では録音できません。
❗録音しない場合は“ BACK ”ボタンを押します。ただし画像は記録されます。
❗液晶モニターは、録音終了後“ OFF ”に戻ります。

十字ボタン左横のマイク(➡8ページ)に向かって録音してください。約20cm離れるとうまく録音できます。

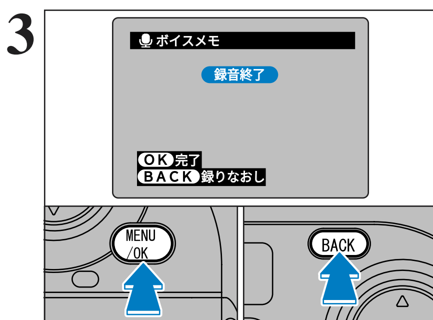
2



“ MENU/OK ”ボタンを押すと録音が開始されます。
録音中は液晶モニターに残り時間と経過時間の目安が表示されます。

❗メディアの空き容量によっては、録音時間が短くなることがあります。
❗途中で完了する場合は“ MENU/OK ”ボタンを押してください。

3

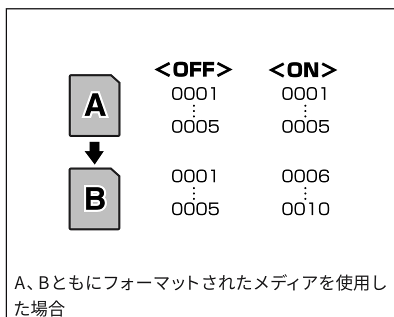


30秒間録音すると、液晶モニターに“ 録音終了 ”と表示されます。
完了する場合：“ MENU/OK ”ボタンを押します。
録りなおしする場合：“ BACK ”ボタンを押します。

設定編

コマNo.メモリー

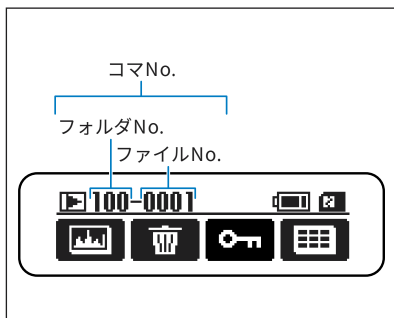
撮影されたコマのファイルNo.を管理します。“ ON ”にすると、パソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、便利です。



A、Bともにフォーマットされたメディアを使用した場合

OFF ：メディアごとに「ファイルNo. 0001」から撮影されます
ON ：最後に使用したメディアの「最終ファイルNo.」から続けて撮影されます

- 記憶した「最終ファイルNo.」より、大きいファイルNo.の画像がメディアにあった場合、大きいファイルNo.の続きから撮影されます。



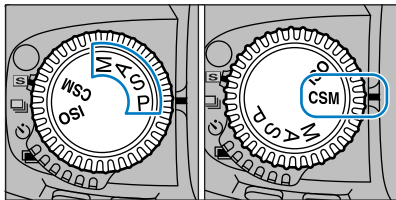
画像を再生するとファイルNo.を確認できます。画面の右上の7けたの数字のうち下4けたがファイルNo.で、上3けたはフォルダNo.です。

- メディアを交換するときは、必ず電源を切ってからスロットカバーを開けてください。電源を切らずにスロットカバーを開けると、コマNo.メモリーが機能しません。
- ファイルNo.は0001から9999までで、それを超えるとフォルダNo.が1つ繰り上がります。最大で999－9999までカウントされます。
- コマNo.メモリーを“ OFF ”にすると、記憶した「最終ファイルNo.」がリセットされます。
- 他のカメラで撮影した画像は、コマNo.表示が異なる場合があります。
- 電池をぬいたまま長期間放置するとリセットされます（電池を入れて約2日間以上経過していれば、約半年間保持します。）。

ツーボタンリセット

ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部のセット状態を初期状態に戻すことができます。

1 露出モードダイヤルを“ **P・S・A・M** ”または“ **CSM** ”に合わせて、リセットする内容を選びます。



<table>
<tr><th>露出モードダイヤル</th><th>リセットされる内容</th></tr>
<tr><td>“ P・S・A・M ”</td><td>撮影機能が次のようにリセットされます。
<table>
<tr><th>機　能</th><th>状　態</th></tr>
<tr><td>フォーカスエリア</td><td>中央</td></tr>
<tr><td>プログラムシフト</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>露出補正</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>オートブラケティング</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>AEロック</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>シンクロモード</td><td>先幕シンクロ</td></tr>
<tr><td>調光補正</td><td>解除</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>“ CSM ”</td><td>●カスタムセッティングのすべてがリセットされます。
●ISO感度が200にリセットされます。</td></tr>
</table>

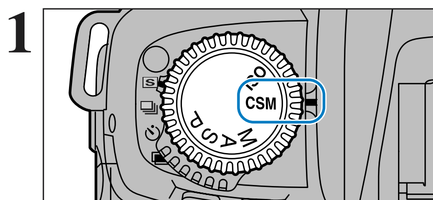
2 “ BKT ”と“ ☒ ”を同時に2秒以上押し続けます（近くに緑色の目印があります）。
上面表示パネルが一瞬点滅しリセットされます。

3 リセットが完了したら、露出モードダイヤルを“ **CSM** ”以外に合わせます。

カスタムセッティング（CSM）

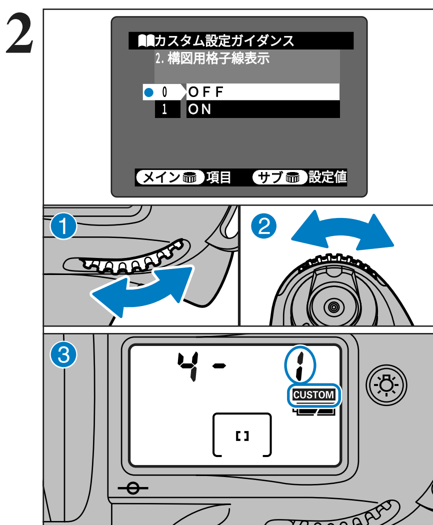
カスタムセッティングにより、ボタンの働きやファインダー内の表示方法などの、カメラの各機能を変更できます。

1



露出モードダイヤルを“ CSM ”に合わせます。

2

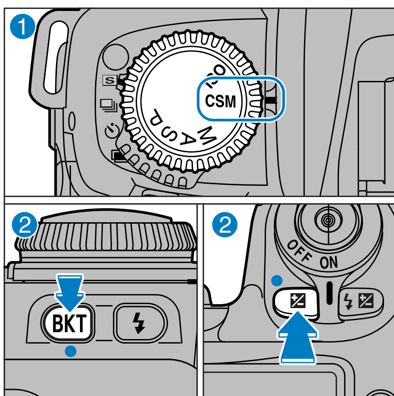


❶メインコマンドダイヤルで項目を選択します。
❷サブコマンドダイヤルで設定を変更します。
❸上面表示パネルに“ CUSTOM ”が表示されます。

3 設定が終わったら、露出モードダイヤルを“ CSM ”以外に合わせます。

電池を切っても設定した内容は保持されます。

カスタムセッティングを解除するには



❶露出モードダイヤルを“ CSM ”に合わせます。
❷“ BKT ”と“ ”を同時に2秒以上押し続けます（近くに緑色の目印があります）。
上面表示パネルが一瞬点滅しリセットされます。

- カスタムセッティングはすべて解除され、初期値に戻ります。
- ISO感度が200にリセットされます。

■カスタムセッティング一覧

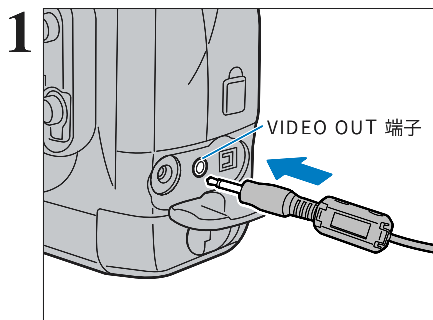
番号	項　目	表　示	内　容
1	オートブラケティング撮影時の補正順序の変更	0：初期設定の順（工場出荷設定） 1：マイナス側からプラス側へ	オートブラケティング撮影時の補正順序を変更ができます。
2	構図用格子線表示	0：OFF（工場出荷設定） 1：ON	構図用格子線を表示させると、主要な被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせたりして使用できます。被写体の大きさやバランスを見ながら、意図的な構図に撮影できます。
3	フォーカスエリア照明	0：AUTO（工場出荷設定） 1：OFF 2：ON	ファインダー内のフォーカスエリアの照明の設定をします。
4	フォーカスエリア選択の循環	0：しない（工場出荷設定） 1：する	フォーカスエリア選択の循環をすると、十字ボタンの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択ができます。
5	シャッターボタン半押しAEロック	0：しない（工場出荷設定） 1：する	シャッターボタン半押しAEロックにすると、シャッターボタンを半押ししたときにAEロックできます。
6	Mモードでのバルブ撮影	0：しない（工場出荷設定） 1：する	露出モードが“ **M** ”でバルブ撮影するときは、1に設定します。
7	AF-Sでの至近優先ダイナミックAF	0：する（工場出荷設定） 1：しない	1に設定すると、AF-Sでは至近優先ダイナミックAFになりません。
8	AF-Cでの至近優先ダイナミックAF	0：しない（工場出荷設定） 1：する	1に設定すると、AF-Cでは至近優先ダイナミックAFになります。
9	AE/AFロックボタンの機能選択	0：AE・AFの同時ロック（工場出荷設定） 1：AEロックのみ 2：AFロックのみ 3：AEロックの維持 4：AF作動	通常、“ AE-L/AF-L ”ボタンを押したときにAEロック（露出の記憶）とAFロック（フォーカスロック）が同時に行われますが、AEロックのみ行われる、AFロックのみ行われる、またはAEロック状態を維持するように変更できます。「AEロック状態の維持」にセットしてAE/AFロックを行った場合は、再度“ AE-L/AF-L ”ボタンを押すか、シャッターをきると解除されます。 また、オートフォーカス（AF）は、通常、シャッターボタンの半押しにより作動しますが、“ AE-L/AF-L ”ボタンを押すとAFが作動するように変更できます（この場合、シャッターボタンの半押しではAFは作動しません）。
10	コマンドダイヤルの機能変更	0：しない（工場出荷設定） 1：する	撮影時のメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの動作を入れかえます。 0：メイン→シャッタースピードの変更 　サブ　→絞りの変更 1：メイン→絞りの変更 　サブ　→シャッタースピードの変更

番号	項　目	表　示	内　容
11	多重露出撮影時の撮影方法の変更	0：1コマ撮影（工場出荷設定） 1：連続撮影	変更すると、多重露出撮影時に連続撮影できます。
12	オートパワーオフ	0：連続 15：15秒（工場出荷設定） 2：2分 5：5分	オートパワーオフするまでの時間を設定します。プレビュー表示画像も設定時間でキャンセルされます。
13	セルフタイマーの作動時間の変更	2：2秒 5：5秒 10：10秒（工場出荷設定） 20：20秒	セルフタイマーの作動時間を設定します。
14	各ボタン操作によるイルミネーター点灯	0：OFF（工場出荷設定） 5：5秒する 15：15秒する	各ボタンの操作によってイルミネーターが点灯するように変更できます。
15	AF補助光	0：ON（工場出荷設定） 1：OFF	内蔵AF補助光を照射しないように変更できます。ただし、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。

テレビに接続する/ACパワーアダプターを使う(別売)

テレビに接続する

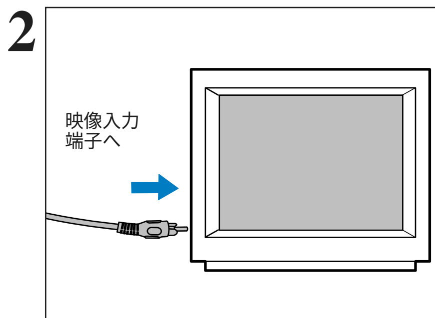
1



カメラとテレビの電源を切ります。端子カバーを開け、カメラの“ VIDEO OUT ”端子にビデオケーブル(付属品)のプラグを接続します。

! コンセントが近くにある場合は、ACパワーアダプターAC-5VHを接続することをおすすめします。

2



テレビの映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影、再生を行ってください。

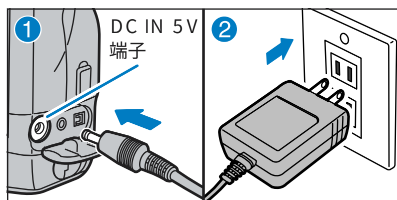
! テレビの映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。

ACパワーアダプターを使う

ACパワーアダプターを接続すると、電池の消耗を気にせず撮影・再生(テレビ接続時など)・PC接続も可能ですので、旅行先などで便利です。

●使用可能なACパワーアダプター
　型名：AC-5VH

! AC-5VHは海外で使用できます。

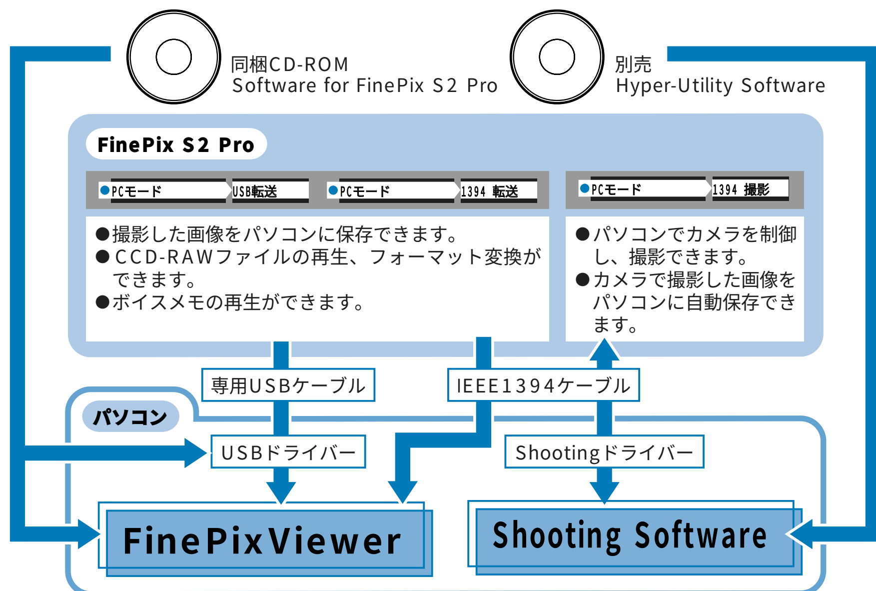


カメラの電源が切れていることを確認し、リチウム電池を取り出します。端子カバーを開け、ACパワーアダプターの接続プラグを“ DC IN 5V ”端子に奥まで差し込み、次に電源コンセントに差し込みます。

! 必ず上記の弊社製品をご使用ください。
! ACパワーアダプターについてのご注意は110ページをご参照ください。
! ACパワーアダプターを接続しても、リチウム電池は消費されます。
! リチウム電池未装填時は、内蔵ストロボは使用できません。

パソコンと接続する

ソフトウェアをインストールしてから、カメラとパソコンを接続します。
カメラのPCモード設定によって利用できる機能が次のように変わります。



●撮影モードについては別売のハイパーユーティリティーソフト HS-S2の使用説明書をご覧ください。
●ここでは転送モードについて説明します。

パソコンとの接続について

パソコンとの接続には、USBポートで接続する場合パソコンに標準搭載されたUSBポートが必要です（後から増設された場合の動作保証はいたしません）。またIEEE1394ポートを使って接続する場合は、OHCI準拠のインターフェースであることをご確認のうえ、下記の表をご参照になって、ご自分のお使いのOSが対応しているかどうか、お調べください。

■Windows対応表

○：接続可能　×：接続不可

OS / 接続方法	Windows 98	Windows 98 SE (Second Edition)	Windows Me (Millennium Edition)	Windows 2000	Windows XP
IEEE1394接続	×	○*2	○	○	○
USB接続*1	○	○	○	○	○

＊1 付属のCD-ROMでドライバーをインストールすることにより使用できます。
＊2 スタートボタンからWindows Updateを選択し、1394デバイスドライバの更新をしてください（インターネット接続ができる環境が必要です。）。

■Macintosh対応表

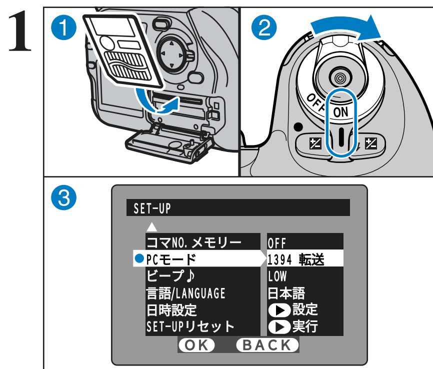
○：接続可能　×：接続不可

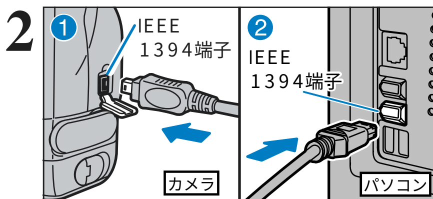
OS / 接続方法	Mac OS 8.6	Mac OS 9.0.4	Mac OS 9.1	Mac OS 9.2.1	Mac OS X
IEEE1394接続	×	×*2	○	○	○
USB接続*1	○	○	○	○	○

＊1 付属のCD-ROMでドライバーをインストールすることにより使用できます。
＊2 標準搭載されていても使用できませんが、Mac OS 9.1に無償アップデートすると使用できます。アップデートに関してはアップルコンピュータ株式会社（http://www.apple.co.jp）にお問い合わせください。

IEEE1394でパソコンと接続する

1

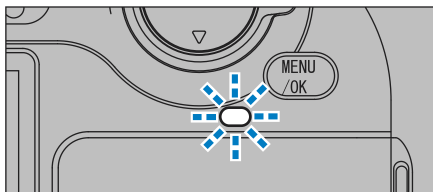




❶撮影したメディアをカメラにセットします。
❷カメラの電源を入れます。
❸SET−UPの"PCモード"を"IEEE1394転送"にします（➡87ページ）。
❹電源スイッチを"OFF"にし、カメラの電源を切ります。

- 98ページのOS対応表をご覧になり、対応しているOSをお使いか確認してください。
- 接続にはACパワーアダプター（別売）のご使用をおすすめします。
- スマートメディアとマイクロドライブを同時にセットした場合は、SET−UPの「優先メディア」で選択されているメディアが使用されます（➡設定編87ページ）。

2



❶パソコンの電源を入れます。
❷付属のIEEE1394ケーブルでカメラとパソコンを接続します。
❸カメラの電源を入れます。

カメラを取り外すとき、電源を切るときは、必ず所定の手順で行ってください（➡101ページ）。

- Windows XPおよびMac OS Xでは、初回接続時に自動起動の設定が必要です。
- 初回接続時は、マウントされるまで時間がかかります。
- ケーブルは向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。

カメラの動作

- カメラとパソコンが通信中のときは、アクセスランプが、点滅します。
- 背面表示パネルには"1394 テンソウ"と表示されます。
- パソコンと接続しているときはオートパワーオフしません。

- メディアの交換は、必ず101ページの手順でカメラとパソコンの接続を切ったあとに行ってください。
- 通信中はケーブルを取り外さないでください。取り外しかたについては、101ページをご参照ください。

パソコンの動作

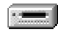
- FinePixViewerがインストールされている場合は、自動的に起動します。



＊Windows 98 SE の画面です。

- リムーバブルアイコンが表示され、パソコンでファイルの読み出し、書き込みができます。

Windows



リムーバブル ディスク

Macintosh

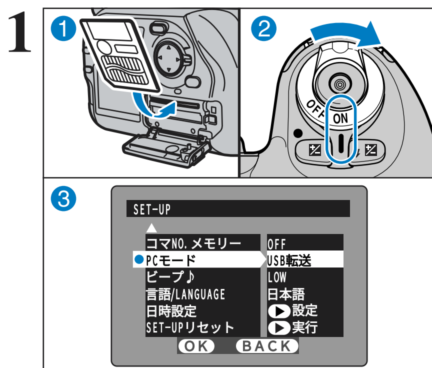


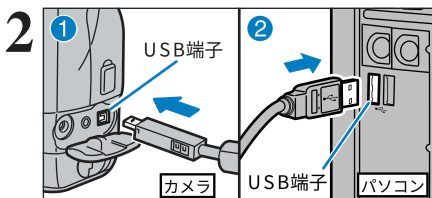
名称未設定

上記の動作が確認できない場合、必要なソフトウェアがうまくインストールできていません。別冊のソフトウェア取扱ガイドを参照して、パソコンでの準備を完了してから、もう一度接続してください。

USBでパソコンと接続する

1





❶撮影したメディアをカメラにセットします。
❷カメラの電源を入れます。
❸SET−UPの“ PCモード ”を“ USB転送 ”にします（➡87ページ）。
❹電源スイッチを“ OFF ”にし、カメラの電源を切ります。

- 接続する前に、付属のCD-ROMでパソコンにソフトウェアのインストールを必ず行ってください。
- 接続にはACパワーアダプター（別売）のご使用をおすすめします。
- スマートメディアとマイクロドライブを同時にセットした場合は、SET−UPの「メディア」で選択されているメディアが使用されます（➡設定編87ページ）。

2

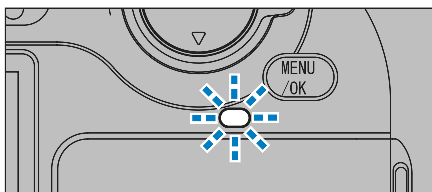
❶パソコンの電源を入れます。
❷専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続します。
❸カメラの電源を入れます。

カメラを取り外すとき、電源を切るときは、必ず所定の手順で行ってください（➡101ページ）。

- Windows XPおよびMac OS Xでは、初回接続時に自動起動の設定が必要です。
- ケーブルは向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。

Windows パソコンをお使いの場合、インストールが完了していると、ドライバの設定が自動的に行われますので、そのままお待ちください。
＊パソコンがカメラを認識しない場合は、ソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

カメラの動作



●カメラとパソコンが通信中のときは、アクセスランプが、橙に点滅します。
●背面表示パネルには“ USB テンソウ ”と表示されます。
●パソコンと接続しているときはオートパワーセーブしません。

- メディアの交換は、必ず101ページの手順でカメラとパソコンの接続を切ったあとに行ってください。
- 通信中はケーブルを取り外さないでください。取り外しかたについては、101ページをご参照ください。

パソコンの動作

●FinePixViewerがインストールされている場合は、自動的に起動します。
●リムーバブルアイコンが表示され、パソコンでファイルの読み出し、書き込みができます。

Windows



Macintosh



上記の動作が確認できない場合、必要なソフトウェアがうまくインストールできていません。別冊のソフトウェア取扱ガイドを参照して、パソコンでの準備を完了してから、もう一度接続してください。

パソコンと接続を切るには

1



❶カメラを利用しているアプリケーション（FinePixViewerなど）をすべて終了します。
❷アクセスランプが消灯していること（パソコンと通信していないこと）を確認します。

パソコンで“ コピー中 ”の表示が消えても、カメラと通信中の場合があります。必ずカメラのアクセスランプが消灯していることを確認してください。

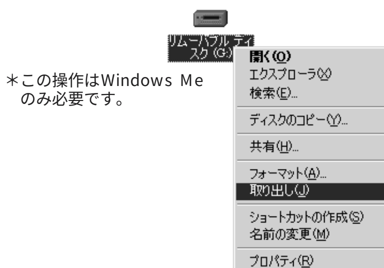
2 カメラの電源を切る前の作業を行います。この手順は、ご使用のOS（パソコン）によって違います。

Windows 98/98 SE

USBで接続している場合は、パソコンでの操作は必要ありません。
IEEE1394で接続している場合は、次の手順にしたがって取り外してください。
❶タスクバー上の取り外しアイコンを左クリックします。
❷取り外しのメニューが表示されますので、メニュー上をクリックします。
❸“ ハードウェアの取り外し ”ダイアログが表示されますので、“ OK ”ボタンかクローズボタンをクリックしてください。

Windows Me/2000 Professional/XP

❶マイコンピュータの中の“ リムーバブルディスク ”アイコンを右クリックし、取り出しをクリックします。



＊この操作はWindows Meのみ必要です。

❷タスクバー上の取り外しアイコンを左クリックします。



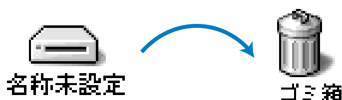
＊Windows Meの画面です。

❸取り外しのメニューが表示されますので、メニュー上をクリックします。

❹“ ハードウェアの取り外し ”ダイアログが表示されますので、“ OK ”ボタンかクローズボタンをクリックしてください。

Macintosh

デスクトップの“ リムーバブルドライブ ”アイコンを、ゴミ箱にドラッグ&ドロップします。

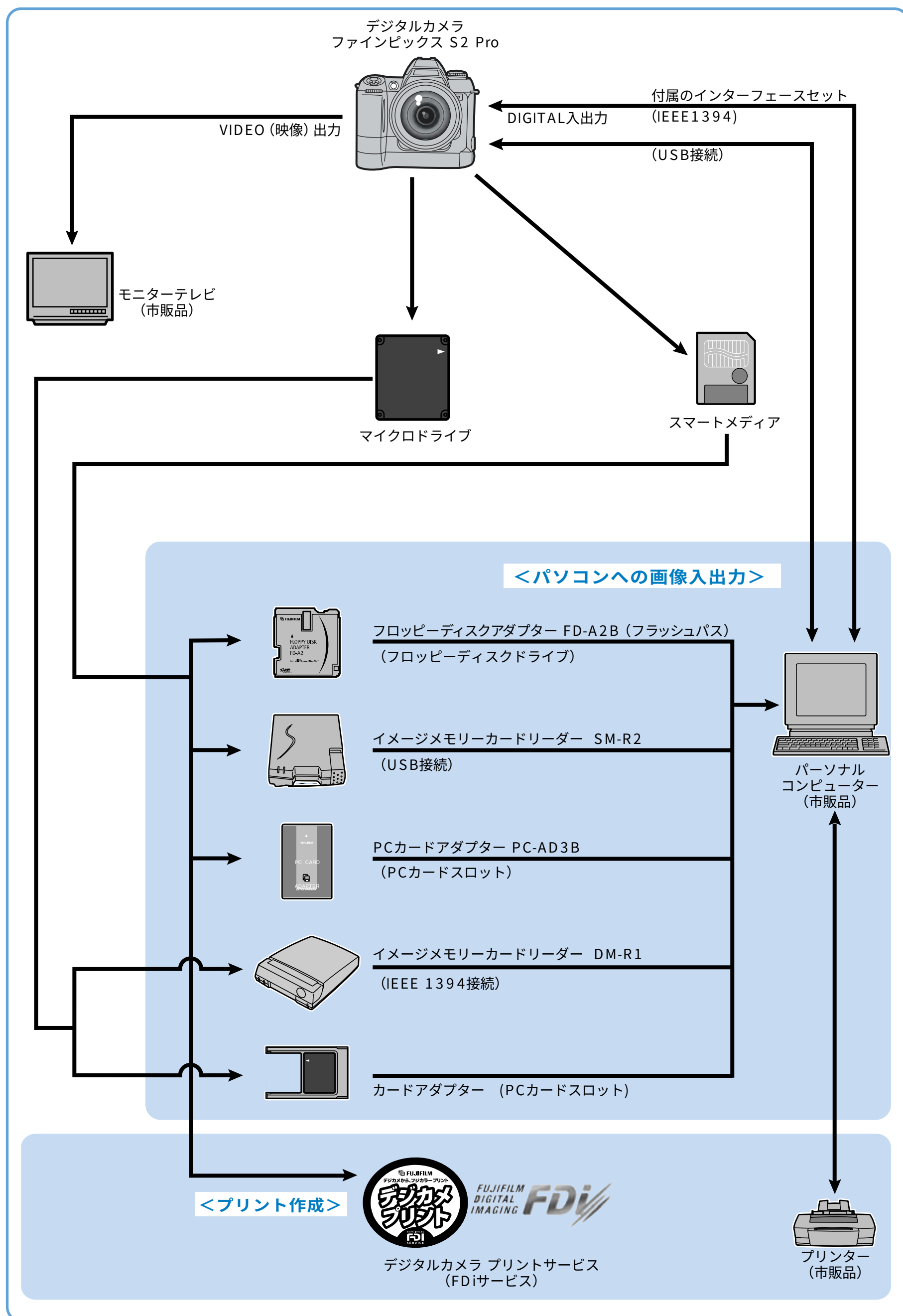


ゴミ箱にドラッグ＆ドロップすると、カメラの液晶モニターに“ REMOVE OK ”と表示されます。

3 カメラの電源を切り、IEEE1394またはUSBケーブルを取り外します。

システムアップ機器（別売）（平成14年6月現在）

▶別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。



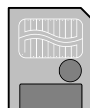
その他 別売アクセサリーの紹介（平成14年6月現在）

▶使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。
※最新情報は富士フイルムホームページをご覧ください。　http://www.fujifilm.co.jp/
※価格はメーカー希望小売価格、消費税別です。

●イメージメモリーカード（スマートメディア™）

以下の種類がお使いいただけます。
- MG-4SB　：　4MB、3.3V仕様
- MG-8SB　：　8MB、3.3V仕様
- MG-16SW　：　16MB、3.3V仕様（ID付き）
- MG-32SW　：　32MB、3.3V仕様（ID付き）
- MG-64SW　：　64MB、3.3V仕様（ID付き）
- MG-128SW：128MB、3.3V仕様（ID付き）

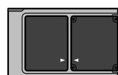
＊3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。



※すべてオープン価格

●マイクロドライブキット MK-1/MK-2

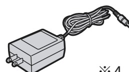
IBM製の小型のハードディスクドライブで、容量が340MB/1GBあり、大量の画像を保存することができます。
専用PCカードアダプターが付属しています。



※すべてオープン価格

●ACパワーアダプター AC-5VH

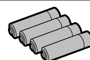
長時間の撮影時、パソコンとの接続時にお使いください。
（AC100～240V、50/60Hz対応）



※4,000円

●単3形ニッケル水素電池「ニッケル水素1700」（HR-AA）

高容量の単3形ニッケル水素電池です。
4本パック「型名 HR-AA/4B」をお買い求めください。



※4本セット HR-AA/4B 1,980円

●ニッケル水素/ニカド急速充電器80（FNH）

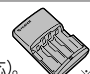
ニッケル水素電池「ニッケル水素1700」2本を約90分間で充電できます。
同時に4本までのニッケル水素/ニカド電池の充電が可能です（日本国内使用専用）。



※4,500円

●ニッケル水素/ニカド急速充電器ワールドタイプ スリム（FNW）

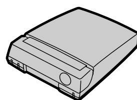
ニッケル水素電池「ニッケル水素1700」2本を約115分で充電できます。
同時に4本までのニッケル水素/ニカド電池の充電が可能です（AC100V～240V、50/60Hz対応）。



※4,500円

●イメージメモリーカードリーダー DM-R1

イメージメモリーカード［スマートメディア、コンパクトフラッシュタイプⅡ（マイクロドライブ対応）］からパソコンに、簡単に画像の読み出し、書き込みができます。
EEE1394インターフェースにより高速なファイル転送を行います。
- Windows98 Second Edition、Windows 2000 Professional（読み出し専用）、iMac DV、およびFireWireを標準装備するPower Macintosh、Mac OS8.5.1～9.1



※オープン価格

●PCカードアダプター PC-AD3B

スマートメディアをPC Card Standard ATA（PCMCIA2.1）に準拠したPCカード（TYPE Ⅱ）として使えます。



※10,000円

その他 別売アクセサリーの紹介

●ハイパーユーティリティーソフト HS-S2（IEEE1394インターフェース）

- FinePix S2 Proで撮影したCCD-RAWファイルを展開条件指定（トーンカーブ、ホワイトバランス、シャープネス、カラー）、出力画像サイズ指定し、16bit-TIFFファイルに変換できます。
- パソコンとIEEE1394インターフェースで接続してカメラで撮影したデータを、記録メディアを介さずに直接パソコンに転送することが可能です。また、パソコンからカメラを制御して撮影することが可能です。
- デジタルカメラFinePix S2 Proで撮影した画像をパソコンで活用することができます。

■動作環境

	Windows®	Mac OS
対応機種	IBM PC/AT互換機（DOS/V機）	IEEE1394端子を標準装備するMacintosh
接続端子（撮影ソフト使用時のみ）	IEEE1394（OHCI規格）のPCIボード搭載機または IEEE1394（OHCI規格）のCardBus Card 搭載機	標準装備のIEEE1394端子
OS	Windows® Me 日本語版 Windows® 2000 Professinal 日本語版 Windows® XP 日本語版	Mac OS 9.1〜9.2
CPU	PentiumⅢ、Pentium4、Cerelon	PowerPC G3/G4
メモリー	OSの定める推奨値+128MB 512MB以上を推奨	OSの定める推奨値+128MB 512MB以上を推奨
ハードディスク空き容量	1GB以上の残容量	1GB以上の残容量
モニター	1024×768　16bit	1024×768　16bit
ドライブ	CD-ROM読み込み可能ドライブ	CD-ROM読み込み可能ドライブ

使用上の注意

▶ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所
次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。
- 雨天下、湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ。極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■冠水・浸水、砂かぶりにご注意
水や砂は本機の大敵です。海辺・水辺などでは、水や砂がかからないようにしてください。また、水でぬれた場所の上に、本機を置かないでください。水や砂が本機の内部に入りますと、故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意
本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴がつくこと（結露）があります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、メディアに水滴がつくことがあります。このようなときはメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは
本機を長時間お使いにならないときは、電池、メディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ
- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因になります。
- 本機には撮像素子としてCCDが搭載されています。このCCDはシャッター幕の奥にあります。
  このCCDの表面にゴミなどが付着することがあり、そのまま撮影を行うと撮影条件や被写体によってはこのゴミが画像に写り込むことがあります。この場合、CCDのクリーニングが必要となります。CCDの表面はとても傷つきやすいので、クリーニングが必要なときはできるだけ弊社サービスステーションにお申し付けください（有償）。万一、クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合、弊社サービスステーションでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

⚠ CCDにゴミやほこりを付着させないために、次のことを守ってください。
- レンズ交換は、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- レンズを外したときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。このときレンズやボディキャップにゴミやほこりが付着していないことを確認してください。

■海外で使うとき
- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社サービスステーションにご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因になることがあります。

CCDのクリーニングについて

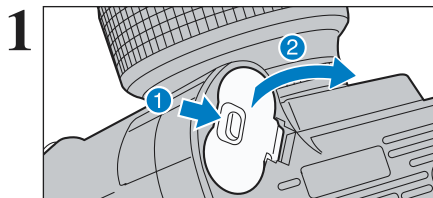
本機には撮像素子としてCCDが搭載されています。このCCDはシャッター幕の奥にあります。このCCDの表面にゴミなどが付着することがあり、そのまま撮影を行うと撮影条件や被写体によってはこのゴミが画像に写り込むことがあります。この場合、CCDのクリーニングが必要となります。CCDの表面はとても傷つきやすいので、クリーニングが必要なときはできるだけ弊社サービスステーションにお申し付けください（有償）。万一、クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合、弊社サービスステーションでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

◆CCDにゴミやほこりを付着させないために◆

- レンズ交換は、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- レンズを外したときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。このときレンズやボディキャップにゴミやほこりが付着していないことを確認してください。

CCD表面の状態をチェックする

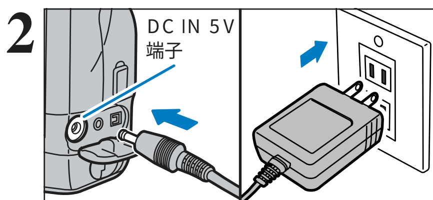
1



カメラの電源が切れていることを確認してから、リチウム電池を取り出します。

電池カバーに無理な力を加えないでください。

2

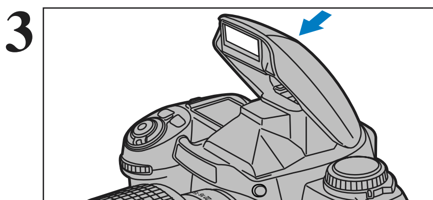


端子カバーを開け、ACパワーアダプター（別売）の接続プラグを“ DC IN 5V ”端子に奥まで差し込み、次に電源コンセントに差し込みます。

クリーニング中にミラーダウンしたり、シャッターが閉じたりして、カメラが破損するのを防ぐため、ACパワーアダプター（別売）を必ず使ってください。

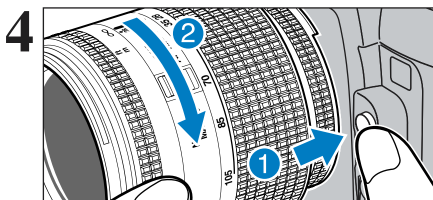
ACパワーアダプターについてのご注意は110ページをご参照ください。

3



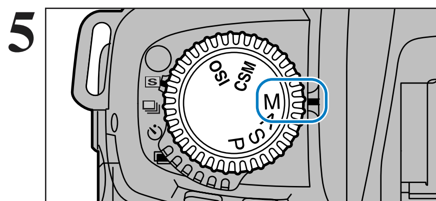
内蔵ストロボを押し下げて、収納します。

4



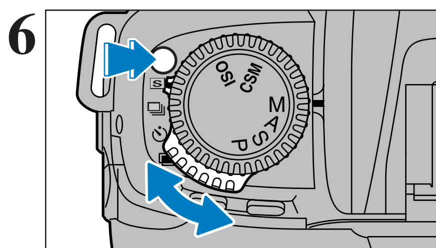
レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回して外します。

5



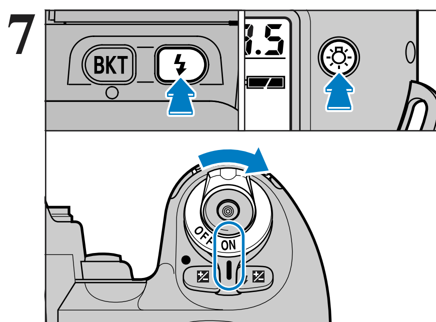
露出モードダイヤルを“ M ”に合わせます。

6



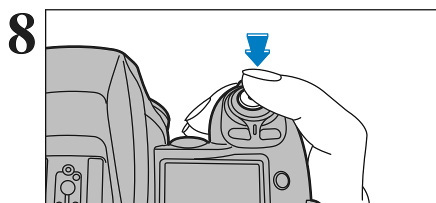
レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーを“ S 1コマ ”に合わせます。

7



シンクロモードボタンとイルミネーターボタンを押しながら、電源を入れます。

8



シャッターボタンを押すと、ミラーアップして、シャッター幕が開いたままの状態になります。

! シャッターボタンから指を離しても、ミラーアップしたままとなります。

次ページにつづく

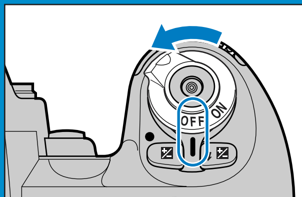
9 CCDに光が当たるようにカメラを持って、表面をチェックします。

ゴミが付着していない

ゴミが付着している

弊社サービスステーションにCCDクリーニングを依頼する

自分でクリーニングする



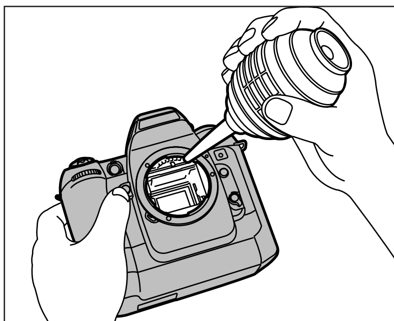
電源を切り、カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。

電源を切ると同時にミラーダウンします。シャッター幕が閉じますので、指などが挟まれないように注意してください。

CCDクリーニングを開始する

クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合、弊社サービスステーションでの(交換)修理は有償(高額)となりますので、十分ご注意ください。

1



CCDの表面にあるごみをブロアー(ブラシの付いていないもの)で取り除きます。

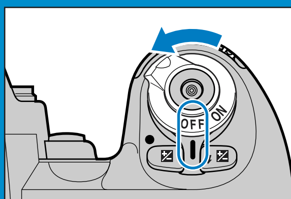
ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブロアーのブラシでCCDのごみを取り除くと、表面にキズをつけることがあります。

2 CCD表面のゴミが取り除けたか確認します。

ごみをブロアーで取り除くことができた(油脂や指紋などの汚れもない)

油脂や指紋などのブロアーでは取り除けない汚れが残っている

手順 3へ



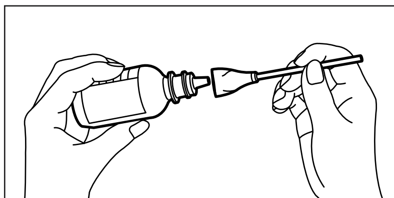
電源を切り、カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。

電源を切ると同時にミラーダウンします。シャッター幕が閉じますので、指などが挟まれないように注意してください。

◆クリーニング用具をご用意ください◆

- クリーニングスティック
  センサースワブ（フォトグラフィックソリューション製
  ＊日本販売代理店：銀一株式会社　海外商品課　TEL：03-5550-5036
  http://www.ginichi.com/）
- クリーナー液
  エタノール（95%以上）、EEクリーナー（オリンパス製）または、エクリプス（フォトグラフィックソリューション製）
  ＊エクリプスは劇薬扱いのため購入には、身分証明書の提示と押印が必要となります。

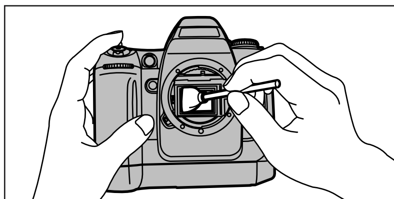
3



センサースワブの下辺から5mm程度の範囲にまんべんなくクリーナーをしみ込ませます。

クリーナー液をしみ込ませない状態での乾拭きは行わないでください。

4

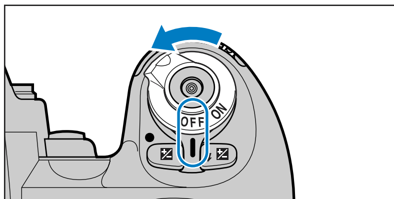


センサースワブの片面で、1回だけ、CCDの左端から右端へゆっくりと拭きます。

5 センサースワブの反対側の面で、1回だけCCDの左端から右端へゆっくりともう一度拭きます。使用済みのセンサースワブは、再使用しないでください。

汚れが落ちない場合には、必ず新しいセンサースワブを使って、**3**～**5**の手順を行うか、弊社サービスステーションにお問い合わせください。

6



電源を切り、カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。

電源を切ると同時にミラーダウンします。シャッター幕が閉じますので、指などが挟まれないように注意してください。

電源についてのご注意

使用できる電池

- 本機には、単3形アルカリ乾電池や単3形ニッケル水素電池、3Vリチウム電池を使用してください。単3形マンガン乾電池、単3形リチウム電池や単3形ニカド電池は、使用できません。
- アルカリ乾電池は銘柄により電池寿命（使用時間）の差があり、本機に付属のアルカリ乾電池に比べ、電池寿命がかなり短い場合があります。

電池についてのご注意

電池の使いかたを誤ると、液もれ、発熱、発火、破裂の恐れがあります。以下の事項をお守りください。

- 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- プラス極とマイナス極を針金などの金属で接続したり、ネックレスやヘアピンなどの金属類と一緒に持ち運んだり保管しないでください。
- 水や海水につけたり、端子部分をぬらさないでください。
- 変形させたり、分解、改造をしないでください。
- 外装チューブをはがしたり、傷をつけないでください。
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えないでください。
- 液もれしている、変形、変色、その他異常に気づいたときは使用しないでください。
- 高温、多湿の場所に保管しないでください。
- 幼児やお子様の手の届く範囲に放置しないでください。
- カメラに電池を入れるときは、極性（⊕と⊖）に注意して表示どおりに入れてください。
- 新しい電池と使用した電池（充電式電池の場合：充電済みの電池と、放電した電池）、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間使用しないときは、電池を取り出しておいてください（電池を取り外して放置した場合、各種設定がクリアされます）。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 電池を交換するときは、4本すべてを新しい電池にお取り換えください。新しい電池とは、アルカリ乾電池では「最近購入した未使用のもの」、ニッケル水素電池では「最近同時にフル充電した電池」のことです。
- 寒冷地（＋10℃以下）では電池の性能が低下し、使用可能時間が極端に短くなります。特にアルカリ乾電池はこの傾向がありますので、電池をポケットの中などで温めてからお使いください。また、カイロをお使いの場合は直接電池に触れないようにご注意ください。
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。電池をセットする前に電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃してください。

⚠ 万一、液もれが起こったときは、電池挿入部についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

⚠ 電池の液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。また、液が目に入った場合には失明の恐れがあります。こすらずに、きれいな水で洗ったあと、医師の診療を受けてください。

■電池の破棄について

電池を捨てるときは、地域の条例に従って処分してください。

■小形充電式電池（ニッケル水素電池）についてのご注意

- 単3形ニッケル水素電池の充電は、専用の急速充電器（別売）を使用し、急速充電器の「使用説明書」の指示に従って正しく行ってください。
- 急速充電器（別売）では、指定外の電池を充電しないでください。
- 充電直後の電池は高温になっていることがありますので、ご注意ください。
- ニッケル水素電池は、出荷時には充電されていません。ご使用の前に必ず充電してください。
- カメラの機構上、電源を切っても微小電流が流れています。ニッケル水素電池を長期間カメラに入れたままにすると過放電状態になり、充電しても使えなくなることがありますので特にご注意ください。
- ニッケル水素電池は使わなくても自己放電しています。ご使用の前に必ず充電してください。また、正常に充電したにもかかわらず、使用できる時間が著しく短くなったときは、電池の寿命です。新しいものをお買い求めください。
- ニッケル水素電池の電極に、皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。この場合は、電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃後、一度使い切ってから充電してください。
- お買上げ時や長い間使用していなかった電池は、十分に充電されないこと（電池残量警告がすぐに表示されて、撮影可能枚数が少ない場合）があります。これは電池の特性によるもので故障ではありません。充電して使用することを3～4回繰り返すと正常な状態に戻ります。
- ニッケル水素電池の容量が残っている状態で充電を繰り返すと、「メモリー効果*」が発生して早めに電池残量警告が出ることがあります。最後まで使い切ってから充電することで正常な状態に戻ります。

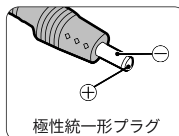
  ＊メモリー効果：電池の容量が見かけ上劣化したような特性を示す現象

■小形充電式電池のリサイクルについて

このマークは小形充電式電池（ニッケル水素電池など）のリサイクルマークです。小形充電式電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。

このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。ご使用済みの小形充電式電池の廃棄に際しては、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小形充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

ACパワーアダプターについてのご注意



極性統一形プラグ

必ず専用のACパワーアダプターAC-5VH（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）をお使いください。弊社専用品以外のACパワーアダプターをお使いになるとカメラが故障する原因となることがあります。

- 室内専用です。
- カメラのDC入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- カメラのDC入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源を切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- ACパワーアダプターは、指定の機器以外には使用しないでください。
- 使用中、ACパワーアダプターが熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

メディア（スマートメディア™およびマイクロドライブ）についてのご注意

■スマートメディアについて
デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体SmartMedia（スマートメディア）です。スマートメディアの中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像ファイルが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像ファイルを消去したり、再び記録することができます。

■ID付きスマートメディアについて
SmartMedia ID（ID付きSmartMedia）は、スマートメディア個々に（ID）番号を割り振ったもので、IDを利用した著作権保護、その他の仕組みを持つ機器で使用できます。本機では、従来のスマートメディアと同様に使用できます。

■マイクロドライブについて
Microdrive（マイクロドライブ）は小型/軽量のハードディスク・ドライブでCF＋Type Ⅱに準拠しています。大量の画像ファイルが記録でき、1MBあたりの記録コストも低減するため、高画質な画像をより経済的に保存することができます。

■ファイル保持について
以下の場合、記録したファイルが消滅（破壊）することがあります。記録したファイルの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。
＊お客様または第三者がメディアの使いかたを誤ったとき
＊メディアが静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき
＊メディアに記録動作中・消去（フォーマット）動作中にメディアを取り出したり機器の電源を切ったとき
＊メディアを曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしたとき

大切なファイルは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■メディアに共通の取扱上のご注意
●メディアをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
●メディアの記録中・消去（フォーマット）中は、絶対にメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メディアが破壊されることがあります。
●メディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
●強い静電気・電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。
●高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用・保管は避けてください。

■スマートメディアの取扱上のご注意
●指定された以外のスマートメディアはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因となります。
●スマートメディアの接触面（金色の部分）にゴミや異物がつかないように、また触らないようにご注意ください。汚れは乾いた柔らかい布などでふいてください。
●スマートメディアの持ち運びや保管時は、静電気による影響を避けるため、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。また、収納ケースがある場合は収納ケースに入れてください。
●静電気を帯びたスマートメディアをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
●ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
●長時間お使いになったあと、取り出したスマートメディアが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
●スマートメディアには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
●スマートメディアのインデックスエリアには、付属のインデックスラベルをはってください。市販のラベルなどは、はらないでください。スマートメディアの出し入れの際、故障の原因になります。
●スマートメディアのインデックスラベルは、ライトプロテクトエリアにかからないように､はってください。
●万一、弊社の製造上の原因によるスマートメディアの初期品質不良がありました場合には、同数の新しいスマートメディアとお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■マイクロドライブの取扱上のご注意
●マイクロドライブのラベルに記入しないでください。
●マイクロドライブのラベルをはがさないでください。
●マイクロドライブにラベルを重ねてはらないでください。
●マイクロドライブの持ち運びや保管時は、マイクロドライブ同梱の専用保護ケースに入れてください。
●取り出し機能のないCF＋Type Ⅱスロットでは使用しないでください。
●長時間使用すると熱くなることがありますので、取り扱いには十分注意してください。
●強い磁気のそばに近づけないでください。
●ぬらさないでください。
●カバーを強く押さないでください。

■メディアをパソコンで使用する場合のご注意
●パソコンで使用したあとのメディアを使って撮影する場合、メディアのフォーマットはカメラで行ってください。
●メディアをカメラでフォーマットして撮影・記録すると、自動的にフォルダが作成されます。画像ファイルは、このフォルダ内に記録されます。
●パソコンでメディアのフォルダ名、ファイル名の変更・消去などの操作を行わないでください。メディアがカメラで使用できなくなることがあります。
●メディア上の画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
●画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像ファイルを編集してください。

スマートメディアの主な仕様

形式	デジタルカメラ用イメージメモリーカードSmartMedia（スマートメディア）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃〜＋40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	37mm×45mm×0.76mm （幅/高さ/厚み）

マイクロドライブの主な仕様

形式	CF＋™ Type Ⅱ
動作電圧	3.3V、5V
使用条件	温度 ＋5℃〜＋40℃ 湿度 8%〜90%以下（結露しないこと）
外形寸法	42.8mm×36.4mm×5mm （幅/高さ/厚み）

警告表示

▶上面表示パネル、ファインダー内に表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示		警告内容	処　置
上面表示パネル	ファインダー内表示		
FEE（点滅）	FEE（点滅）	●レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。 ●カメラの露出モードが“ P ”モードで外部ストロボがTTLモード以外にセットされています。	●レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。 ●露出モードを“ P ”モード以外にセットするか、外部ストロボをTTLモードにセットしてください。
（点灯）	表示なし	●リチウム電池容量がわずかです。	●予備のリチウム電池を用意してください。
（点滅）	表示なし	●リチウム電池が消耗しています。	●リチウム電池を交換してください。
F- -（点滅）	F- -（点滅）	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	●CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）を使用してください。ただし、“ M ”モードにセットして、レンズの絞りリングで絞りをセットすれば撮影できます。
表示なし	●（点滅）	●オートフォーカスでピント合わせができません。	●マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。
HI（点灯）	HI（点灯）	●被写体が明るすぎて、カメラの露出制御範囲を超えています。	●“ P ”モード時はND（光量調節用）フィルターを使用してください（“ S ”、“ A ”モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●“ S ”モード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ●“ A ”モード時はより大きい数値の絞りにしてください。
Lo（点灯）	Lo（点灯）	●被写体が暗すぎて、カメラの露出制御範囲を超えています。	●“ P ”モード時はストロボを使用してください（“ S ”、“ A ”モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●“ S ”モード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ●“ A ”モード時はより小さい数値の絞りにしてください。
表示なし	露出インジケータ（点滅）	●被写体が明るすぎたり、暗すぎたりして、カメラの露出制御範囲を超えています。	●明るすぎる場合はND（光量調節用）フィルターを使用してください。暗すぎる場合はストロボを使用してください（露出インジケーターは点滅した状態のままとなります）。
bulb（点滅）	bulb（点滅）	●露出モードが“ S ”モード時にシャッタースピードが“ bulb ”にセットされています。	●シャッタースピードを“ bulb ”以外にセットするか、“ M ”モードにセットしてください。
セットしたシャッタースピード（点滅）	125（点灯）	●露出モードが“ S ”、“ M ”モード時にシャッタースピードが同調スピードより高速にセットされています。	●シャッタースピードは自動的に1/125秒に切り換わりますので、そのまま撮影が行えます。
表示なし	ϟ（点滅）	●発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	●撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

警告表示		警告内容	処　置
上面表示パネル	ファインダー内表示		
Err（点滅）	Err（点滅）	●撮影中に何らかの異常を検出しました。	●再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、弊社サービスステーションにご相談ください。
Err（点灯）	表示なし	●使用中にスロットカバーが開けられました。 ●単3形電池の電池容量が低下もしくはなくなっています。 ●単3形電池が入っていません。	●電源スイッチをいったんOFFにして、スロットカバーを閉めた後、電源スイッチをONにして再び使用してください。 ●電源スイッチをいったんOFFにして単3形電池を交換、または単3形電池を入れた後、電源スイッチをONにして再び使用してください。
Err（点滅）	表示なし	●リチウム電池の電池容量が低下している場合や低温時はメカが停止し、撮影ができません。	●電源スイッチをいったんOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにして再び使用してください。それでも復帰しないときは、フォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にセットし、シャッターを切って電源スイッチをいったんOFFにしてください。

! きわめて稀なケースとして、上面表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源スイッチを“ OFF ”にして電池を入れ直し、電源スイッチを“ ON ”にしてカメラを作動させてみてください。

警告表示

▶液晶モニターに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示 液晶モニター	警告内容	処　置
! NO CARD	メディアが入っていない、または入れている向きが間違っています。	メディアを正しい向きにセットしてください。
! CARD NOT INITIALIZED	●メディアがフォーマット（初期化）されていません。 ●メディアの接触面（金色の部分）が汚れています。 ●カメラが故障しています。	●メディアをフォーマットしてください。 ●メディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
! CARD ERROR	●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れています。 ●メディアが壊れています。 ●メディアのフォーマットが異常。 ●カメラが故障しています。	●メディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでもERRORの場合はメディアを交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
! CARD FULL	メディアに空き容量がなく、これ以上記録できません。	画像を消去するか、空き容量のあるメディアを使用してください。
! PROTECTED CARD	メディアが誤記録防止状態になっています。	誤記録防止状態になっていないメディアを使用してください。
! READ ERROR	●正常に記録されていないデータを再生しました。 ●メディアの接触面（金色の部分）が汚れています。 ●カメラが故障しています。	●再生することはできません。 ●メディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
! FILE NO. FULL	コマNo.が999－9999に達しています。	フォーマットしたメディアに撮影してください。
! WRITE ERROR	●メディアと本体の接触異常またはメディアの異常のため記録できません。 ●撮影した画像がメディアの空き容量を超えて記録できません。	●メディアを入れ直すか電源のON（入）/OFF（切）を繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。 ●新しいメディアを使用してください。
! PROTECTED FRAME	プロテクトされているコマを消去しようとしました。	プロテクトしたファイルは消去できません。プロテクトしたカメラでプロテクトを解除してください。
プリント予約されています このコマを消去しますか？ プリント予約されています 全コマ消去しますか？	削除しようとした画像はプリント指定されています。	画像を削除すると、DPOF指定項目からも同時に設定が削除されます。
プリント予約再設定OK？	●すでにプリント予約されている。 ●DPOFファイルにエラーがある。または他の機器で設定したDPOFファイルである。	DPOFファイルを新しく作成し、プリント予約をすべてやり直す場合は MENU/OK ”ボタンを押してください。

警告表示 液晶モニター	警告内容	処　置
!DPOF FILE ERROR	DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント指定をしました。	同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。999コマ以下にしてください。
!OVER !UNDER !OUT OF RANGE	90ページをご参照ください。	

▶背面表示パネルに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示 背面表示パネル	警告内容	処　置
ストロボヲトジテ シヨウシテクダサイ ／ CLOSE ⚡. W/O CR-123 （言語/LANGUAGE設定がEnglishのとき）	リチウム電池未装填時に内蔵ストロボがポップアップされています。	リチウム電池未装填時は、内蔵ストロボは使用できません。
（点灯）	単3形電池の電池容量がわずかです。	予備の単3形電池を用意してください。
（点滅）	単3形電池が消耗しています。	単3形電池を交換してください。

困ったときは

▶故障とお考えになる前に、もう一度お調べください。処置を行っても改善されない場合は弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

困ったときは	ここをチェック	こうしてください
電源が入らない。	● 電池が消耗しています。 ● 電池の向きが逆に入っています。 ● ACパワーアダプターが正しく接続されていません。	● 新しい電池か、充電済みの電池と交換してください。 ● 電池を正しい方向に入れてください。 ● 正しく接続しなおして、電源プラグをコンセントに差し込んでください。
電源が途中で切れる。	● 電池が消耗しています。	● 新しい電池か、充電済みの電池と交換してください。
電池の消耗が早い。	● 気温が極端に低いところで使っています。 ● 電池の端子が汚れています。 ● 電池の端子が汚れている状態で充電しました。 ● 長期間使用していなかった充電式電池を、充電してから使った。 ● 充電式電池の寿命です。	● 電池をポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。ただし、アルカリ乾電池は使用できません。 ● 電池をカメラから取り出して、電池の端子部分を乾いたきれいな布でふいてから入れ直してください。 ● 電池の端子部分を乾いたきれいな布でふいてから充電してください。 ● 電池の特性により、十分に充電されないことがあります。充電して使用することを数回繰り返してください。 ● 新しい充電式電池と交換してください。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	● AF-Sでピントが合っていません（“●ピント表示”なし） ● スマートメディアあるいはマイクロドライブが入っていません。 ● スマートメディアあるいはマイクロドライブに空き容量がなく、これ以上記録できません。 ● スマートメディアが誤記録防止状態になっています。 ● スマートメディアあるいはマイクロドライブがフォーマットされていません。 ● スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れています。 ● スマートメディアあるいはマイクロドライブが壊れています。 ● 電池が消耗しています。 ● ピントを合わせられません。 ● リチウム電池未装填時に内蔵ストロボを使用して撮影しようとしています。 ● エラーが発生しています。	● AFロックでピントを合わせ“●ピント表示”を確認してから撮影してください。 ● スマートメディアあるいはマイクロドライブを入れてください。 ● 新しいスマートメディアあるいはマイクロドライブを入れるか、コマを消去してください。 ● 誤記録防止状態を解除してください。 ● フォーマットしてください。 ● スマートメディアの接触面（金色の部分）を乾いたきれいな布でふいてください。 ● 新しいスマートメディアあるいはマイクロドライブを入れてください。 ● 新しい電池と交換してください。 ● フォーカスモードを“Mマニュアル”にしてピントを合わせて撮影してください。 ● 内蔵ストロボを閉じて撮影してください。 ● 112～115ページの警告表示を参照して処置してください。
ストロボ撮影ができない。	● ストロボ発光禁止になっています（ストロボが閉じています）。 ● ストロボ充電中にシャッターボタンを押しました。 ● リチウム電池未装填時に内蔵ストロボを使用して撮影しようとしています。	● ストロボをポップアップしてください。 ● 充電が完了してからシャッターボタンを押してください。 ● リチウム電池を入れてください。
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	● 被写体が遠い。 ● ストロボに指がかかっています。 ● ストロボに遮蔽物がかかっています。	● 被写体に近づいてください。 ● カメラを正しく構えてください。 ● レンズフードを外してください。
画像がぼやけている。	● レンズが汚れています。 ● ピントが合っていません。	● レンズを清掃してください。 ● ピントを正しく合わせてください（➡28ページ）。

困ったときは	ここをチェック	こうしてください
スマートメディアあるいはマイクロドライブのフォーマットができない。	● スマートメディアが誤記録防止状態になっています。 ● メディアがこわれています。	● 誤記録防止状態を解除してください（ライトプロテクトシールをはがす）。 ● 新しいメディアと交換してください。
全コマの消去で、すべてのコマが消せない。	● コマがプロテクトされています。	● プロテクトを解除してください。
カメラのスイッチやダイヤルを操作しても作動しない。	● カメラの誤作動。 ● 電池が消耗しています。	● 電源（電池）をいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。 ● 新しい電池と交換してください。
“ PLAY ”ボタンを操作しても液晶モニターに画像が表示されない。	● メディアが入っていません。 ● メディアに撮影データが記録されていません。	● 撮影データの入っているメディアを入れてください。
テレビに画像が出ない。	● カメラとテレビの接続が間違っています。 ● テレビの入力が「テレビ」になっています。	● 正しく接続してください。 ● テレビの入力を「ビデオ」にしてください。

主な仕様

システム

型式	レンズ交換式一眼レフタイプデジタルカメラ
有効画素数	617万画素
撮像素子	大型（23.0mm×15.5mm）スーパーCCDハニカム原色フィルター採用（総画素数：649万画素）
記録画素数（ピクセル）	4256×2848/3024×2016/2304×1536/1440×960　ハニカム信号処理により最大1212万画素
撮像感度	ISO 100、160、200、400、800、1600相当 ※1
記録方式	静止画：DCF準拠 圧　縮：Exif Ver2.2 JPEG準拠/DPOF対応 非圧縮：Exif Ver2.2 TIFF-RGB準拠/DPOF対応、CCD-RAW ※2 音　声：Exif Ver2.2音声ファイル規定準拠
記録メディア	スロット1：スマートメディア（3.3V仕様） スロット2：マイクロドライブ（CF+TypeII準拠）
液晶モニター	1.8型低温ポリシリコンTFTカラー液晶モニター　約11万画素（再生時、視野率 約100%）
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付き）
交換レンズ	16ページをご覧ください。
焦点距離	レンズ表記焦点距離の約1.5倍（35mmカメラ換算）
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用、視度調節機構付き（視野率：上下約93%　左右約95%）
フォーカス	オートフォーカス　TTL位相差検出方式（AF補助光付き）
レンズサーボ	**S**（シングルAFサーボ）、**C**（コンティニュアスAFサーボ）、および**M**（マニュアルフォーカス）
フォーカスエリア	5箇所のフォーカスエリアから1箇所を選択可能
AFエリアモード	シングルエリアAFモード、ダイナミックAFモード（至近優先ダイナミックAF機能付き）
AFロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ時シャッターボタン半押しにて可能
測光方式	TTL開放測光方式 以下の3つの測光モードより選択可能（使用するレンズによって制限あり） ● 3D-10分割マルチパターン測光/中央重点測光/スポット測光
露出モード	**P**：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）/**S**：シャッター優先オート/ **A**：絞り優先オート/**M**：マニュアル
レリーズモード	1コマ撮影/連続撮影（最大7コマ）/セルフタイマー（2秒、5秒、10秒、20秒）/ 多重露出
露出補正	±3EV（1/2段ステップ）
オートブラケティング	撮影枚数：最大3枚　補正量：±2EV（1/2段ステップ）
AEロック	AE/AFロックボタンにより輝度値をロック
シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	30秒〜1/4000秒（バルブ撮影可能）※3
ホワイトバランス	AUTO/晴れ/日陰/昼光色蛍光灯/昼白色蛍光灯/白色蛍光灯/電球/ カスタム（2ポジション）
画質設定	カラー、トーン（階調）、シャープネス
内蔵ストロボ	手動ポップアップ方式、ガイドナンバー12（ISO100・m）、 同調シャッタースピード：1/125秒以下 シンクロモード：先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ
アクセサリーシュー	ホットシュー装備（シンクロ接点、レディ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、モニター信号接点、GND付き）、セーフティーロック機構付き
シンクロ接点	X接点のみ、同調シャッタースピード：1/125秒以下
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO519）標準装備、外れ防止ねじ付き
リモートレリーズ	シャッターボタンにレリーズソケット装備
情報表示	ファインダー内表示、上面表示パネル、背面表示パネル
バッテリーチェック	● リチウム電池、単3形電池、それぞれでバッテリーチェックを行う。ただし、リチウム電池がセットされていない場合は単3形電池のみバッテリーチェックを行う。 ● チェックレベル：十分/消耗/不足の3段階。リチウム電池、単3形電池、いずれかの電池残量が不足した場合は3秒間の警告後オートパワーオフを行う。
オートパワーオフ	連続、15秒、2分、5分（PC接続時はオートパワーオフしません）
プレビュー	プレビューズーム、ヒストグラム表示、標準チャート表示
再生	1コマ再生、再生ズーム、ヒストグラム表示、1コマプロテクト、マルチ再生
消去	1コマ消去、全コマ消去、フォーマット（初期化）

その他	プリント予約（DPOF）、ボイスメモ、コマNo.メモリー、カスタムセッティング

■メディア標準撮影枚数
撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル（記録画素数）	4256 4256×2848（約1212万）				3024 3024×2016（約609万）			2304 2304×1536（約353万）			1440 1440×960（約138万）		
クオリティー	HIGH TIFF-RGB	HIGH CCD-RAW	FINE	NORMAL	HIGH TIFF-RGB	FINE	NORMAL	HIGH TIFF-RGB	FINE	NORMAL	HIGH TIFF-RGB	FINE	NORMAL
画像1枚のファイルサイズ	約35.5MB	約12.4MB	約4.7MB	約2.2MB	約17.9MB	約2.3MB	約1.1MB	約10.4MB	約1.3MB	約660KB	約4.1MB	約690KB	約350KB
MG-16S（16MB）	0	1	3	6	0	6	13	1	10	23	3	22	44
MG-32S（32MB）	0	2	6	13	1	12	27	3	22	47	7	45	89
MG-64S（64MB）	1	4	13	28	3	26	55	6	45	94	15	92	180
MG-128S（128MB）	3	9	26	56	7	52	112	12	90	189	30	185	362
MK-1（340MB）	9	26	73	156	19	145	307	33	249	525	84	507	992
MK-2（1GB）	29	80	220	468	58	437	912	100	746	1564	254	1492	2986

CCD-RAWのとき、ピクセルは“RAW”と表示されます。

入・出力端子

VIDEO OUT端子	ミニピンジャック（φ3.5mm）ケーブル接続、テレビへの映像出力
IEEE1394端子	4ピンIEEE1394ケーブル接続、パソコンとのデータ転送、およびパソコンからの撮影
USB端子	専用USBケーブル接続、パソコンとのデータ転送
DC入力端子	専用ACパワーアダプターAC-5VH接続、カメラへの電源供給

電源部、その他

電源	リチウム電池2本（CR123A） 単3形電池4本（アルカリ乾電池またはニッケル水素電池） または専用ACアダプター AC-5VH
使用条件	温度0℃～＋40℃（ただし、マイクロドライブ使用時5℃～40℃）、湿度80％以下（結露しないこと）
本体外形寸法	141.5mm×131.0mm×79.5mm（幅/高さ/奥行き）＊レンズ、突起部含まず
本体質量	約760g（付属品、電池、記録メディア含まず）

■電池作動可能枚数 ※4

電池の種類 / メディアの種類	アルカリ乾電池	ニッケル水素電池 1700 HR-AA（フル充電時）	リチウム電池 CR123A
スマートメディア	約600枚	約650枚	約1000枚
マイクロドライブ	約420枚	約450枚	

付属品	3ページをご覧ください。
別売アクセサリー	103～104ページをご覧ください。

※1：高感度撮影時（ISO400以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

※2：CCD-RAWはFinePix S2 Pro専用フォーマットです。画像の復元には、付属のソフトウェア「FinePixViewer」、または別売のHyper-Utility Software「Shooting Software」が必要です。

※3：長時間露光時（約1秒以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

※4：撮影枚数は常温でストロボ使用率50％の場合の、連続して撮影できる目安です。ただし、カメラの使用環境温度や電池充電量のバラツキによる変動があります。低温時では作動可能枚数が少なくなります。

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊液晶モニター、液晶ファインダーは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。また記録される画像には影響ありません。

用語の解説

EV	：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。 CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。
Exif（イグジフ）ファイル形式	：Exif（イグジフ）は、電子情報技術産業協会（JEITA）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。さらにフォルダー構造、フォルダー名についての規定を含めて、DCFがJEITA規格になっています。
JPEG（ジェイペグ）	：Joint Photographic Experts Groupの略で、もとは画像圧縮の標準化を推進している組織の名称。そこで標準化したカラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率は選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。
TIFF-RGB	：画像データの保存形式の一つで、各データにファイル形式を示すタグが付いています。パソコンで開ける形式です。
CCD-RAW	：信号処理（CCDから読み出されたデータを画像として再構成する作業）を行う前のデータ。信号処理をパソコンで行うため、細かい制御が可能です。 ※画像を再構成するには、パソコンにFinePixViewer（同梱CD-ROM）、または、ハイパーユーティリティー（別売）がインストールされている必要があります。
オートパワーオフ機能	：電池の消耗や、ACパワーアダプター接続時のムダな電力消費を極力防ぐため、しばらく何も操作しないと自動的に電源をOFFします。このときプレビュー画像表示もキャンセルされます。本機では連続（無効）/15秒/2分/5分の設定ができます。 ●セットアップでオートパワーオフを無効にした場合、またはUSB/IEEE1394接続時は、オートパワーオフしません。
色温度	：ローソクの炎のような温度の低いものは赤みが強く、ガスコンロの炎のような温度の高いものは青みが強くなります。この温度に対する光の色を色温度（K=ケルビン）で表します。よく晴れた正午頃の太陽の光は5500Kと言われています。
ホワイトバランス	：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。ホワイトバランスを自動的に合わせる機能を**オートホワイトバランス**といいます。
WAVE（ウェイブ）	：音声を保存するためのWindowsにおける標準フォーマットで、拡張子は“.WAV”です。 記録形式には非圧縮記録と圧縮記録があります。本機ではPCM記録を採用しています。 パソコンでは下記のソフトで再生できます。 Windows　：MediaPlayer Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降

Memo

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。この期間は保証書の記載内容に基づいて無償修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを
本書の「困ったときは」をご覧ください。
使いかたの問題か、故障か迷うときは、弊社DIサポートセンターへお問い合わせください。

■故障と思われるときは
弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。送付方法は、下記の中からお客様のご都合によりお選びください。
①お買上げ店にお持ちいただく
②弊社サービスステーションに宅配便等で送付いただく（送付修理）
③弊社サービスステーションにお持ちいただく（持込修理）
なお、集配ルートの都合上、①の方法よりは、②もしくは③の方法が、お預かりの期間は短くなります。
上記①③の場合の交通費、②の場合の送料などの諸費用はお客様にてご負担願います。

■修理ご依頼に際してのご注意
- 保証規定による修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または弊社サービスステーションにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。
- 修理品の持込修理/送付修理を弊社サービスステーションに依頼される場合には「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金のお見積もりをご希望の場合は、「修理依頼票」の「お見積もり」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。
- 落下・衝撃、砂・泥かぶり、冠水・浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合は、修理をお断りする場合があります。

■修理部品の保有期間
本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■交換した部品について
交換した部品は、今後の品質向上に役立てるため、弊社にて引き取らせていただいております。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

■修理料金の支払い方法について
①お買上げ店にお持ちいただいた場合
お持ちいただいたお店にご確認ください。
②弊社サービスステーションに宅配便等で送付いただいた場合（送付修理）
修理完了品は代金引換となりますので、運送業者に直接お支払いください。
③弊社サービスステーションにお持ちいただいた場合（持込修理）修理完了品お引き取りの際、サービスステーション窓口でお支払いください。

FinePix S2 Pro　修理依頼票

※弊社サービスステーションに故障品の送付あるいはお持込みの際には、お手数をおかけして申し訳ありませんが、迅速・適切な修理をするために必要事項をご記入の上、製品に添付してください。
※下表の□は、該当する項目にチェック（✓）を入れてください。

フ　リ　ガ　ナ		電　話　番　号	
お　　名　　前		ファクス番号	
ご　　住　　所	〒　　　―		
ボディ番号（機番） 保証書あるいは本体底面に記載してある7桁もしくは8桁の番号です。修理お問い合わせ時にご連絡ください。	No.		
修理品への添付			
□ 保証書　□ スマートメディア（　　MB） □（　　　） □（　　　）		□ 電池 □（　　　） □（　　　）	
故障内容（故障時の様子や発生頻度、症状など具体的にご記入ください。）			
お　見　積　も　り	□必要（修理金額　　　円以上見積もり）　□不要		
お見積もり連絡方法	□電話　□ファクス		

※本紙はコピーしてお使いください。

■修理の受付は…

修理の受付は…

以下に送付修理・持込修理の受付場所を記載します。
修理品をお買上げ店へお持ちいただく場合よりもお預かりの期間は短くなります。

●【送付修理】：サービスステーションに直接ご送付いただく場合

・下記の7カ所のサービスステーションで受け付けております。送付時には、お手数ですが「修理依頼票」を添付してください。
・有償修理の場合の修理料金は代金引換となりますので、運送業者に直接お支払いください。

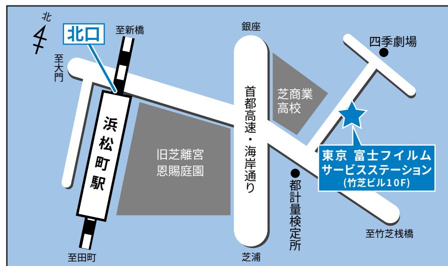
東　京：富士フイルムサービスステーション	〒105-0022	東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル	TEL（03）3436-1315
札　幌：富士フイルムサービスステーション	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）222-3973
仙　台：富士フイルムサービスステーション	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2149
名古屋：富士フイルムサービスステーション	〒460-0008	名古屋市中区栄1-12-19	TEL（052）202-1851
大　阪：富士フイルムサービスステーション	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル	TEL（06）6260-0915
広　島：富士フイルムサービスステーション	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3511
福　岡：富士フイルムサービスステーション	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-4863

●【持込修理】：サービスステーションにお持ちいただく場合

・上記7カ所のサービスステーションで受け付けております。お持ちいただく際には、お手数ですが「修理依頼票」を添付してください。
・【受付時間】月～金 午前9：00～12：00　午後1：00～5：40
・サービスステーションは、土・日・祝日・年末年始は休業させていただきます。その他夏期など休業させていただく場合があります。
・有償修理の場合の修理料金は、修理品お引き取りの際、サービスステーション窓口でお支払いください。
・本書に地図の記載がないサービスステーションは、弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/）もしくはFinePixのホームページ（http://www.finepix.com/）をご覧ください。
・東京、大阪のフォトサロンは、上記7カ所のサービスステーションに加えて、修理品の受渡し業務のみを行っております。ただし、修理は行っておりませんので、お急ぎのお客様は、上記7カ所のサービスステーションにお持ちください。

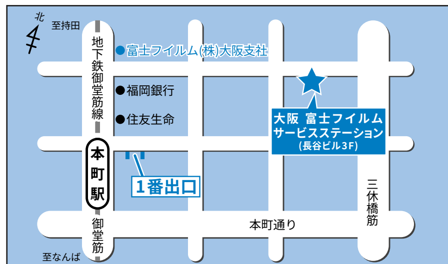
東　京：富士フォトサロン	〒104-0061	東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ	TEL（03）3571-9411
大　阪：富士フォトサロン	〒530-0001	大阪市北区梅田1-9-20 大阪マルビル	TEL（06）6346-0222

★東　京：富士フイルムサービスステーション



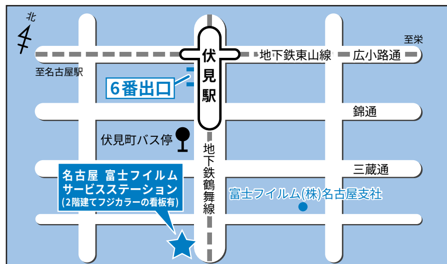
JR山手線浜松町駅北口下車　徒歩5分
TEL（03）3436-1315
【受付時間】
月～金　午前 9：00～午後5：40
土　　　午前10：00～12：00　午後1：00～4：00
✻土曜日は修理品の受渡し業務のみ行っております。

★大　阪：富士フイルムサービスステーション



地下鉄御堂筋線本町駅1番出口下車　徒歩5分
TEL（06）6260-0915
【受付時間】月～金　午前9：00～12：00　午後1：00～5：40

★名古屋：富士フイルムサービスステーション



地下鉄東山線伏見駅6番出口下車　徒歩5分
TEL（052）202-1851
【受付時間】月～金　午前9：00～12：00　午後1：00～5：40